RI*WAC
Research Institute for Women and Careers
日本女子大学現代女性キャリア研究所

RIWAC 管理番号	RJOO019
調査タイトル	「大学卒業後の生活・意識と大学評価に関する調査」
論文／雑誌名	「大学卒業 20 年後の女性の生活・生活意識・大学評価に関する調査研究」『大学卒業後 20 年後の女性の生活・意識・大学評価に関する調査報告書－女子大学出身・共学大学出身別分析結果－』
著者	代表牧野暢男 （渡邊恵子・村松幹子・中村三緒子・増田節子・牧野暢男）
掲載ページ	pp.7-93. pp.109-146.
発行年	1999.07
出版社	日本女子大学総合研究所

目　次

日本女子大学総合研究所プロジェクト

「女子大学の将来展望に関する総合的調査研究」の計画概要…… 1

第Ⅰ部　大学卒業20年後の女性の生活・生活意識・大学評価に関する調査研究…… 3

はじめに…… 4

Ⅰ. 調査目的…… 5

Ⅱ. 調査方法…… 5

1. 調査項目…… 5

1) 生活…… 5

2) 生活意識…… 6

3) 大学評価…… 7

2. 調査対象…… 9

(1) 調査対象の大学・学部・学科の決定…… 9

(2) 調査対象の決定…… 9

(3) 抽出サンプル数…… 10

(4) 実施方法…… 10

(5) 実施年月…… 10

(6) 有効サンプル数・回収率とその年齢別分布…… 10

Ⅲ. 調査結果…… 11

1. 生活…… 11

1) 職業領域…… 11

(1) 職業経験…… 11

(2) 現在の職業…… 14

2) 家庭領域・社会的領域…… 20

(1) 家庭領域…… 20

(2) 社会的活動領域…… 20

3) ライフコース…… 26

(1) 大学卒業時のライフコース希望…… 26

(2) 実際のライフコース ――過去・現在・未来予測…… 32

(3) ライフコースに対する満足度…… 36

2. 生活意識…… 38

1) 性差意識…… 38

(1) 性差意識の測定項目…… 38

(2) 全体的結果…… 38

(3) 女子大学出身者と共学大学出身者の比較 40
(4) 項目別検討 40
(5) まとめ 42
2) 育児意識 44
(1) 育児意識の測定項目 44
(2) 全体的結果 44
(3) 女子大学出身者と共学大学出身者の比較 45
(4) 項目別検討 46
(5) まとめ 48
3) 自尊心 50
(1) 自尊心の測定項目 50
(2) 全体的結果 50
(3) 女子大学出身者と共学大学出身者の比較 52
(4) 項目別検討 52
(5) まとめ 56
4) リーダーシップ 58
(1) リーダーシップの測定項目 58
(2) 全体的結果 58
(3) 女子大学出身者と共学大学出身者の比較 60
(4) 項目別検討 60
(5) まとめ 64
3. 大学評価 66
1) 在学中の大学生活への満足度 66
2) 出身大学卒業資格の有効性 71
(1) 就職における出身大学卒業資格の有効性 71
(2) 結婚における出身大学卒業資格の有効性 72
3) 大学教育の効用観 74
4) 大学時代の友人の影響 78
5) 大学時代の教師の影響 80
6) 娘への母校進学期待 86
4. 要 約 87
1) 生活 87
(1) 職業領域 87
(2) 家庭・社会的活動領域 87
(3) ライフコース 87
2) 生活意識 88

(1) 性差意識 88
(2) 育児意識 88
(3) 自尊心 88
(4) リーダーシップ 88
3) 大学評価 89
(1) 在学中の満足度 89
(2) 出身大学卒業資格の有効性 89
(3) 大学教育の効用観 89
(4) 大学時代の友人の影響 89
(5) 大学時代の教師の影響 89
(6) 娘への母校進学期待 89
おわりに 90

第Ⅱ部 大学における女子教育の生涯発達的意義 —女性は大学で何を学ぶのか— 93
1. はじめに 95
2. ミニ・シンポジウム「女性の生涯発達にとって大学教育はどのような意味をもつか」における議論の展開 95
3. 女性は卒業後に大学教育をどのように捉えているか —卒業生調査から 96
1) 大学教育は役に立っているか 96
2) 大学生活には満足していたか 97
3) 大学時代に教師から影響を受けたか 98
4. 女性にとって卒業してわかる大学教育の意義 —ある女子短期大学の場合 100
5. 女子学生にとっての大学教育・大学生活のキーワード 100
6. 大学における女性教員の存在 101
7. おわりに 102

資 料
1. 調査票 105
2. 女子大学出身・共学大学出身別クロス集計結果 114

第Ⅰ部・引用・参考文献 142
第Ⅱ部・引用・参考文献 142
関係発表論文・学会発表など 143
第Ⅰ部・執筆分担 144
第Ⅱ部・執筆 144
「女子大学の将来展望に関する総合的調査研究」 －研究メンバーと役割分担－ 145

Ⅰ. 調　査　目　的

本研究は，女性の生涯発達の視点から大学教育がどのような意味を持っているのか，共学大学と女子大学とでは学んだ内容・影響は異なるのかを，４年制私立大学の女子卒業生を対象とした質問紙調査により明らかにすることを目的とする。この目的から，調査内容として，私立４年制大学を卒業した女性が，その後職業・家庭・社会的活動・ライフコースの４領域において，どのような生活をし，どのような意識を持っているのか（生活と生活意識），そして大学において受けた教育をどのように認知・評価しているのか（大学評価）の３側面を取り上げることとした。調査対象としては，こうした調査内容の回答を求めるには，就職・結婚・出産など未確定の女性が含まれる若い世代よりも，卒業後ある程度の年数を経て生活が軌道に乗っているであろう世代の方がよいと判断し，４年制大学卒業後約 20 年を経ている年齢約 40 歳の女子卒業生とした。このさい，本プロジェクトの目的から，私立４年制の女子大学および共学大学を卒業した女性を対象として比較検討する。

Ⅱ. 調　査　方　法

１. 調 査 項 目

調査項目は，「生活」「生活意識」「大学評価」の３側面から構成することとした。いずれの側面についても，現代の女性の多様な生き方・考え方・有り様を前提にする必要があることから，諸白書・公的報告書のほか，女子大学卒業生調査として日本女子大学女子教育研究所(1968)，東京女子大学卒業生調査（1988）を検討した。さらに，「生活」では青井(1988)，柏木(1980)，牧野・村松(1994)など，「生活意識」では東京女性財団(1996)，渡邊(1996)ほかを参照した。

１）生　活

「生活」では，職業・家庭生活・社会的活動・ライフコースの４領域について，項目を作成することにした。

まず，職業および家庭生活については，どのような経験を経て，現在どのような生活を送っているかを，大学卒業直後から現在までを内容とすることにした。すなわち，職業に関する項目は，大学卒業後初めて就いた職業（初職）の仕事内容やその退職経験，現在の職業の有無，有職の場合の仕事内容・有職の理由・今後の希望，無職の場合の理由・今後の希望である。家庭生活では，結婚経験，初婚年齢，子どもの有無・数である。

つぎに，現代の成人女性においては，地域活動・ボランティア活動・講座などにおける学習活動・趣味や資格を生かした活動など，職業や家庭生活以外の活動などが活発であることから，これら社会的活動を１領域として取り上げることにした。社会的活動といっても，その内容はさまざまであるが，調査対象者が４年制大学卒業生であることや調査対象校に宗教関係校が含まれていることから，ここでは先に述べた地域活動・ボランティア活

動・講座などにおける学習活動・趣味や資格を生かした活動のほか，調停委員・民生委員といった社会的に承認されている活動，市民運動・住民運動，宗教活動を加え，7分類（項目）とし，それぞれについて社会的活動の過去の経験・現在の活動状況・今後の意欲の有無を尋ねることにした。

さらに，生活全体の過去・現在・未来を把握するために，ライフコースについて，大学卒業時の自己の希望パタン・実際のパタンと現在の位置を尋ねることにした。また，女性の職業やライフコースの選択においては，母親・父親の影響があることがすでに指摘，実証されているため，母親自身のライフコース，大学卒業時の母親・父親の娘への期待パタンも併せて尋ねることにした。

2）生活意識

「生活意識」では，性差意識・育児意識・自尊心・リーダーシップ特性の4側面を取り上げることにした。

まず性差意識を取り上げたのは，調査対象を大学卒業後約 20 年を経ている女性としたことから，男女平等への動きのなかで男女雇用機会均等法施行（1986 年）を 30 歳前後に経験し，多かれ少なかれ性差についての自己の考え方を意識させられた世代であり，それから約 10 年を経た現在の考え方を把握するためである。性差意識の項目には，4年制大学女子卒業生また女子大学卒業生の性差意識が東京都の一般女性と異なるのかを比較できるよう，東京都区市の成人男女(20 歳以上 60 歳未満)を対象とした伊藤裕子による性差意識項目(東京女性財団，1996）から，因子負荷量の大きい 18 項目を選び，これに「女は女らしく，男は男らしくするのがよいと思う」を付け加えることにした。もっとも，仮に4年制大学女子卒業生また女子大学卒業生の性差意識が東京都の一般女性と異なる結果が得られたとしても，ただちに4年制大学あるいは女子大学で学んだ影響であるとはいえないのは当然である。一般とは異なる性差意識を持って4年制の大学や女子大学へ進学したことも十分考えられるからである。この場合，少なくとも卒業後 20 年を経た現在の性差意識が社会的動向である男女平等意識に近づいているならば，4年制大学女子卒業生は性差意識の変革の力になりえていると推測できよう。

つぎに育児意識は，調査対象者が 40 歳前後の女性であり，専業主婦も多く含まれると考えられることから，取り上げることにした。育児不安・育児ノイローゼなどが育児をめぐる社会的問題となっており，発達心理学・教育心理学・教育社会学を初めさまざまな分野で研究が蓄積されつつあるが，育児を取り巻く環境の変化のなかで育児状況がケース・バイ・ケースのこともあり，今なお十分とはいえない。ここでは，育児意識測定項目として，この分野の代表的研究である柏木惠子ら（東京女子大学，1988）による尺度項目 12 項目を用い，子どもを持つ者のみに尋ねることにした。

さらに自尊心については，多くのデータから女子・女性の自尊心が男性に比べ高くないことは指摘，実証されているが，成人女性のデータや有職女性と無職女性（専業主婦）のデータは今なお不十分であることから，取り上げることにした。すでに自尊心の測定尺度

としては，代表的なローゼンバーグ尺度を初めとして多くの尺度が作成されており，わが国でも遠藤辰雄グループにより数多くの研究がされている(遠藤辰雄ほか，1992）。しかし，いずれの尺度についても，調査対象サンプルの違いもあり因子構造が異なり，自尊心の測定尺度として確定している尺度はないのが実状である。ここでは，明石弘子らが大学生を対象に作成した代表的自尊心尺度から作成した「自尊心尺度」の 12 項目を用いることにした（渡邊惠子，1996 ）。

最後にリーダーシップ特性については，その育成がとくに女子大学において建学の精神に盛り込まれており，卒業後に社会や地域における活躍が期待されていることから取り上げることにした。すでに社会的に非常に活躍した卒業生については，各大学で把握し，在学生に対してモデルとして知り得る機会を提供している。しかし，一般の卒業生がどの程度リーダーシップ特性を持って生活しているかは定かではない。ここでは，リーダーシップ研究を踏まえ，リーダーシップ特性の測定に 12 項目を作成することにした。

3）大学評価

大学の意味を学生という立場から考えた場合，専門的知識や技能を授業やゼミなどによる指導や指導を受ける教師の存在だけではなく，サークル・クラブ活動や友人関係も大きな意味を持っていることはいうまでもない。また，大学卒業後における大学の意味は，とくに女性の場合，卒業後約 20 年間の一様ではない過程で，どのような大学における経験・学習が意識・活用されたかが非常に複雑である。これらのことを前提に，「大学評価」として，大学教育がこれまで役立っているかどうかという大学教育の効用観，大学時代の教師の影響，友人の影響，大学への満足度などを取り上げることにした。

まず，大学の効用観は，先の「生活」の職業・家庭生活・社会的活動の3領域それぞれについて，大学教育がこれまで役立っているかどうかを4段階評定で回答を求めることにした。そして，「役立っている」と回答したもののみに，領域別に役立っている内容（11 選択肢）から選択させることにした。

つぎに，大学時代の教師の影響は，その程度を尋ねた上で，「影響を受けた」と回答した者のみに，その影響内容8項目について4段階評定を求めることにした。影響内容（大学で学んだ内容）の項目は，「ものごとの考え方や学び方」「研究や仕事に対する姿勢」だけでなく，「人間関係の持ち方や気配り」「自分に自信が持てるように励まされた」，さらに女性教員・男性教員別に「女性・男性のよさ」「生き方」を含めることにした。

また，大学時代の友人の影響については，その友人との現在のつきあいの程度や今後のつきあい方を尋ねることにした。

さらに，大学への在学中の満足度は，授業やゼミ，教員の指導や教員との交流，サークル・クラブ活動や友人関係，校風，施設・設備，職員の学生に対する対応の8項目について，4段階評定で回答を求めることにした。

最後に，大学進学する年頃の娘がいると仮定した場合の母校への進学期待も尋ねることにした。

具体的な調査項目は，下記の通りである。ここで，ローマ数字は質問紙の構成パートの表記で実施した順番，Qの数字は各パート内の実施した順番をさす。

(1) 職業領域（Ⅰ）

Q１大学卒業後に初めて就いた職業（初職）

SQ1 仕事内容，SQ2 就職のさい出身大学卒は有利な条件であったか

Q２初職の退職経験の有無

Q３現在の職業の有無

SQ1 仕事内容，SQ2 就職のさい出身大学卒は有利な条件であったか

（有職のみ）Q４有職の理由，Q５職業に関する今後の希望

（無職のみ）Q６無職の理由　Q７職業に関する今後の希望

(2) 家庭領域・社会的活動領域（Ⅲ）

Q１結婚経験の有無

（経験有のみ）SQ1 初婚年齢，SQ2 子どもの有無・数，

SQ3 結婚のさい出身大学卒は有利な条件であったか

Q２社会的活動（活動７種類別，A過去の経験，B現在，C今後の意欲）

(3) ライフコース（Ⅳ）

Q７ライフコースのタイプと位置

SQ1 現在の母親　　SQ2 卒業時の父親の期待　SQ3 卒業時の母親の期待

SQ4 自己の卒業時の希望　SQ5 自己の現在のタイプ　SQ6 自己の現在の位置

Q８自己のライフコースへの満足度（過去・現在別，４段階評定）

(4) 生活意識・態度（Ⅱ）

Q１性差意識（19 項目，４段階評価）

（子ども有のみ）Q２育児意識（12 項目，４段階評定）

Q３自尊心・リーダーシップ（24 項目，４段階評定）

(5) 大学評価（Ⅳ）

Q１大学教育は役立っているか（領域別評価，４段階評定）

（「役立っている」と回答した者のみ）SQ 役立っている内容（領域別選択，11 選択肢）

Q２大学生活に満足していたか（８項目別満足度，４段階評定）

Q３大学時代の友人との現在のつきあいの程度（４段階評定）

Q４大学時代の友人との今後のつきあい方（３選択肢）

Q５大学時代の教師の影響度（４段階評定）

（「影響を受けた」と回答した者のみ）

SQ1 影響の内容（８項目，４段階評定）　SQ2 影響の具体的内容（自由記述）

Q６大学に入る年頃の娘がいると仮定した場合の母校への進学期待

以上の全大学対象の調査項目に関する調査用紙（A4，７頁）を作成した（資料１参照）。

２．調　査　対　象

(1) 調査対象の大学・学部・学科の決定

本研究の目的から私立４年制の女子大学および共学大学の女子卒業生を対象とすることとしたが，大学選定に当たっては，日本女子大学を基準とし，学生数が大幅に違わない規模の都内にある私立大学であること，そして同一ないし類似した学部・学科のあることという２つの基準によることとした。第２の基準については，日本女子大学が当時家政学部児童学科・住居学科・被服学科・家政経済学科・(食物・生物・物理・数学・化学)，文学部国文学科・英文学科・史学科・社会福祉学科・教育学科の２学部・９学科であったこと(現在は 4 学部 16 学科に改組されている)から，これと同一ないし類似した学部・学科を選定した。

この選定基準に基づき，女子大学４校および共学大学６校を候補とし，優先順位をつけて交渉することにした。交渉の結果，全学的な卒業生名簿がない大学や卒業生名簿の学外機関への貸出禁止ルールのある大学があり，最終的に女子大学は日本女子大学を含めて２校，共学大学３校となった。なお，本研究のために多大なご支援，ご協力を賜わった大学名および先生方のお名前は公表できないため，各大学の先生方や同窓会の方々，そして女子卒業生の方々に，ここに紙面を借りて厚くお礼申し上げたい。

(2) 調査対象者の決定

本研究の「調査目的」において述べたように，調査対象は「卒業後ある程度の年数を経て生活が軌道に乗っているであろう４年制大学の女子卒業生」とすることとした。ここで，「卒業後ある程度の年数を経ている」という条件にしたのは，女性の場合，結婚・育児がその後の生活や意識を大きく左右するので，生活が軌道に乗り安定し，あらためて過去を見直し今後の見通しを持てる方がよいと判断したことによる。

調査対象者の決定基準は，つぎの３つとした。

１：４年制大学卒業後，15 年以上

２：平均的ライフ・ステージから 35 歳以上

３：男女雇用機会均等法施行（1986 年）を 30 歳以前に経験した者とそれ以降の者

この３基準に基づき，調査対象者は「1978 年３月および 1981 年３月に４年制大学を卒業した女性」とした。

(3) 抽出サンプル数

女子大学２校および共学大学３校の卒業生名簿より，無作為抽出によりサンプルを抽出した。大学別抽出サンプル数は下記の通り。

女子大学2校	1,814名
共学大学3校	2,455名
合　計	4,269名

(4) 実施方法　　郵送法

(5) 実施年月　　１９９７年２月～８月

(6) 有効サンプル数・回収率とその年齢別分布

有効サンプル数は，下記の通り。

女子大学	998名
共学大学	1,060名
合　計	2,058名

（回収率　48.2%）

ただし，有効サンプル数は有効回答の最大値を示し，ごく一部の項目に記入もれや記入スなどがあるため，項目により有効分析総人数が異なっている。

有効サンプル数の年齢別内訳は，下記の通り。

	女子大学		共学大学	
人　数	994名	(100.0%)	1,055名	(100.0%)
37-38歳	381	(38.3)	371	(35.1)
39-40歳	140	(14.0)	177	(16.8)
41-42歳	458	(46.1)	465	(44.0)
43-44歳	14	(1.4)	24	(2.3)
45歳以上	1	(0.1)	18	(1.8)
平　均	39.70歳		39.91歳	

Ⅲ．　調　　査　　結　　果

調査結果に関して，本稿では項目別単純集計結果を踏まえながら，女子大学出身者と共学大学出身者の比較分析を報告する（項目別クロス集計結果は資料２参照）。

１．　生　　活

１）職業領域（Ｉ）

（１）職業経験

Ｑ１．大学卒業後の職業経験――女子大学・共学大学出身にかかわらず，９割はフルタイム経験あり（図１－１）

大学卒業後の職業経験を「１．フルタイム」「２．パート・アルバイト・内職」「３．自営（家業を含む）」「４．就いたことがない」の４選択肢で回答を求めたところ，全体では「１．フルタイム」が 88.4%とほとんどを占めており，「２．パート・アルバイト・内職」が 7.0%，「３．自営（家業を含む）」が 2.4%，「４．就いたことがない」が 2.1%である。約９割は職業経験としてフルタイム経験を持っている。

これを女子大学・共学大学別にみると，出身大学別の比率には有意差はなく（$\chi^2 = 2.835, p>0.10$）女子大学出身者の 88.5%，共学大学出身者の 88.3%が職業経験としてフルタイム経験を持っている（図１－１）。

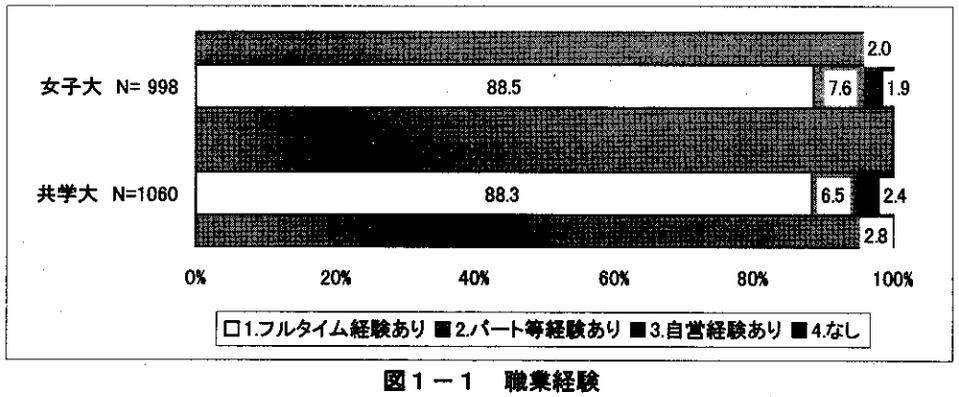


図１－１　職業経験

Q１-SQ1．大学卒業後に初めて就いた職業の仕事内容

――５割強が事務職，４割弱が専門職だが，

専門職は女子大学出身者の方が多い（図１－２）

大学卒業後に初めて就いた職業の仕事内容を「１．専門」「２．事務」「３．販売」「４．その他」の４選択肢で回答を求めたところ，全体では第１位が事務 52.9%，第２位が専門 35.6%と大きく２分され，ついでその他 8.4%，販売 3.1%の順である。つまり，仕事内容は半数以上が事務職であるが，専門職も４割弱おり，大きく事務職と専門職に分かれている。

これを女子大学・共学大学別にみると，出身大学別の比率に有意差があり（$\chi^2=22.235$, $p<0.001$），事務職に就いた者は女子大学出身者 49.0%，共学大学出身者 56.6%と共学大学出身者の方が女子大学出身者より多く，専門職に就いた者は女子大学出身者 40.7%，共学大学出身者 30.8%と女子大学出身者の方が共学大学出身者より多い（図１－２）。

この仕事内容については，女子大学・共学大学とも，それぞれ大学別にも全体として差がみられるが，それでも専門職の比率はいずれの女子大学の出身者でも，いずれの共学大学の出身者より多くなっている。すなわち，大学卒業後に初めて就いた職業（初職）の仕事内容が，事務職である者が５割強いるが，共学大学出身者の方が多く，専門職である者も約４割おり，女子大学出身者の方が多い。ただし，この結果はあくまでも調査対象校の私立４年制大学女子卒業生の回答結果であり，調査対象校以外の４年制大学女子卒業生の場合には一般化できない。調査対象校はあくまでも日本女子大学を基準に選定しているからである。なお，日本女子大学の場合，理系専門学科のある家政学部の方が文学部より専門職が多い(小林･村松，1998)。

Q２．初職の退職経験

――女子大学・共学大学出身にかかわらず，８割強が初職を退職（図１－３）

大学卒業後の最初の勤務先（初職の会社など）を退職した経験の有無を尋ねたところ，全体として 84.2%の者は「１．ある」と回答している。８割強が初職を退職しており，「２．ない」回答している者は 15.8%しかいない。

これを女子大学・共学大学別にみると，初職を退職している者は女子大学出身者 85.5%，共学大学出身者 83.0%，初職を退職していない者は女子大学出身者 14.5%，共学大学出身者 17.0%と，出身大学別の比率には有意差がない（$\chi^2=2.424$, $p>0.10$；図１－３）。初職の退職年齢や退職理由については，日本女子大学卒業生の退職経験者（全体の 82.3%）のみに尋ねているが，その９割強が 20 歳代で，56.7%が結婚・出産・育児という理由で退職している(小林･村松，1998)。私立４年制大学を 1980 年前後に卒業した女性の８割強が，女子大学か共学大学かにかかわらず，初職を退職していること自体，社会的には大きな問題といわざるをえない。

*** : $p < 0.001$

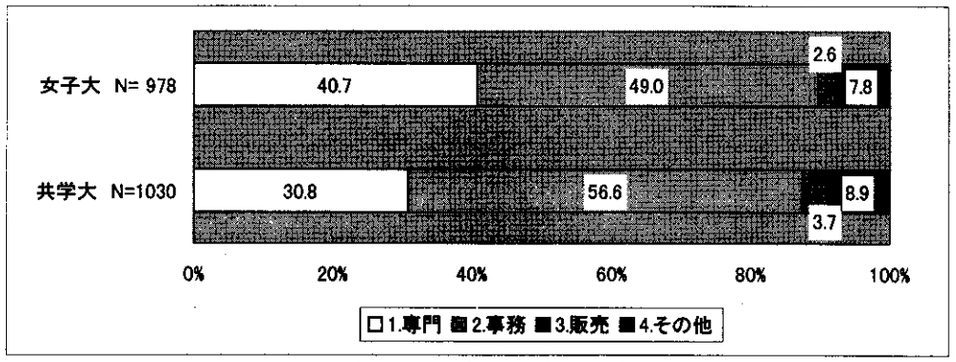


図１－２　初職の仕事内容

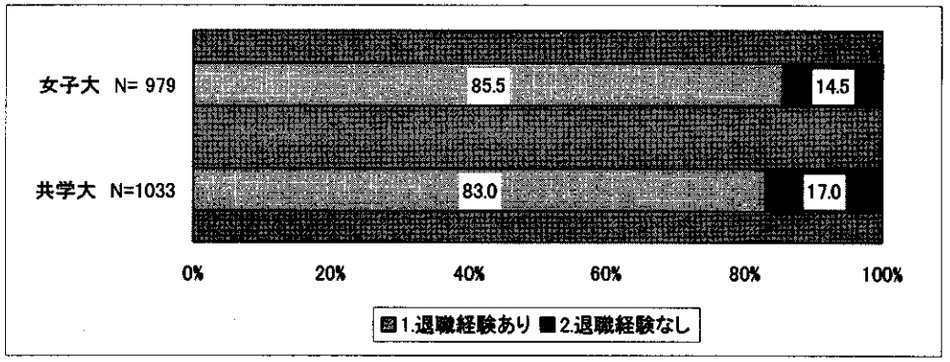


図１－３　初職の退職経験

（２）現在の職業

Ｑ３．現在の職業の有無

――有職が５割強，無職が５割弱だが，パート・フルタイムは共学大学出身者の方が多く，無職は女子大学出身者の方が多い（図１－４）

現在の職業は，全体では無職 45.5%，パートタイム・内職 25.5%，フルタイム 17.4%，自営 11.7%（家業を含む）であり，無職がもっとも多く半数弱であるが，パートタイム・内職・フルタイム・自営を合計すると 54.6%（ 924 名）となり，平均年齢 40 歳の現在も，４年制大学の女子卒業生の半数以上の者が何らかの形で働いている。

これを大学別にみると，無職は女子大学出身者 50.4%・共学大学出身者 40.6%と，パートタイムはそれぞれ 23.8%・ 27.2%，フルタイムはそれぞれ 15.2%・ 19.5%であり，出身大学別に有意差がある（$\chi^2=17.016$，p=0.001；図１－４）。すなわち，女子大学出身者の方が無職が多く，共学大学出身者の方がパートタイム・フルタイムともに多くなっている。

なお，この設問では全体として大学別比率に差があり，とくにある共学大学出身者が他４大学出身者より無職が少なく，パートタイム・フルタイムともに多くなっており，自営を含めると７割が何らかの形で働いている。

Ｑ３-SQ1．現在の職業の仕事内容

――５割が専門職で，女子大学出身者の方が専門職が多い（図１－５）

現在の職業の仕事内容を有職の者（921 名）に尋ねたところ，全体では第１位が専門 49.4%，第２位が事務 27.3%と２つに分れ，販売は 6.2%であり，専門職がもっとも多く約半数である。

この結果を初職の結果（図１－２）と比較すると，初職では第１位が事務 52.9%，第２位が専門 35.6%であったが，平均年齢 40 歳の現在は逆転して第１位が専門 49.4%，第２位が事務である。これは，有職率が初職の 97.9%（2,014 名）から 44.9%（924 名）に減少しており，専門職ならば職業継続の可能性が高いことを示していよう。

つぎに，現在の職業の仕事内容を大学別（女子大学出身者 415 名・共学大学出身者 506 名）にみると，専門は女子大学出身者 54.2%（ 225 名）・共学大学出身者 45.5%（ 230 名），事務はそれぞれ 23.1%（96 名）・ 30.6%（ 155 名），販売は 5.1%（21 名）・ 7.1%（36 名）であり，有意差がみられた（$\chi^2=9.887$，$p<0.05$；図１－５）。すなわち，専門は女子大学出身者が多く，事務は共学大学出身者の方が多くなっている。

この結果を初職の結果（図１－２）と比較すると，初職では事務が女子大学出身者 49.0%（ 479 名）・共学大学出身者 56.6%（ 583 名），専門がそれぞれ 40.7%（ 398 名）・ 30.8%（ 317 名）であり，事務は共学大学出身者の方が多く，専門は女子大学出身者が多い傾向にあり，現職でもその全体の傾向は変化していない。とはいえ，事務では女子大学出身者 383 名減・共学大学出身者 428 名減，専門ではそれぞれ 173 名減・ 87 名減であり，事務職の方が減少している。

*** ： p < 0.001

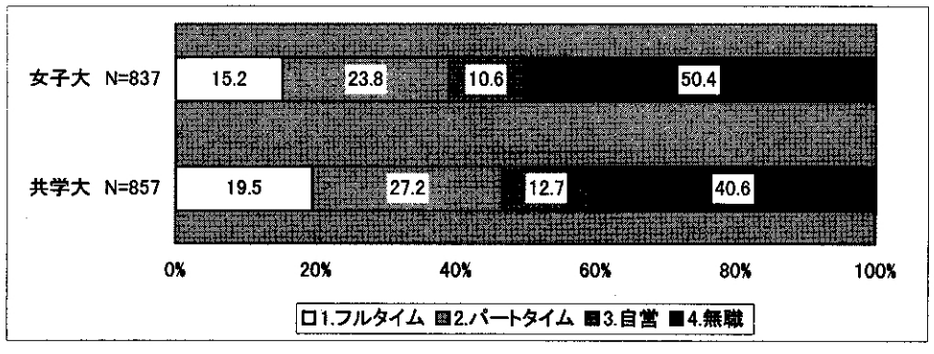


図１－４　現在の職業の有無

* ： p < 0.05

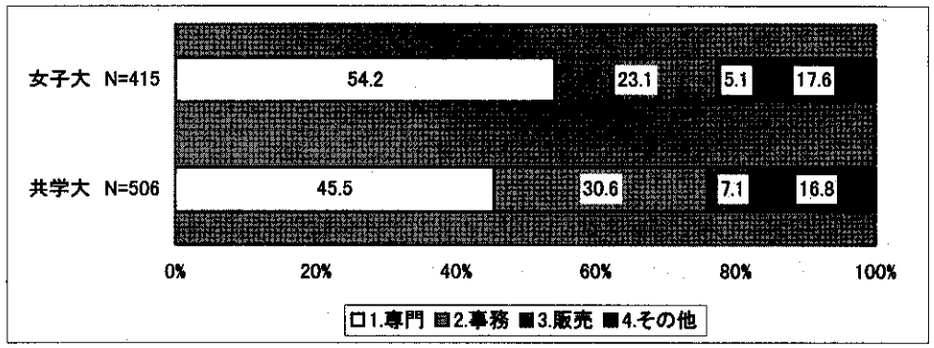


図１－５　現在の職業の仕事内容

Q４．現在有職者の有職の理由――女子大学・共学大学出身にかかわらず，経済的理由と自己実現的理由（図１－６）

現在職業を持っている理由を，「１.生活の維持・貯蓄」「２.自分の収入」「３.能力活用」「４.生活に変化・充実感」「５.友人・知人を得る」「６.仕事が好き」「７.社会貢献」「８.家業」「９.その他」の９選択肢から，第１位および第２位の理由をそれぞれひとつあげてもらった。

その結果，第１位の理由には，全体では「１.生活の維持・貯蓄」がもっとも多く 30.8%，ついで「３.能力活用」24.2%，「２.自分の収入」14.0%，「４.生活に変化・充実感」12.7%，「８.家業」 9.0%で，他の回答は３%以下であった。経済的理由である「１.生活の維持・貯蓄」と「２.自分の収入」を合計すると 44.8%，自己実現につながる「３.能力活用」「４.生活に変化・充実感」を合計すると 36.9%に及んでいる。つまり，平均年齢 40 歳の４年制大学の女子卒業生の働いている理由は，経済的理由と自己実現的理由の２つの理由にほぼ２分され，前者が４割強，後者が４割弱であるといえる。

これを女子大学・共学大学別にみると，出身大学別の比率に有意差がなく（χ^2=1.952, p>0.10），「１.生活の維持・貯蓄」を第１位にあげている者は女子大学出身者の 31.2%・共学大学出身者の 30.5%，ついで「３.能力活用」25.0%・ 23.4%，「２.自分の収入」13.9%・ 14.1%，「４.生活に変化・充実感」12.1%・ 13.2%，「８.家業」9.2%・ 8.8%であった（図１－６）。

なお，この設問では２校で経済的理由が５割を越え，２校で自己実現的理由が５割を越えている。

Q５．有職者の職業に関する今後の希望

――女子大学・共学大学出身にかかわらず，８割が現職継続希望（図１－７）

有職者に，職業に関する今後の希望を「１.他の仕事に移りたい」「２.今の仕事をやめるわけにはいかない」「３.今の仕事をそのまま続けたい」「４.その他」の４選択肢で尋ねたところ，「３.今の仕事をそのまま続けたい」という現職積極的継続希望者が 59.3%ともっとも多く，ついで「２.今の仕事をやめるわけにはいかない」という現職退職不可能者（現職消極的継続希望者）は 20.3%であり，「１.他の仕事に移りたい」という転職希望者は 11.2%であった。現職積極的継続希望者と現職消極的継続希望者を加えると，79.6%にもなる。このように，平均年齢 40 歳の有職者の８割は現職継続希望であり，転職希望者は１割しかいず，現職継続意欲が高いといえる。

これを女子大学・共学大学別にみると，出身大学別の比率に有意差がなく（χ^2=2.768, p>0.10），現職積極的継続希望者は女子大学出身者 57.7%・共学大学出身者 60.5%，現職消極的継続希望者は 19.9%・ 20.6%，転職希望者は 11.8%・ 10.8%であった（図１－７）。現職積極的継続希望者と現職消極的継続希望者を加えると，女子大学出身者は 77.6%・共学大学出身者 81.1%であった。

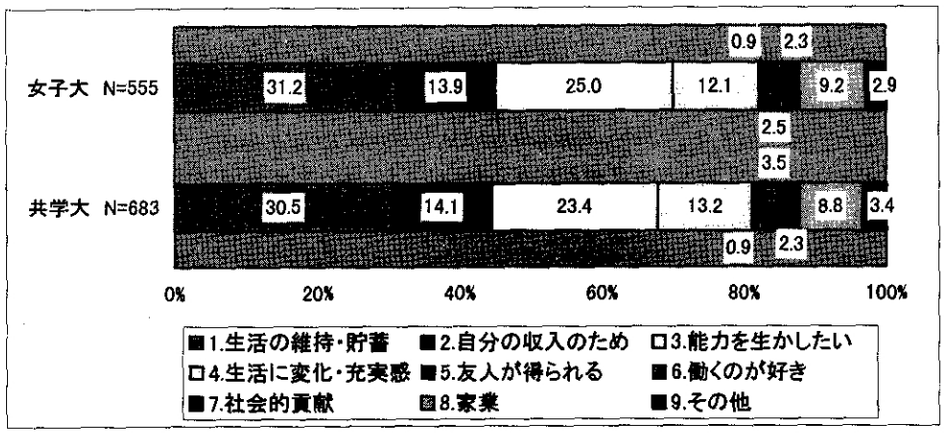


図１－６　有職者の現在有職の理由（第１位）

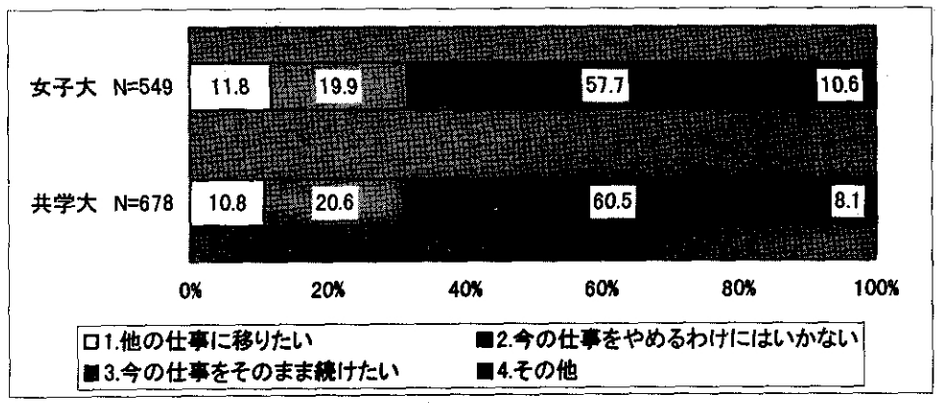


図１－７　有職者の職業に関する今後の希望

Q６．現在無職者の無職の理由――女子大学・共学大学出身にかかわらず，
５割強が積極的に家事・育児に専念（図１－８）

現在無職の者に，その理由を「１.適当な仕事がない」「２.夫や家族の反対」「３.家事や育児に専念したい」「４.高齢者・病人の世話」「５.趣味を充実させたい」「６.ボランティアをしたい」「７.時間や組織に縛られたくない」「８.働く必要がない」「９.疲れる・健康上の理由」「10.その他」の 10 選択肢から，第１位および第２位の理由をそれぞれひとつあげてもらった。

その結果，第１位の理由として，全体では「３.家事や育児に専念したい」が 53.9%ともっとも多く，ついで「１.適当な仕事がない」の 13.5%であり，他の理由はいずれも 10%以下であった。このように，平均年齢が約 40 歳の調査対象者の５割強は積極的に家事や育児に専念する無職の生活を選択しているが，半数弱はさまざまな理由をかかえて必ずしも積極的に無職の生活を選択しているのではなさそうである。このことは，第２位の理由をみると「１.適当な仕事がない」が 28.6%ともっとも多くなり，ついで「８.働く必要がない」が 18.3%，「７.時間や組織に縛られたくない」が 13.2%と続くことからもわかる（他の理由はいずれも 10%以下）。すなわち，必ずしも積極的に無職の生活を選択しているのではない半数弱の者の中に，適当な仕事があれば働きたい者や時間や組織に縛られないなら働きたい者が４割強，働く必要がない限り働きたくない者が２割弱いるのである。

これを女子大学・共学大学別にみると，出身大学別の比率に有意差がなく（$\chi^2=8.465$, $p>0.10$），「３.家事や育児に専念したい」が女子大学出身者 53.1%・共学大学出身者 54.9%，ついで「１.適当な仕事がない」が女子大学出身者 14.5%・共学大学出身者 12.3%であり，他の理由はいずれも 10%以下であった（**図１－８**）。

Q７．無職者の職業に関する今後の希望――女子大学・共学大学出身にかかわらず，
６割が「何か職業を持ちたい」と回答（図１－９）

現在無職の者に，「今後何か職業を持ちたいと思っているかどうか」を「１.もちたいと思う」「２.もちたいとは思わない」「３.わからない」の３選択肢で尋ねた。

その結果，全体では「１.もちたいと思う」が 61.8%でもっとも多く，ついで「３.わからない」が 25.0%，「２.もちたいとは思わない」が 13.1%でもっとも少ない。すなわち，現在無職の者の６割が「何か職業を持ちたい」と思っており，先の無職の理由の結果と併せてみると，少なくみても半数以上が必ずしも積極的に無職の生活を選択しているのではなく，将来何らかの仕事をもちたいと考えているといえる。現在無職で，将来も働きたくない者は１割強で，平均年齢 40 歳の４年制大学出身者の中では完全に少数派といえる。

これを女子大学・共学大学別にみると，出身大学別の比率に有意差がなく（$\chi^2=1.892$, $p>0.10$），「１.もちたいと思う」が女子大学出身者 59.8%・共学大学出身者 64.3%，ついで「３.わからない」がそれぞれ 26.0%・ 23.9%，「２.もちたいとは思わない」が 14.3%・11.8%であった（**図１－９**）。

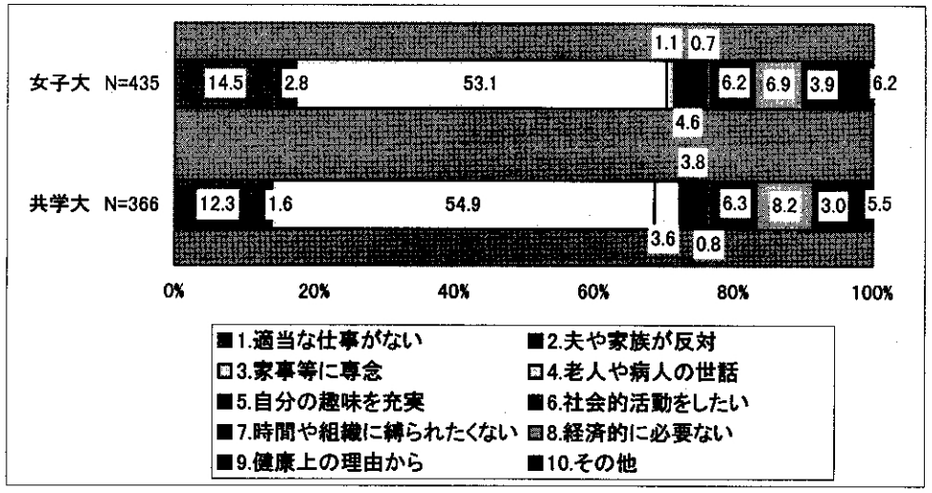


図１－８　無職者の現在無職の理由

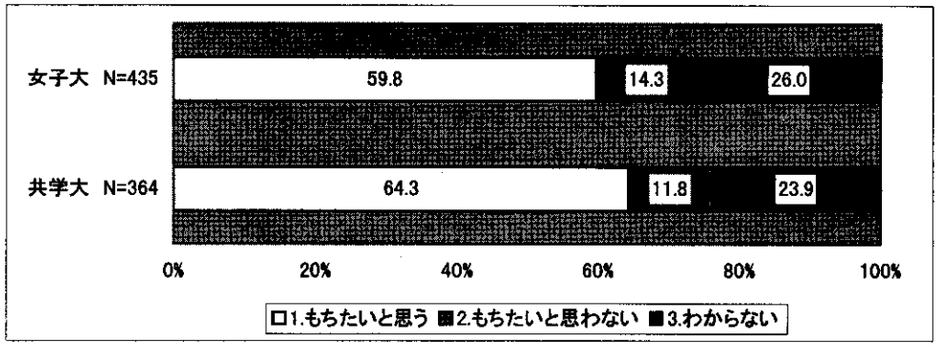


図１－９　無職者の職業に関する今後の希望

2）家庭領域・社会的領域（Ⅲ）

(1) 家庭領域

Q１．結婚経験の有無

結婚経験について，「１.既婚（再婚も含む)」「２.夫と死別または離別」「３.未婚」の３選択肢で尋ねたところ，全体では既婚が 84.2%，未婚が 12.3%，死別・離別が 3.5%であり，既婚と死別離婚を合わせると，９割弱が結婚経験をもっている。

Q１-SQ1．初婚年齢

Q１で「１.既婚（再婚も含む)」,「２.夫と死別または離婚」と答えた人に，初婚年齢を記入で求めたところ，最低 20 歳から最高 43 歳に分布しているが，20～23 歳が 9.7%，24～27 歳が 65.0%，28～31 歳が 18.5%，32 歳以上が 7.3%であった。

Q１-SQ2．子どもの有無と人数

子どもの有無と人数（記入）を尋ねたところ，子どもが「０.いない」が 12.5%，子どもが「１.いる」が 87.6%，子どもが「いる」場合の人数は，２人が 49.4%ともっとも多く，ついで１人が 19.2%，３人が 17.5%，４人が 1.3%，５人が 0.2%であった。

(2) 社会的活動領域

職業以外の社会的活動について，「１.趣味や資格を生かした活動」「２.社会的に承認された活動（調停委員・民生委員)」「３.各種地域社会活動（ＰＴＡ活動・自治会・町内会活動)」「４.ボランティア活動（社会福祉・環境保護など)」「５.宗教活動」「６.大学開放講座・市民講座への参加」「７.市民運動・住民運動」「８.その他」の８選択肢をあげ，「A 過去にしたことがあるもの」「B 現在しているもの」「C 今後したいもの」を複数回答可で尋ねた。

Q２．A 過去の社会的活動経験――女子大学・共学大学出身にかかわらず，「地域活動」「趣味や資格」「学習講座への参加」を経験（図１－10）

過去にしたことがある社会的活動経験で最も多かったものは，「３.各種地域社会活動（ＰＴＡ活動・自治会・町内会活動)」で 38.1%，ついで「１.趣味や資格を生かした活動」32.4%，「６.大学開放講座・市民講座への参加」22.1%，「４.ボランティア活動（社会福祉・環境保護など)」13.0%であった。「７.市民運動・住民運動」「５.宗教活動」は，それぞれ 3.7%，3.2%しかいなかった。このように，第１位の「各種地域社会活動（ＰＴＡ活動・自治会・町内会活動)」は約４割の者が過去に経験しているが，調査対象者の 87.6%が子どもを持っているので，おそらく地域活動の内容はＰＴＡ活動であると推測される。ついで第２位が「趣味や資格を生かした活動」経験者は約３割，第３位が「大学開放講座・市民講座への参加」経験者は約２割であった。すなわち，過去の社会的活動経験の主な３つは，「地域社会活動」（主にＰＴＡ活動),「趣味や資格を生かした活動」,「大学開放講座・市民講座への参加」である。

これを女子大学・共学大学出身別にみると，全体としてはその比率にほとんど差がないが，第１位の「地域社会活動」経験者は女子大学出身者 41.9%・共学大学出身者 34.6%，第２位の「趣味や資格を生かした活動」経験者はそれぞれ 30.1%・34.6%，第３位が「大学開放講座・市民講座への参加」経験者は 25.8%・18.6%であった（図１－10)。すなわち，過去の社会的活動経験の主な３つの内容（「地域社会活動」（主にＰＴＡ活動),「趣味や資格を生かした活動」,「大学開放講座・市民講座への参加」）のうち,「地域社会活動」と「大学開放講座・市民講座への参加」では，女子大学出身経験者の方が共学大学出身経験者より若干経験比率が高く，女子大学出身経験者の経験内容はこの３つに若干偏っている。他方，共学大学出身経験者の方が若干経験比率が高いのは,「趣味や資格を生かした活動」と「ボランティア活動」である（女子大学出身経験者 12.4%・共学大学出身経験者 13.6%)。

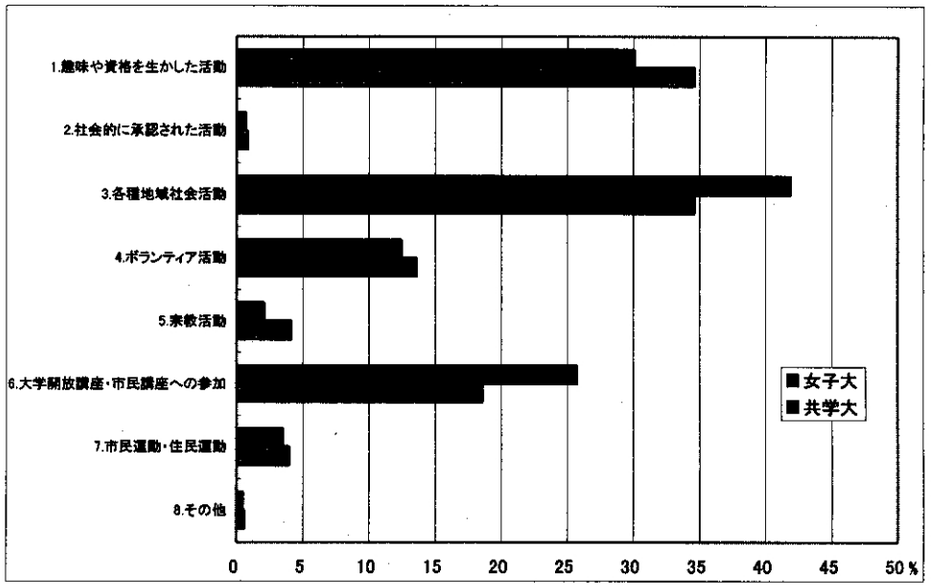


図１－10　A.過去の社会的活動経験

Q２．B 現在している社会的活動――女子大学・共学大学出身にかかわらず，
「地域活動」「趣味や資格を生かした活動」を実践中（図１－11）

現在している社会的活動経験で最も多かったものは，「３．地域社会活動（ＰＴＡ活動・自治会・町内会活動）」で 37.9%，ついで「１．趣味や資格を生かした活動」は 35.4%，「４．ボランティア活動」は 9.5%であり，他はいずれも 10%以下であった。このように，現在している社会的活動の主な２つは，「地域社会活動」と「趣味や資格を生かした活動」である。

これを女子大学・共学大学出身別にみると，全体としてはその比率にほとんど差がないが，「地域社会活動」実践者は女子大学出身者 38.6%・共学大学出身者 37.2%，「趣味や資格」はそれぞれ 35.6%・ 35.2%であった（図１－11)。すなわち，現在の社会的活動経験の主な２つの内容（「地域社会活動」「趣味や資格」）では，いずれも女子大学出身実践者の方が共学大学出身実践者より若干実践比率が高く，女子大学・共学大学出身実践者とも，実践内容はこの２つに偏っている。

Q２．C 将来の社会的活動希望――女子大学・共学大学出身にかかわらず，
「学習講座への参加」「ボランティア活動」「趣味や資格」を希望（図１－12）

将来したい社会的活動で最も多かったものは，「６．大学開放講座・市民講座への参加」で 47.2%，ついで「４．ボランティア活動」43.3%，「１．趣味や資格を生かした活動」41.2%，「２．社会的に承認された活動（調停委員・民生委員)」13.6%であり，他はいずれも 10%以下であった。このように，将来したい社会的活動の主な３つは，「学習講座への参加」「ボランティア活動」「趣味や資格を生かした活動」である。

これを女子大学・共学大学出身別にみると，全体としてはその比率にほとんど差がないが，「学習講座への参加」希望者は女子大学出身者 46.1%・共学大学出身者 48.3%，「ボランティア活動」希望は女子大学出身者 42.5%・共学大学出身者 44.2%，「趣味や資格」希望はそれぞれ 42.1%・ 40.3%であった（図１－12)。すなわち，将来したい社会的活動経験の主な３つは「学習講座への参加」「ボランティア活動」「趣味や資格を生かした活動」である。「学習講座への参加」と「ボランティア活動」では，共学大学出身希望者の方が女子大学出身希望者より若干希望比率が高く，また「趣味や資格を生かした活動」では，女子大学出身者希望者の方が共学大学出身希望者よりも若干多い。どちらの大学出身希望者でも希望内容はこの３つに若干偏っている傾向がある。

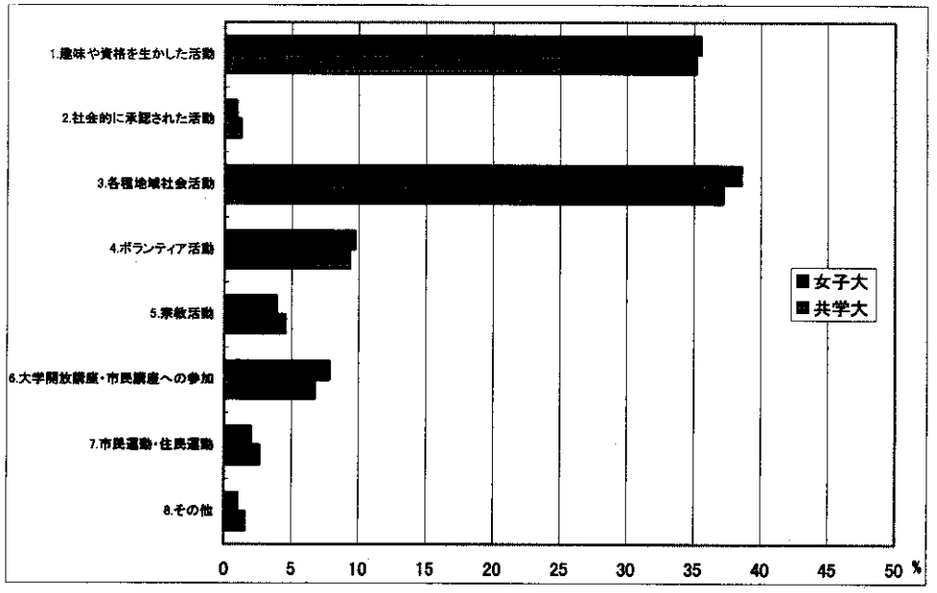


図１－11　B.現在している社会的活動

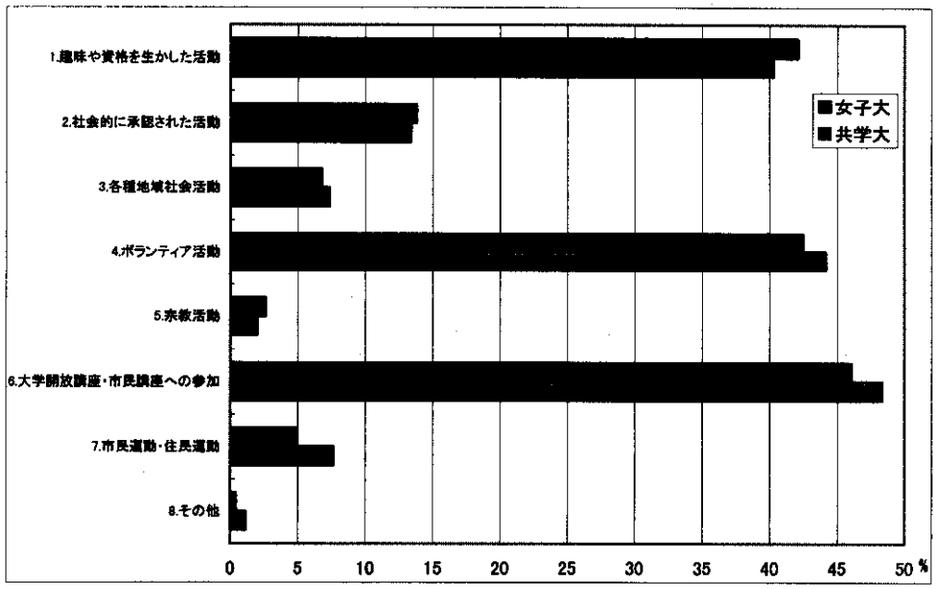


図１－12　C.将来の社会的活動希望

Q．ＡＢＣ社会的活動の過去の経験・現在の実践と将来の希望

――「学習講座参加」を『きっかけ』や『基礎知識』に

『地域活動の担い手』から『地域活動のリーダー』へか（表１－１；図１－13）

ここでは，社会的活動の経験者・実践者・希望者が多い内容について，過去の経験・現在の実践・将来の希望の３者の全体傾向を比較する。結果を示す表１－１をみると，過去の経験者および現在の実践者が約４割いる第１位の「地域活動」（主にＰＴＡと推測）の将来希望は１割弱に激減し，その経験者・実践者が約３割いる第２位の「趣味や資格を生かした活動」の将来希望は４割強に増加している。過去に経験があり現在も実践中であるものの，将来活動希望の強いのは，「大学開放・市民講座への参加」と「ボランティア活動」である。このように，「地域活動」は，約４割が経験があったり現在実践中でありながら，ほとんどが今後の活動希望はない。これと対照的なのが「趣味や資格を生かした活動」で，約３割が経験があったり現在活動中であり，かつ今後はさらに活動したいという希望が多い。また，これらのパタンと異なり，約１，２割が経験がありながら，現在はあまり活動していないものの，今後の活動希望がきわめて強いのが，「ボランティア活動」「大学開放・市民講座への参加」である。

ところで，調査対象とした４年制大学卒業生の場合，その 87.6%が子どもを持っていることから，「地域活動」の内容は PTA 活動である，「ボランティア活動」は地域と密着している，そして子どもの成長とともに「地域活動」から「ボランティア活動」へと移行していくと推測される。したがって，これらの結果は，調査対象とした４年制大学卒業者の約半数が，「地域活動」として，年齢約 40 歳までは子育てを中心にＰＴＡ活動などを経験し，その後はボランティア活動を希望するパタンを示しているといえよう。言い換えると，４年制大学女子卒業生がＰＴＡ活動などやボランティア活動といった『地域活動の担い手』となり，『地域活動のリーダー』の役割を果たす傾向を示していよう。そして，「大学開放・市民講座への参加」は，おそらくこうした『地域活動の担い手』『地域活動のリーダー』への『きっかけ』や『基礎知識』となっているのではないだろうか。

表１－１　社会的活動の過去の経験・現在の実践と将来希望

（注）いずれかで 10%以上

	過　去	現　在	将　来	過去・現在・将来
各種地域活動（PTA・自治会・町内会活動）			7.1%	過去＝現在＞将来
趣味や資格を生かした活動				過去＝現在＜将来
大学開放・市民講座への参加		7.2		過去＞現在＜将来
ボランティア活動（社会福祉・環境保護など）	④ 13.0	9.5		過去＞現在＜将来
社会的に承認された活動	0.8	1.1	13.6	過去＝現在＜将来

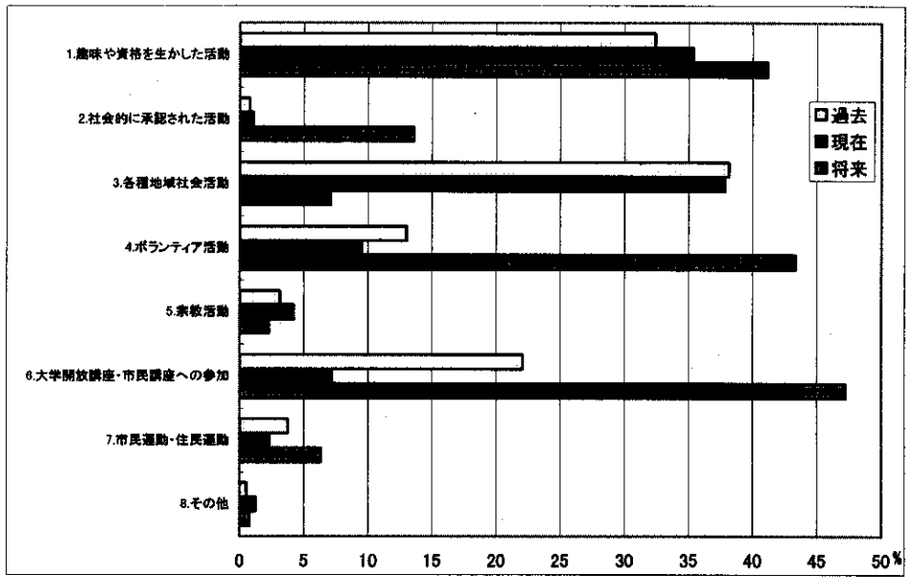


図１－13　社会的活動の過去の経験・現在の実践と将来希望

3）ライフコース（ⅣQ７・Q８）

ライフコースについては，下表の５パタン・ 12 タイプを言葉と図示により示し，各設問に対して回答を求めた（表１－２）。

表１－２　女性のライフコースのパタン・12タイプ・34位置

パ タ ン	タイプ	結婚　出産	仕事	結婚・出産・仕事のパタン
勤 続 型	A	－　－	仕事－－－－－－－－－→仕事継続	仕事
	B	結婚　－	仕事－結婚－－－－－→仕事継続	仕事・家事
	C	結婚　出産	仕事－結婚－出産－－－→仕事継続	仕事・家事・育児
再参入型	D	結婚　出産	仕事－結婚退職－出産→仕事開始	仕事・家事
	E	結婚　出産	仕事－結婚－出産退職→仕事開始	仕事・家事・育児
退 職 型	F	結婚　－	仕事－結婚退職	仕事－家事
	G	結婚　出産	仕事－結婚退職・出産	仕事－家事・育児
	H	結婚　出産	仕事－結婚－出産退職	仕事－家事・育児
後半就職型	I	結婚　出産	結婚－仕事開始－出産→仕事継続	家事－仕事－育児
	J	結婚　出産	結婚－出産－仕事開始→仕事継続	結婚・育児－仕事
無 職 型	K	結婚　－	結婚	家事
	L	結婚　出産	結婚－出産	家事・育児

（注）各設問に応じて，上記５パタンのうちの 12 タイプのいずれかを選択させ， SQ6 のみで 34 の位置番号を記入してもらった。

(1) 大学卒業時のライフコース希望

①大学卒業時のライフコース希望(SQ4)

――女子大学・共学大学出身にかかわらず，

４割強は結婚・出産しても職業継続，３割は専業主婦，２割は再就職を希望

大学卒業の頃，どのライフコースを望んでいたか（大学卒業時のライフコース希望）を尋ねた結果を５パタン別にみると，もっとも多かった型は，「勤続型希望」で 42.3%，ついで「退職型希望」30.6%，「再参入型希望」が 21.7%であり，「無職型希望」は 4.8%，「後半就職型希望」は 0.7%であった。つまり，４年制大学女子卒業生は大学卒業時に，その４割強は結婚・出産をする・しないにかかわらず職業継続を希望していたこと，３割は結婚・出産により退職した完全専業主婦を希望していたこと，そして２割強は結婚・出産により一時退職するものの，再就職したいと希望していた。

つぎに，大学卒業時の希望をライフコース・タイプ別にみると，もっとも多いのは「勤続型Ｃタイプ希望(結婚・出産するが，仕事も継続するﾀｲﾌﾟ）」で 31.8%，ついで「退職型Ｇタイプ希望(当初仕事はするが結婚退職し家事・育児に専念する専業主婦ﾀｲﾌﾟ)」が 20.1%，「再参入型Ｅタイプ希望(当初仕事はするが出産退職し，その後仕事を再開する再就職ﾀｲﾌﾟ)」が 14.3%であった。

これを女子大学・共学大学別×タイプ別にみると，全体としてはその比率に有意差がなく（$\chi^2=0.753$, $p>0.10$），「勤続型希望」は女子大学出身者の 41.5%・共学大学出身者の 43.1%，「退職型希望」はそれぞれ 31.1%・ 30.0%，「再参入型希望」は 21.9%・ 21.4%

であった（図１－14）。

また，女子大学・共学大学別×タイプ別にみても，その比率にほとんど差がなく，「勤続型Ｃタイプ希望」で女子大学出身者の 32.2%・共学大学出身者の 31.4%，「退職型Ｇタイプ希望」はそれぞれ 20.4%・ 19.7%，「再参入型Ｅタイプ希望」は 14.1%・ 14.6%であり，他はいずれも 10%以下であった。すなわち，大学卒業時に希望していたライフコース・タイプは，女子大学・共学大学出身にかかわらず，約３割が結婚・出産しても仕事を継続する「勤続型Ｃタイプ希望」，約２割が結婚退職をして専業主婦になる「退職型Ｇタイプ希望」， 1.4 割が出産退職・育児後再就職の「再参入型Ｅタイプ希望」であった。

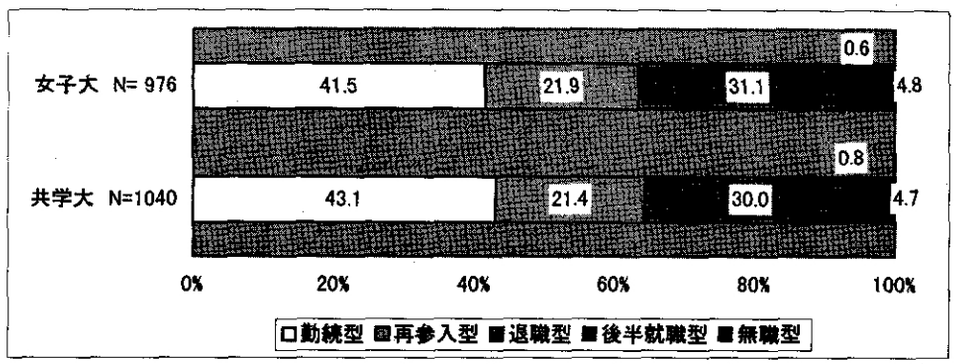


図１－14　大学卒業時のライフコース希望

② 母親の大学卒業時の娘に対するライフコース希望(SQ3)

——半数が「退職型希望」だが，女子大学出身の娘を持つ母親の方がやや多く，3割弱は「勤続型希望」で，共学大学出身の娘を持つ母親の方がやや多い

母親が大学卒業時の娘に希望していたライフコース・パタンの第1位は「退職型希望」で46.5%，ついで「勤続型希望」26.7%，「再参入型希望」17.8%で，「無職型希望」は 8.5%であった。大学卒業時に母親の半数弱が娘に，仕事に就いても結婚・出産で退職し専業主婦になる「退職型希望」を希望しており，結婚・出産にかかわらず仕事を続ける「勤続型希望」の母親は3割弱であった。

また，母親が大学卒業時の娘に希望していたライフコース・タイプの第1位は，結婚退職後専業主婦の「退職型Gタイプ希望」で31.3%，ついで「勤続型Cタイプ希望」23.2%，「退職型Hタイプ希望」10.8%，「再参入型Eタイプ希望」10.2%と続き，他は 10%以下であった。

つぎに，母親の娘に対する希望パタン別に，娘が女子大学出身か共学大学出身かをみると，若干の有意差がある（$\chi^2=7.922$，$p<0.10$)。「退職型希望」は女子大学出身の娘を持つ母親の 47.9%・共学大学出身の娘を持つ母親の 45.3%，ついで「勤続型希望」でそれぞれ25.6%・27.7%，「再参入型希望」は17.0%・18.5%で，「無職型希望」や「後半就職型希望」はわずかであった（ 8.5%・ 0.5%；図1－15)。すなわち，娘に対して「退職型希望」は女子大学出身の娘を持つ母親の方がやや多く，「勤続型希望」は共学大学出身娘を持つ母親の方がやや多い。

さらに，母親の娘に対する希望 12 タイプ別に，娘が女子大学出身か共学大学出身かによりみると，ほとんど差がみられない。すなわち，第1位の「退職型Gタイプ希望」は女子大学出身の娘を持つ母親の 31.3%・共学大学出身の娘を持つ母親の 31.3%，ついで「勤続型Cタイプ希望」はそれぞれ22.2%・24.1%，「退職型Hタイプ希望」は11.1%・10.4%，「再参入型Eタイプ希望」 9.2%・11.1%であった。

③ 父親の大学卒業時の娘に対するライフコース希望(SQ2)

——半数強が「退職型希望」だが，女子大学出身の娘を持つ父親の方がやや多い

父親が大学卒業時の娘に希望していたライフコース・パタンの第1位は「退職型希望」で52.6%，ついで「勤続型希望」23.0%，「再参入型希望」12.8%，「無職型希望」11.2%で，「後半就職型」は 0.4%であった。父親の半数強が大学卒業時の娘に仕事に就いても結婚・出産で退職し専業主婦になる「退職型希望」であり，結婚・出産にかかわらず仕事を続ける「勤続型希望」の父親は2割強であった。

また，父親が大学卒業時の娘に希望していたライフコース・タイプの第1位は，結婚退職後専業主婦の「退職型Gタイプ希望」で35.2%，ついで「勤続型Cタイプ希望」18.8%，以下「無職型Lタイプ希望」 9.6%と続く。

つぎに，父親の娘に対する希望パタン別に，娘が女子大学出身か共学大学出身かをみると，若干の有意差がある（$\chi^2=9.174$，$p<0.10$)。「退職型希望」は女子大学出身の娘を

持つ父親の 54.6%・共学大学出身の娘を持つ父親の 50.8%，ついで「勤続型希望」でそれぞれ 23.0%・ 23.0%，「再参入型希望」は 11.0%・ 14.5%，「無職型希望」10.7%・11.7%であった（図1－16)。すなわち，娘に対して「退職型希望」は女子大学出身の娘を持つ父親の方がやや多く，「勤続型希望」には差がなく，「再参入型希望」は共学大学出身娘を持つ父親の方がやや多い。

さらに，父親の娘に対する希望 12 タイプ別に，娘が女子大学出身か共学大学出身かによりみると，ほとんど差がみられない。すなわち，第1位の「退職型Gタイプ」は女子大学出身の娘を持つ父親の 35.1%・共学大学出身の娘を持つ父親の 35.2%，ついで「勤続型Cタイプ」はそれぞれ19.2%・18.5%，「無職型Lタイプ」は9.1%・10.2%であった。

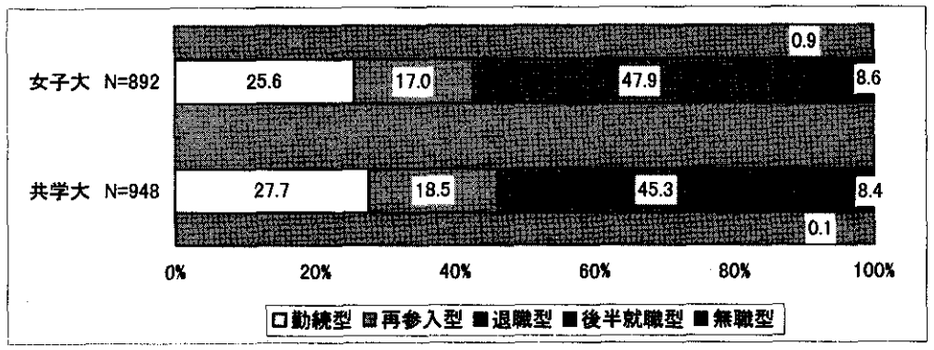


図1－15　大学卒業時の母親の娘に対するライフコース希望

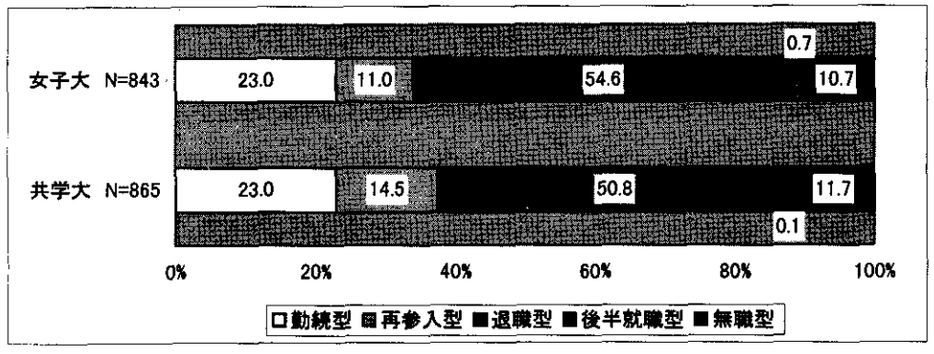


図1－16　大学卒業時の父親の娘に対するライフコース希望

④　大学卒業時の娘・母親・父親のライフコース希望の比較

約 20 年前の大学卒業時の本人・母親・父親の希望ライフコースを比較した図１－17 をみると，本人では 42.3%と最も多い第１位の「勤続希望型」（結婚・出産にかかわらず，仕事を継続する）は，母親では 26.7%，父親では 23.0%しかいない。ついで，本人では第２位（30.6%）の「退職型希望」（結婚ないし出産で退職し専業主婦）は，母親・父親はそれぞれ 46.5%，52.6%と多い。さらに，本人では第３位（21.7%）の「再参入型希望」（結婚・出産による退職・育児専念・育児後再就職）は，母親・父親はそれぞれ 17.8%，12.8%しかいない。しかし，本人では 4.8%しかいない「無職型希望」（就職しないで結婚）は，母親では 8.5%，父親では 11.2%もいる。ここで，中年期以降何らかの仕事をしたいという希望（勤続型・再参入型・後半就職型の合計）をみると，本人では 64.7%と６割強もいるのに対して，母親では 45.0%，父親では 36.2%しかいない。

このような親子のギャップをそれぞれの比率差（本人の比率－親の比率）でみると，次の通りである。

「勤続型希望」のギャップ　：娘＞母親　＋15.6%　　娘＞父親　＋19.3%
「退職型希望」のギャップ　：娘＜母親　－15.9%　　娘＜父親　－22.0%
「再参入型希望」のギャップ：娘＞母親　＋ 3.9%　　娘＞父親　＋ 8.9%
「無職型希望」のギャップ　：娘＜母親　－ 3.7%　　娘＜父親　－ 6.4%

これをみてまず気づくのは，約 20 年前でも４年制大学を卒業する娘自身の約４割が「勤続型希望」しているのに対して，母親・父親の約半数が娘に対して「退職型希望」であるというギャップである。また，親子のギャップでも，娘と母親とのギャップより娘と父親とのギャップの方がいずれでも大きいということである。

これらの結果は，娘と母親は同性であり，娘と父親は異性であるという生物学的性別のみで説明することが難しく，ジェンダー（社会文化的性役割）の問題が背景にあると考えざるをえない。米国において父親の娘に対するサポートが娘の社会的活躍に結びつくという研究もあるだけに，今回の調査対象でも，母親のみならず父親の娘に対する「勤続型希望」のサポートが，どのような意味を持ってきたかは興味深い。今後，個人別ギャップや本人・母親の現在のライフコースなどとの関連を分析する必要があろう。

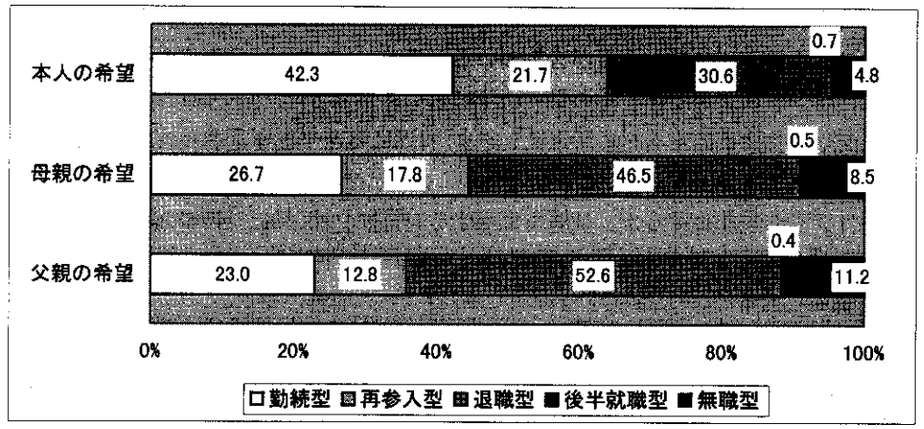


図１－17　大学卒業時の本人・母親・父親の希望ライフコース

(2) 実際のライフコース　――過去・現在・未来予測

(1)実際のライフコース(SQ5)

「退職型」は女子大学出身者の方が，「勤続型」は共学大学出身者の方が多い

現在のライフコースを５パタン別にみると，もっとも多かった型は，「勤続型」で 33.5%，ついで「退職型」32.1%，「再参入型」が 28.2%であり，「無職型」は 3.9%，「後半就職型」は 2.4%であった。つまり，４年制大学を卒業して約 20 年を経た現在，職業を継続している者と結婚・出産により退職した者がそれぞれ３割強，そして結婚・出産により一時退職するものの，再就職した者が３割弱いる。他方，「無職型」はわずかである。

つぎに，タイプ別にみると，その分布にはばらつきがみられ，多い順にあげると「退職型Ｇタイプ（当初仕事はするが結婚退職し家事･育児に専念する専業主婦ﾀｲﾌﾟ）」が 19.0%，ついで「再参入型Ｅタイプ(出産により一時退職し育児後再就職するﾀｲﾌﾟ）」16.1%，「勤続型Ｃタイプ(結婚･出産するが，仕事も継続するﾀｲﾌﾟ）」15.6%，「再参入型Ｄタイプ(結婚により一時退職し育児後再就職するﾀｲﾌﾟ）」12.0%，「退職型Ｈタイプ（当初仕事はするが出産退職し家事･育児に専念する専業主婦ﾀｲﾌﾟ）」10.9%と続く。

これを女子大学・共学大学別×パタン別にみると，有意差があり（$\chi^2 = 19.530$, $p<0.001$），「勤続型」は女子大学出身者の 29.0%・共学大学出身者の 37.7%，「退職型」はそれぞれ 35.4%・ 28.9%，「再参入型」は 28.7%・ 27.7%であった（図１－18）。すなわち，女子大学出身者にもっとも多いのは「退職型」の４割弱で，ついで「勤続型」「再参入型」がそれぞれ３割であるが，共学大学出身者にもっとも多いのは「勤続型」の４割弱で，ついで「退職型」「再参入型」がそれぞれ３割である。このように，女子大学出身者・共学大学出身者ともに現在のライフコース・パタンは３分されるが，前者では「退職型」「勤続型」「再参入型」の順に，後者では「勤続型」「退職型」「再参入型」の順になり，「退職型」は女子大学出身者の方が，「勤続型」は共学大学出身者の方が多い。

また，女子大学・共学大学別×12 タイプ別にみると，タイプ数が多いこともあり分布にはばらつきがみられるものの，女子大学・共学大学別比率に若干の差がみられている。すなわち，「退職型Ｇタイプ」は女子大学出身者の 21.8%・共学大学出身者の 16.3%，「再参入型Ｅタイプ」はそれぞれ 15.5%・ 16.6%，「勤続型Ｃタイプ」は 13.7%・ 17.4%，「再参入型Ｄタイプ」は 13.0%・ 11.1%，「退職型Ｈタイプ」は 11.1%・ 10.7%であった。このように，女子大学出身者・共学大学出身者ともに現在のライフコース・タイプは５分されるが，女子大学出身者では第１位が「退職型Ｇタイプ」，ついで「再参入型Ｅタイプ」「勤続型Ｃタイプ」「再参入型Ｄタイプ」「退職型Ｈタイプ」となり，共学大学出身者では第１位が「勤続型Ｃタイプ」，ついで「再参入型Ｅタイプ」「退職型Ｇタイプ」「再参入型Ｄタイプ」「退職型Ｈタイプ」となっている。

なお，実際のライフコース・パタン，タイプおよび現在の位置(SQ6）に基づき「キャリア確定段階層」（村松，1997）に分類したところ，途上層（未婚で結婚希望・既婚で出産希望・育児後就職希望の者）は約１割で，約９割が確定層であった（詳細は別途報告予定）。

*** : $p < 0.001$

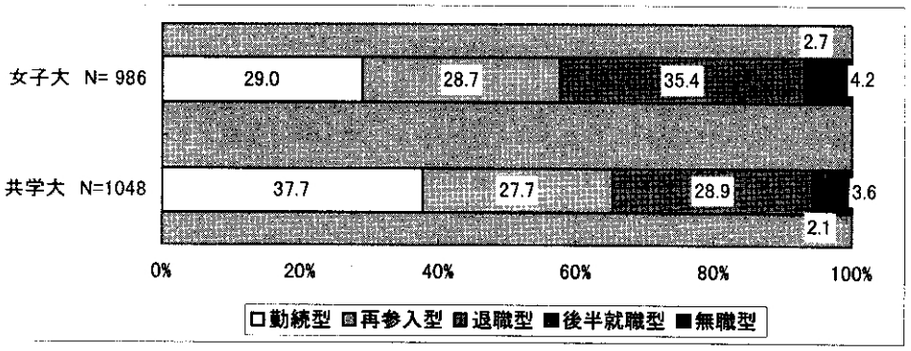


図１－18　実際のライフコース

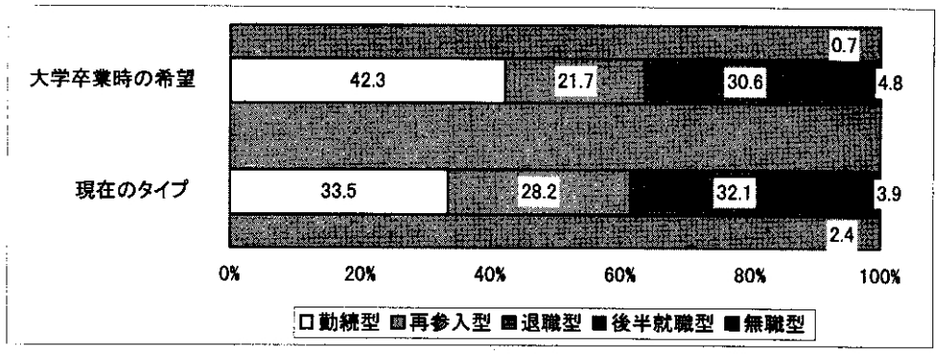


図１－19　ライフコースの大学卒業時の希望と実際の比較

ここでライフコース・パタンの大学卒業時の希望と現在を比較してみると，「勤続型」は大学卒業時の希望が 42.3%・現在は 33.5%，「退職型」はそれぞれ順に 30.6%・ 32.1%，，「再参入型」は 21.7%・ 28.2%，「無職型」は 4.8%・ 3.9%，「後半就職型希望」は 0.7%・ 2.4%であった（図１－19)。すなわち，大学卒業時に「勤続型」を希望していた４割強の者のうち，３割強はそれを実現しているが，約１割は実現していない。これに対して，「退職型」や「再参入型」は大学卒業時に希望していた２，３割の者はほぼ実現しているとみられるが，希望していなかった者も一部に含まれている可能性が残る。この点についてのクロス分析の結果は，別途報告する予定である。

②母親の実際のライフコース(SQ1)

――「退職型」は３割で，女子大学出身の娘を持つ母親の方がやや多く，
「勤続型」は２割で，共学大学出身の娘を持つ母親の方がやや多い

つぎに，母親自身のライフコース・パタンをみると，第１位は「退職型」で 29.6%，ついで「無職型」28.0%，「勤続型」19.3%，「再参入型」14.4%，「後半就職型」 8.8%であった。このように，「退職型」「無職型」すなわち現在無職の専業主婦が 57.6%に及ぶものの，約４割は何らかの形で仕事をしている。学校卒業以来，仕事を継続している「勤続型」の母親は２割である。

つぎに，母親自身のタイプ別にみると，その分布にはばらつきがみられ，多い順にあげると「無職型Ｌタイプ(学校卒業後結婚し就業経験のない専業主婦ﾀｲﾌﾟ)」26.4%，ついで「退職型Ｇタイプ（当初仕事はするが結婚退職し家事・育児に専念する専業主婦ﾀｲﾌﾟ)」24.4%，「勤続型Ｃタイプ(結婚・出産するが，仕事も継続するﾀｲﾌﾟ）」18.2%と続き，他は10%以下であった。

つぎに，母親自身のパタン別に，娘が女子大学出身か共学大学出身か別にみると，有意差がある（$\chi^2=10.630$，$p<0.05$)。「退職型」は女子大学出身の娘を持つ母親の 30.5%・共学大学出身の娘を持つ母親の 28.7%，ついで「無職型」はそれぞれ 28.6%・ 27.5%，「勤続型」は 17.1%・ 21.3%，「再参入型」13.6%・ 15.1%，「後半就職型」10.3%・ 7.4%であった（図１－20)。すなわち，「退職型」は女子大学出身の娘を持つ母親の方が多く，「勤続型」は共学大学出身娘を持つ母親の方が多い。

さらに，母親自身の 12 タイプ別に，娘が女子大学出身か共学大学出身かをみると，タイプ数が多いこともあり分布にはばらつきがみられ，ほとんど差がみられない。すなわち，第１位の「無職型Ｌタイプ」は女子大学出身の娘を持つ母親の 26.8%・共学大学出身の娘を持つ母親の 26.1%，ついで「退職型Ｇタイプ」は 24.4%・ 24.4%，「勤続型Ｃタイプ」は 16.1%・ 20.1%であった。

＊：$p < 0.05$

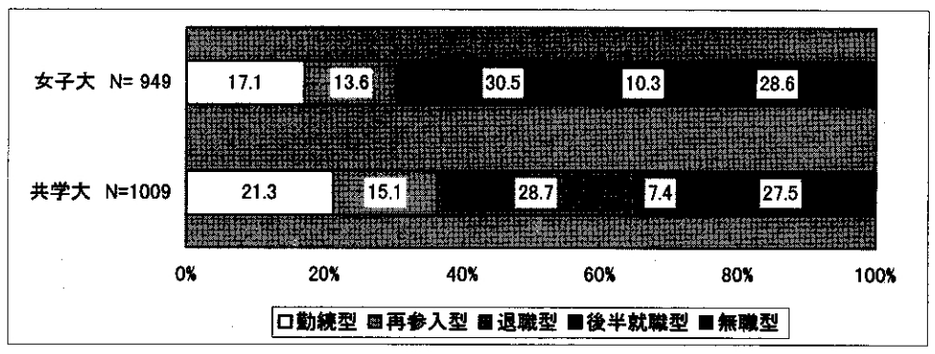


図１－20　母親のライフコース

(3) ライフコースに対する満足度（Q８）

大学時代からこれまでのライフコースをふりかえっての満足度を，「A．これまでの自分のライフコース」「B．現在の自分のライフコース」それぞれについて，「１．満足」「２．やや満足」「３．やや不満」「４．不満」の４段階評定による回答を求めた。

①　過去のライフコースに対する満足度

――女子大学・共学大学出身にかかわらず，７割強が満足，３割弱が不満

「A．これまでの自分のライフコース」については，全体的には「２．やや満足」が最も多く 47.9%，ついで「３．やや不満」が 24.7%，「１．満足」が 23.2%，「４．不満」は 4.2%であった。すなわち，「１．満足」と「２．やや満足」を合計すると 71.1%になり，約７割強の者がこれまでの自分のライフコースに満足している。一方，「３．やや不満」と「４．不満」を合計すると 28.9%になり，３割弱の者が不満としている。

これを女子大学・共学大学出身別に示した図１－21 をみると，「２．やや満足」は女子大学出身者が 47.7%・共学大学出身者が 48.0%，「３．やや不満」がそれぞれ順に 24.8%・24.5%，「１．満足」が 22.6%・ 23.9%，「４．不満」は 4.9%・ 3.5%であり，女子大学・共学大学出身別に有意差はない（$\chi^2=2.782$，$p>0.10$）。

②　現在のライフコースに対する満足度

――女子大学・共学大学出身にかかわらず，７割弱が満足，３割強が不満

「B．現在の自分のライフコース」については，「２．やや満足」が最も多く 47.0%，ついで「３．やや不満」が 26.5%，「１．満足」が 21.9%，「４．不満」は 4.6%であった。すなわち，「１．満足」と「２．やや満足」を合計すると 68.9%になり，７割弱の者がこれまでの自分のライフコースに満足している。一方，「３．やや不満」と「４．不満」を合計すると 31.1%になり，３割強の者が不満としている。

これを女子大学・共学大学出身別に示した図１－22 をみると，「２．やや満足」は女子大学出身者が 45.9%・共学大学出身者が 48.1%，「３．やや不満」がそれぞれ順に 28.3%・24.7%，「１．満足」が 21.1%・ 22.7%，「４．不満」は 4.8%・ 4.4%であり，女子大学・共学大学出身別に有意差はない（$\chi^2=3.828$，$p>0.10$）。

③　ライフコースに対する満足度の過去・現在の比較

ここで，過去の自分のライフコースと現在の自分のライフコースの満足度を全体的に比較すると，女子大学・共学大学出身にかかわらず，過去の自分のライフコースへの満足感より現在の満足感の方が若干低下しており，３割強が現在不満足と感じている。この過去と現在のライフコースの満足度のギャップが何により生じているかは，大学卒業時のライフコース希望と現在のライフコースのギャップ，大学卒業時の母親・父親の希望，有職・無職の理由や今後の希望などとのクロス分析等で今後明らかにされよう。

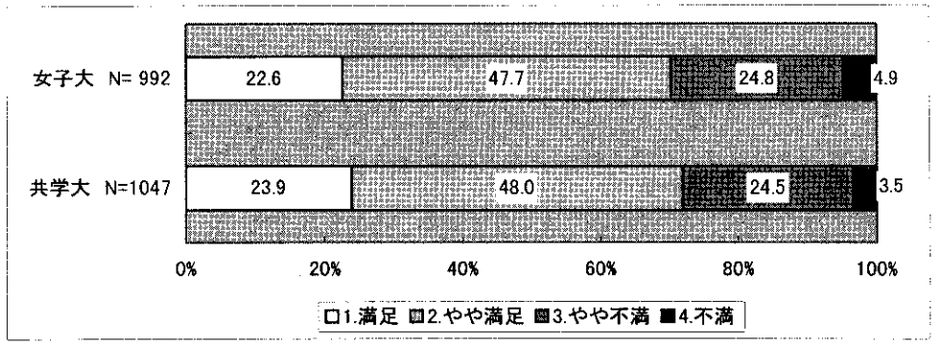


図１－21　過去のライフコース満足度

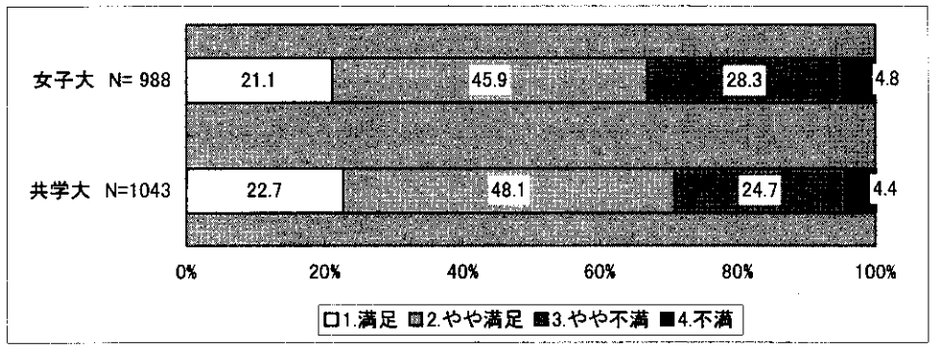


図１－22　現在のライフコース満足度

2．生　活　意　識

1）性差意識（Ⅱ　Q1）

（1）　性差意識の測定項目

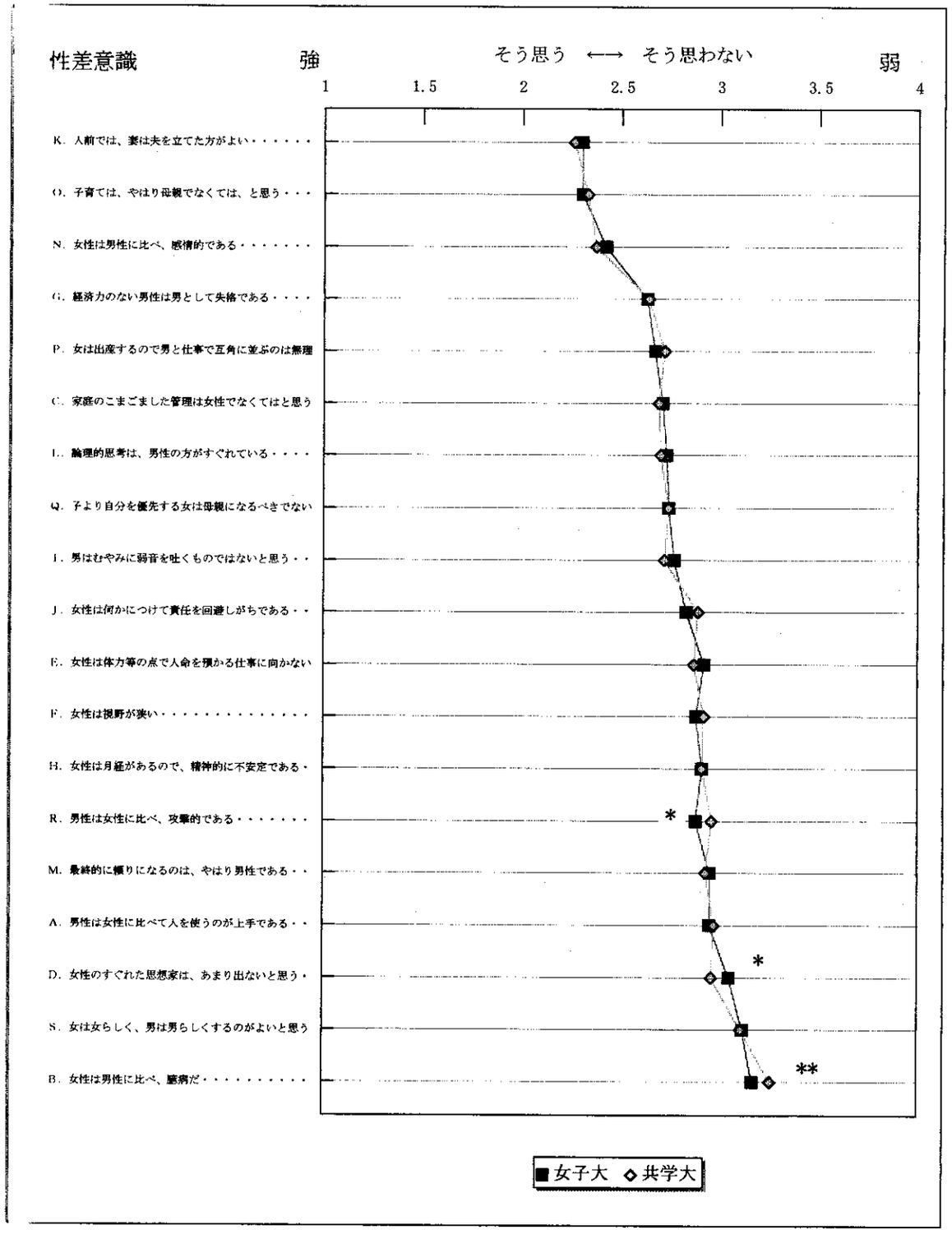
性差意識の測定項目は，伊藤裕子（東京女性財団，1996）による，性差観30項目より，第1因子の負荷量の大きい18項目に，「女は女らしく，男は男らしくするのがよいと思う」の1項目を追加し19項目とした。回答は「1.そう思う」「2.どちらかといえば,そう思う」「3.どちらかといえば,そう思わない」「4.そう思わない」の4段階評定とし，順に1点から4点を与えて得点化した。したがって，平均が小さいほど性差意識が強いことを表す。

（2）全体的結果

まず，全体的にみて，最も「1.そう思う」が多いのは，「O.子育ては，やはり母親でなくては，と思う」で20.6%，第2位が「K.人前では，妻は夫を立てた方がよい」の16.3%，第3位が「G.一家の生計を支えられないような経済力のない男性は男として失格である」の14.3%である。逆に「4.そう思わない」が最も多いのが，「B.女性は男性に比べ，臆病だ」の47.1%，第2位が「S.女は女らしく，男は男らしくするのがよいと思う」の43.3%，第3位が「D.女性のすぐれた思想家は，あまり出ないと思う」の38.7%である。このことから，今回の調査対象者においては，「子育て」「対外的な場面」「経済力」などの面では，2割弱の者が依然として強い性差意識を持っており，また逆に，「感情」「女・男らしさ」「能力」などの面では約4割が性差意識が弱い。

つぎに，性差意識の有無（1･2の合計と3･4の合計）の比率をみると，性差意識有の比率が50%以上の項目は，「K.人前では，妻は夫を立てた方がよい」の68.0%，「N.女性は男性に比べ，感情的である」の65.3%，「O.子育ては，やはり母親でなくては，と思う」の63.9%と，19項目中3項目のみであり，他のいずれの項目でも性差意識無の者が50%以上を占めている。性差意識無の比率が最も多いのは「B.女性は男性に比べ，臆病だ」の77.0%，第2位は「S.女は女らしく，男は男らしくするのがよいと思う」の73.3%，第3位は「R.男性は女性に比べ，攻撃的である」の67.4%である。

全体的にみて，平均値が最も小さい（性差意識が強い）項目は，「K.人前では，妻は夫を立てた方がよい」の2.28で，ついで第2位は，「O.子育ては，やはり母親でなくては，と思う」の2.31，第3位は，「N.女性は男性に比べ，感情的である」の2.39である。逆に全体的にみて平均値が最も大きい（性差意識が弱い）項目は，「B.女性は男性に比べ，臆病だ」の3.22であり，第2位は「S.女は女らしく，男は男らしくするのがよいと思う」の3.11，第3位が「D.女性のすぐれた思想家は，あまり出ないと思う」の3.01である。全19項目中，16項目が平均値2.50以上であり，全体として性差意識が弱い傾向にある。



**：$p < 0.01$, *：$p < 0.05$

図2－1　性差意識

(3) 女子大学出身者と共学大学出身者の比較

各項目の平均値を女子大学・共学大学出身別にグラフ化したのが図２－１である。また，それぞれの項目について女子大学・共学大学出身別に平均値の差のｔ検定を行った。グラフがほぼ重なっており，全体的にみて女子大学・共学大学出身別の差はほとんどなく，有意差があったのは，19項目中３項目のみである。

有意差のあった３項目の中で，女子大学出身者の方が共学大学出身者より性差意識が弱い傾向にあるのが，「D.女性のすぐれた思想家はあまり出ないと思う」の１項目である。この項目では，女子大学出身者の平均が3.05であるのに対して，共学大学出身者の平均は2.96で，両者に有意差が認められた（ｔ＝2.223，p<0.05；図２－３）。

これとは逆に，共学大学出身者の方が女子大学出身者より性差意識の弱い項目は，つぎの２項目である。まず，「B.女性は男性に比べ，臆病だ」では，女子大学出身者の平均値が3.17，共学大学出身者が3.26で有意差があった（ｔ＝－2.629，p<0.01；図２－４－(1)）。また，「R.男性は女性に比べ，攻撃的である」は，女子大学出身者の平均値が2.88，共学大学出身者が2.96で，有意差があった（ｔ＝－2.013，p<0.05；図２－４－(2)）。

(4) 項目別検討

①性差意識が強く，出身大学別に有意差のない項目

以上の項目の主なものについて検討すると，まず，性差意識が最も強く，かつ出身大学別に有意差のなかった項目の「K.人前では，妻は夫を立てた方がよい」では，女子大学出身者の14.8%，共学大学出身者の17.8%が「１.そう思う」と答えている。また，「２.どちらかといえば，そう思う」と答えたのは，女子大学出身者が53.4%，共学大学出身者が50.1%で，合わせて70%弱の人が「そう思う」と答えていることになり，この項目に関しては強い性差意識のあることが伺える（図２－２－(1)）。

「O.子育ては，やはり母親でなくては，と思う」は，全体的にみて性差意識が強い項目の第２位，また，全体的にみて「１.そう思う」が最も多かった項目である。「１.そう思う」が女子大学出身者21.6%，共学大学出身者19.7%，「２.どちらかといえば，そう思う」が女子大学出身者42.6%，共学大学出身者43.9%であり，両者とも60%を超える人たちが「子育ては母親でなくては」と思っている。このことは，社会システムの中に依然として強い性別役割分業のあることを示していると考えられる（図２－２－(2)）。

全体的にみて性差意識が強い項目の第３位の「N.女性は男性に比べ，感情的である」では，女子大学出身者の10.9%，共学大学出身者の14.3%が「１.そう思う」と答えている。「２.どちらかといえば，そう思う」は，それぞれ54.5%，50.8%であり，出身大学別の差は見られず，両者とも同様の傾向を示している。これは女性自身が女性が感情的であると考えているということの他に，女性が感情をストレートに表出することが，男性に比べて社会的に許容されていることの現れと考えることもできる（図２－２－(3)）。

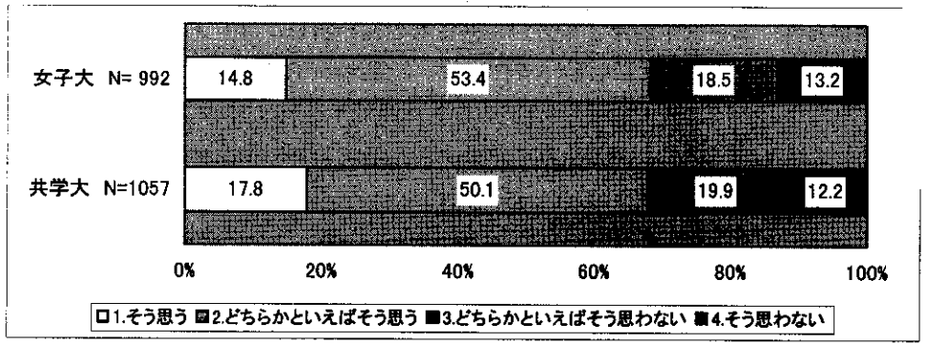


図２－２－(1)　性差意識が強く，出身大学別に有意差のない項目
——K. 人前では，妻は夫を立てた方がよい

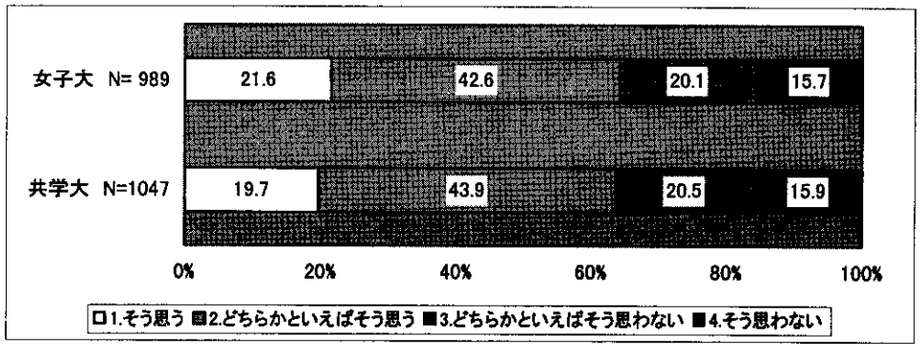


図２－２－(2)　性差意識が強く，出身大学別に有意差のない項目
——O. 子育ては，やはり母親でなくては，と思う

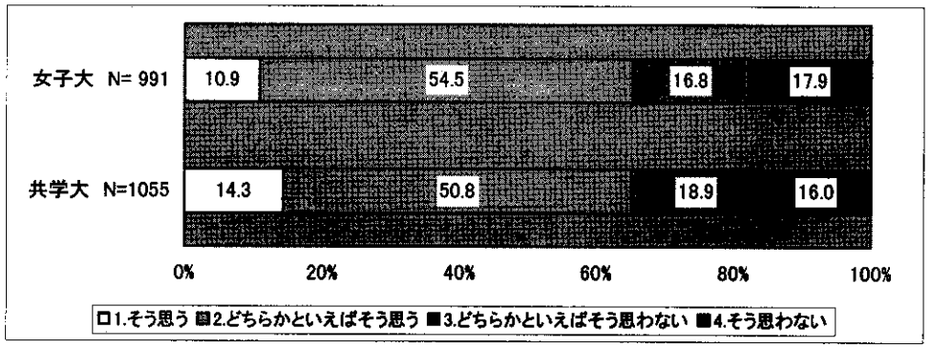


図２－２－(3)　性差意識が強く，出身大学別に有意差のない項目
——N. 女性は男性に比べ，感情的である

②有意差があり，女子大学出身者の方が性差意識の弱い項目

女子大学出身者の方が性差意識の弱い項目として有意差のあった，「D.女性のすぐれた思想家は，あまり出ないと思う」では，女子大学出身者の平均が 3.05 であるのに対して，共学大学出身者は 2.96 である。共学大学出身者より女子大学出身者の方が平均が高く，性差意識が弱い方向に偏っている。しかし，４段階評定で，平均は両者とも 2.50 以上であるから，女子大学・共学大学出身者のいずれも，この項目に関しては性差意識は弱いといえる。また，この項目は「４.そう思わない」が多い項目の第３位でもあり，女子大学出身者の 41.6%，共学大学出身者の 35.8%が「そう思わない」と回答している。この差が有意差として現れたと考えられる（図２－３）。

③共学大学出身者の方が性差意識の弱い項目

さらに，共学大学出身者の方が性差意識の弱い項目として１%水準で有意差のあった「B.女性は男性に比べ，臆病だ」では，女子大学出身者の平均が 3.17 であるのに対して，共学大学出身者は 3.26 である。この項目に関しては，共学大学出身者の方が女子大学出身者に比べて平均値が低く，性差意識が弱いこと示している。しかし，この項目は，「４.そう思わない」が最も多かった項目でもあり，女子大学出身者の 44.6%，共学大学出身者の 49.5%が「そう思わない」と答えている。したがって有意差があるといっても，両者とも性差意識の弱い中での差異といえる（図２－４－(1)）。

「R.男性は女性に比べ，攻撃的である」は，共学大学出身者の方が性差意識の弱い項目として，５%水準で有意差あった項目である。この項目では,女子大学出身者の平均が 2.88，共学大学出身者の平均が 2.96 であり，共学大学出身者の方が女子大学出身者に比べて性差意識の弱い傾向がある。しかし，この項目に関しても，どちらの平均値も 4 段階評定の 2.50 よりも大きく，全体として性差意識の弱い中での差異ということがいえよう（図２－４－(2)）。

(5)まとめ

以上により，今回の調査対象者に関しては，全体として性差意識が弱い傾向がみられた。特に「感情」「女・男らしさ」「能力」など，人の内面に関することがらでの性差意識は非常に弱いといえよう。しかし，「人前では，妻は夫を立てたほうがよい」「子育ては母親」「経済力のない男性は失格」などの項目では性差意識の強い傾向にあり，対外的な場面，特に社会システムと関係する場面では依然として強い性差意識のあることがわかった。このことから，自分の内面では能力などの性差や「女らしさ・男らしさ」にとらわれてはいないとしながらも，依然として性別役割分業の根強い社会システムの中にあっては，外面的には妻は夫を立てるなど，社会的に認められている性差意識に合わせる方が無難と考えている姿勢が見て取れる。また，近年の女子大学生の就職難に見られるように，女性が定職を得るのは男性に比べて依然として難しい状況にあり，そういう社会システムが「子育ては母親」「経済力のない男性は失格」といった性別役割分業を強化する方向に働いて

*：p＜0.05

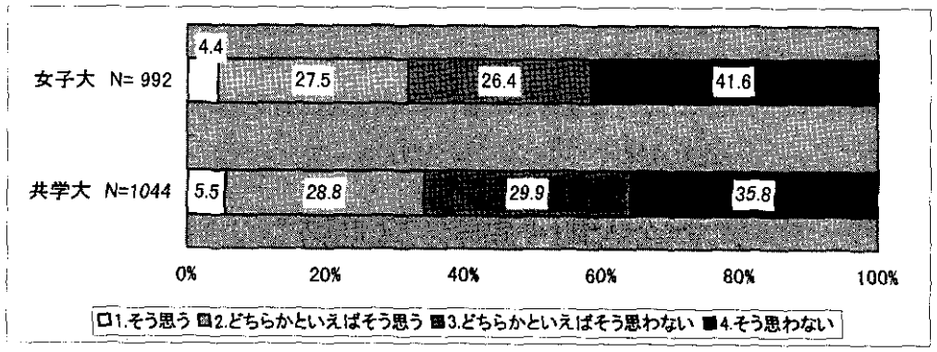


図２－３　女子大学出身者の方が性差意識の弱い項目
——D.女性のすぐれた思想家は，あまり出ないと思う

**：p＜0.01

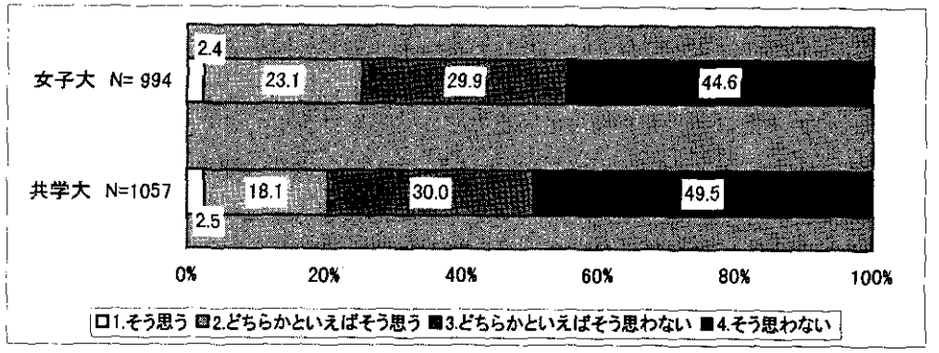


図２－４－(1)　共学大学出身者の方が性差意識の弱い項目
——B.女性は男性に比べ，憶病だ

*：p＜0.05

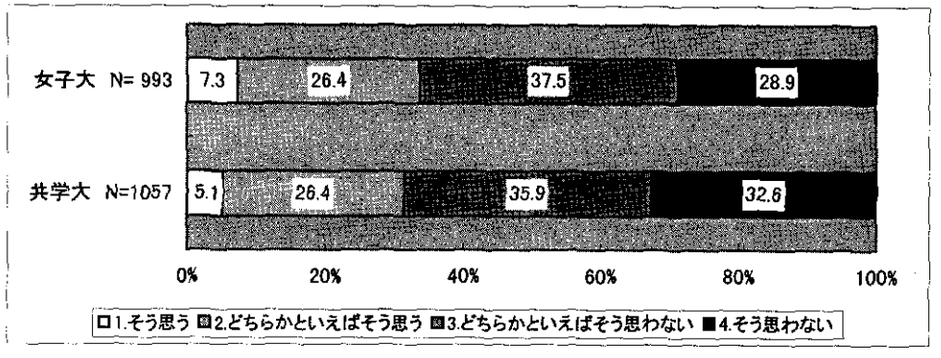


図２－４－(2)　共学大学出身者の方が性差意識の弱い項目
——R.男性は女性に比べ，攻撃的である

いると考えられる。しかし，バブル経済崩壊後の社会変革の中で，男性であっても就職することは難しくなり，またマスコミで子育てへの男性の参加が話題になるなどしており，従来の性別役割分業社会が揺らぎ始めている兆候がみられる。そのような中で，今回の調査対象者のように，内面的には性差意識がなくても，外面的には社会的な性差意識に合わせてきたような，いわば本音と建前を使い分け違和感を感じながら生活してきた人たちが，今後，性差別のない社会実現に向けての大きな力となっていく可能性がある。

また，今回の調査は東京都女性財団の伊藤研究をもとに実施しているが，今回の調査結果と伊藤研究による東京都一般女性との比較等は，稿を改めて検討したい。

2）育児意識（Q2）

(1) 育児意識の測定項目

育児意識の測定項目は，柏木惠子ら（東京女子大学，1988）による，「大学卒業後の諸活動と意識に関する調査」の育児意識についての測定項目から12項目を使用した。

育児意識については，子どもを持っている方のみに回答を求めており，有効サンプル数は，女子大学出身者が787名（全女子大学出身者の78.9%），共学大学出身者が787名（全共学大学出身者の74.2%）である。ただしこれは有効回答の最大値を示し，ごく一部の項目の記入もれや記入ミスなどがあるため，項目により有効分析総人数が異なっている。

回答は，「1.よくある（あった）」「2.時々ある（あった）」「3.たまにある（あった）」「4.全くない（なかった）」の4段階評定とし，順に1点から4点を与えて得点化した。したがって，得点が小さいほど，その項目内容が頻繁にある（あった）ことになる。

(2) 全体的結果

まず，全体的にみて，最も「1.よくある（あった）」が多いのは，「G.子どもをもって自分も成長できた」で69.9%，第2位が「B.充実感がある」の48.0%，第3位が「I.自分の中で最も重要なのは子どもだ」の22.1%である。逆に「4.全くない（なかった）」が最も多いのが，「E.子どもがいなければよかったと思う」の69.7%，第2位が「L.子どもさえいれば幸せだ」の36.3%，第3位が「K.子どもは自分の体の一部のような感じだ」の34.0%である。

つぎに，「1.よくある（あった）」と「2.時々ある（あった）」の合計が50%を超えている項目，すなわち，子育て期間中に感じる頻度が高い項目は，「G.子どもをもって自分も成長できた」の91.6%，「B.充実感がある」の82.5%，「I.自分の中で最も重要なのは子どもだ」の54.8%と，12項目中3項目である。したがって他の9項目は子育て期間中に感じることが比較的少ないという結果になった。また，「4.全くない（なかった）」と「3.たまにある（あった）」の合計が多い項目は，「E. 子どもがいなければよかったと思う」の93.5%，「L.子どもさえいれば幸せだ」の70.7%，「K.子どもは自分の体の一部のような感じだ」の68.8%である。

(3) 女子大学出身者と共学大学出身者の比較

各項目の平均値を女子大学・共学大学出身別にグラフ化したのが**図2－5**である。12項目中2項目が顕著に平均が小さく，1項目が顕著に平均が大きい。平均が顕著に小さい項目は，「G.子どもをもって自分も成長できた」の1.39と，「B.充実感がある」の1.71である。逆に平均が顕著に大きい項目は，「E.子どもがいなければよかったと思う」の3.62である。

また各項目ごとに女子大学・共学大学別に平均値の差をみるためにt検定を行った。グラフがほぼ重なっており，女子大学と共学大学に大きな差はなく，いずれの項目でも有意差はみられなかった。

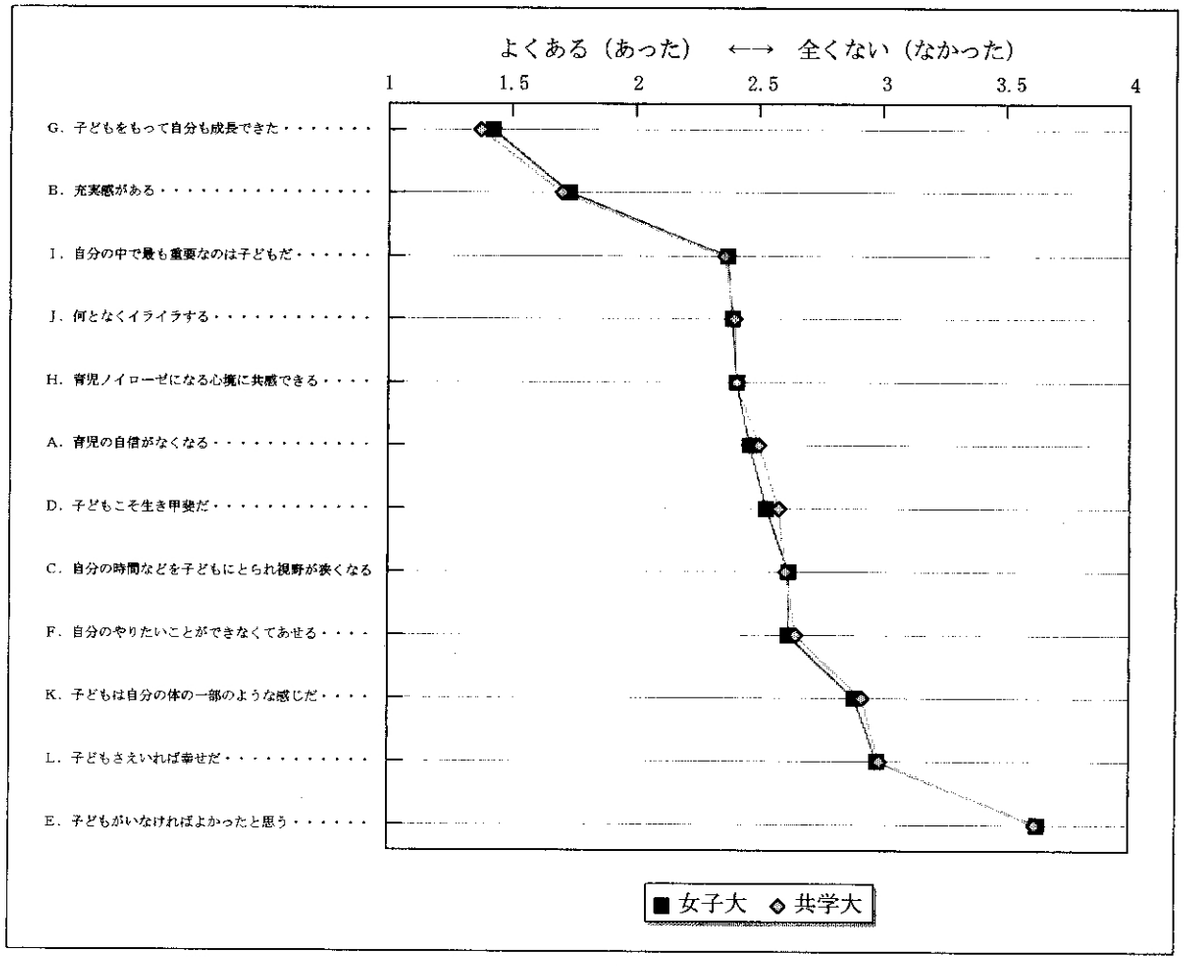


図2－5　育児意識

(4)項目別検討

①育児期間中に感じる頻度の高い項目

ここで，これらの主な項目についてさらに詳しくみていくことにする。まず，「G.子どもをもって自分も成長できた」は，最も平均値が小さく，同時に「1.よくある（あった）」が最も多かった項目である。平均値は女子大学出身者が 1.42，共学大学出身者が 1.37 であり，共学大学出身者の方が若干「1.よくある（あった）」に偏っているが，両者に有意差はない。「子どもをもって自分も成長できた」と感じたことが「1.よくある（あった）」と回答したのは，女子大学出身者の 69.6%，共学大学出身者の 70.1%である。「2.時々ある（あった）」を含めると，実に 90%近い人が「子どもをもって自分も成長できた」と育児を非常に肯定的に捉えている（図２－６－(1)）。

「B.充実感がある」は，平均値が２番目に小さく，また「1.よくある（あった）」が２番目に多い項目である。平均値は女子大学出身者が 1.73，共学大学出身者が 1.70 である。また，子育てに関して「充実感がある」と感じたことが「1.よくある（あった）」と回答した人は，女子大学出身者では 47.8%，共学大学出身者では 48.2%であり，「2.時々ある（あった）」を含めると，80%を超える人が育児に充実感を感じている（図２－６－(2)）。

「I.自分の中で最も重要なのは子どもだ」は，平均値が３番目に小さく，同時に「1.よくある（あった）」が３番目に多い項目である。平均値は女子大学出身者が 2.37，共学大学出身者が 2.36 であり，両者にほとんど差はない。また，「自分の中で最も重要なのは子どもだ」と思ったことが「1.よくある（あった）」と，女子大学出身者の 20.7%，共学大学出身者の 23.5%が答えている（図２－６－(3)）。

②育児期間中に感じる頻度が低い項目

「E.子どもがいなければよかったと思う」は，全体的にみて最も平均値が大きい項目であり，同時に「4.全くない（なかった）」が最も多い項目でもある。平均値は女子大学出身者が 3.63，共学大学出身者が 3.62 であり，両者ともほとんど差がなく，「全くない（なかった）」方向に偏っている。さらに，女子大学出身者の 70.0%，共学大学出身者の 69.4%が，「子どもがいなければよかった」と思ったことは「4.全くない（なかった）」と答えている。さらに「3.たまにある（あった）」を含めると，実に 90%を超える人が子どもをもったことを肯定的に捉えている（図２－７－(1)）。

「L.子どもさえいれば幸せだ」は，平均値が２番目に大きい項目であり，同時に「4.全くない（なかった）」が２番目に多い項目でもある。平均値は女子大学出身者が 2.98，共学大学出身者が 2.99 であり，両者にほとんど差はない。また，女子大学出身者の 35.8%，共学大学出身者の 36.7%が，「子どもさえいれば幸せだ」と思ったことは「4．全くない（なかった）」と答えている。「3.たまにある（あった）」を合わせると，70%近くの人が子どもの存在を全面的に肯定して捉えているわけではないことがわかる（図２－７－(2)）。

「K.子どもは自分の体の一部のような感じだ」は，平均値が３番目に小さく，「4.全く

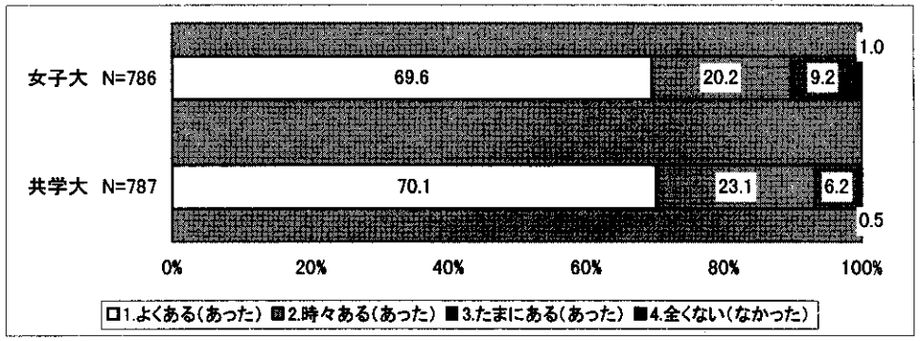


図２－６－(1)　育児期間中に感じる頻度の高い項目
――G.子どもをもって自分も成長できた

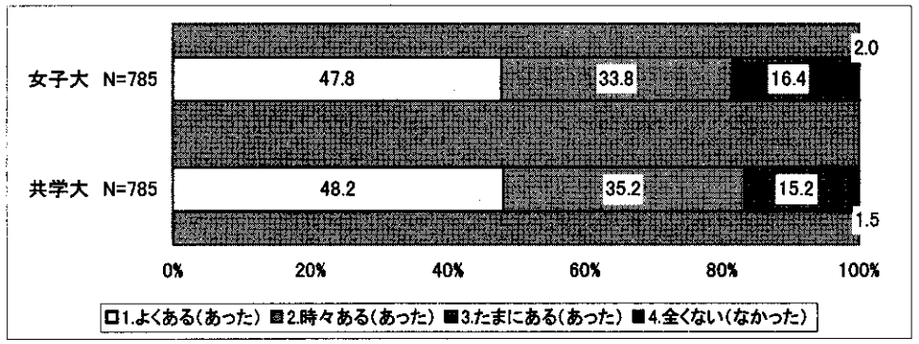


図２－６－(2)　育児期間中に感じる頻度の高い項目
――B.充実感がある

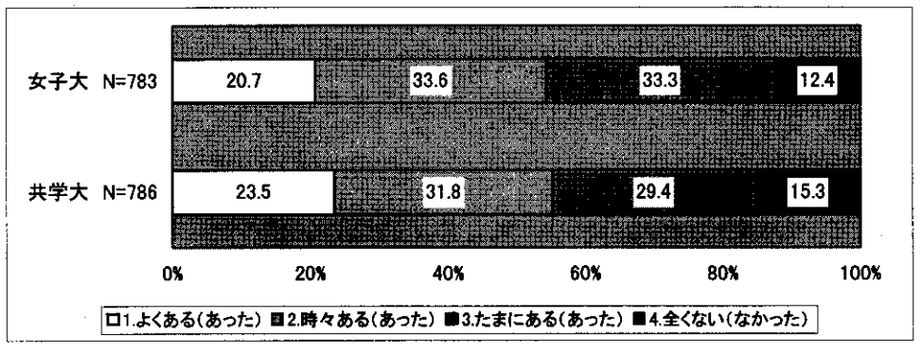


図２－６－(3)　育児期間中に感じる頻度の高い項目
――I.自分の中で最も重要なのは子どもだ

（なかった）」が3番目に多い項目である。平均値は女子大学出身者が2.89，共学大学出身者が2.92であり，共学大学出身者の方が若干「4.全くない（なかった）」に偏っているものの，両者に有意差はない。また，「子どもは自分の体の一部のような感じだ」ということが「4.全くない（なかった）」と回答したのは，女子大学出身者が32.7%，共学大学出身者が35.3%である。「3.たまにある（あった）」を含めると70%近い人が「子どもは自分の体の一部」と感じたことはほとんどなかったことになる（図2－7－(3)）。

(5)まとめ

これらの結果から，今回の調査では「E.子どもがいなければよかった」とほとんど思わないのと同時に，「L.子どもさえいれば幸せだ」ともほとんど思わないし，また，「I.自分の中で最も重要なのは子どもだ」と思いつつも，「K.子どもは自分の体の一部のようだ」とはほとんど感じていない。そこから，育児をかなり客観視ししており，子どもと適度な距離を保ちながら育児にあたっている（あたっていた）姿勢が伺える。今回の調査では，具体的な子どもの年齢を尋ねてはいないが，被験者の年齢からすれば，そろそろ子どもが青年期に差し掛かる頃とも考えられ，育児の真っ只中にあった時期に比べれば，冷静に育児について振返ることができた結果かもしれない。また，母親としてみた場合，子どもの存在自体は肯定的でもあり同時に否定的でもある。しかし，子育てを自分にひきつけて考えた場合には，自分が成長でき，充実感を感じられる場として非常に肯定的に捉えていることがわかる。

また，この育児意識では，女子大学・共学大学出身別の差は全く認められなかったが，これは今回の調査の被験者が，それぞれの大学を卒業してから約20年の歳月を経ていることにも原因があると考えられる。確かに，青年期の一時期に大学にいること，またそれが女子大学であるか，共学大学であるかは，その人の様々な意識や価値観を形成する上で無視できないものがあると思われる。しかし，いったん形成されたようにみえる意識や価値観も固定化されてあるわけではなく，時の流れの中で，また様々な状況の中で変化していく。特に育児意識の形成にあたっては，大学在学中に形成されるというよりも，卒業後にどのような進路を選んだかが大きく影響している可能性もある。今後，今回の被験者が大学を卒業後，どのようなライフコースを歩んできたかを視野に入れた分析を行いたい。

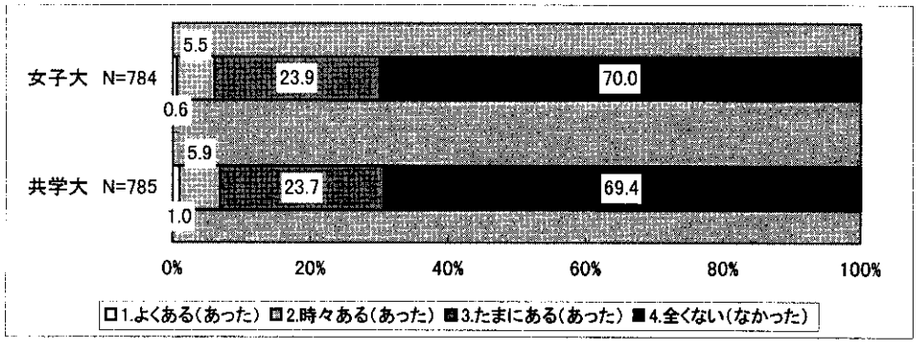


図2－7－(1)　育児期間中に感じる頻度の低い項目
――E.子どもがいなければよかったと思う

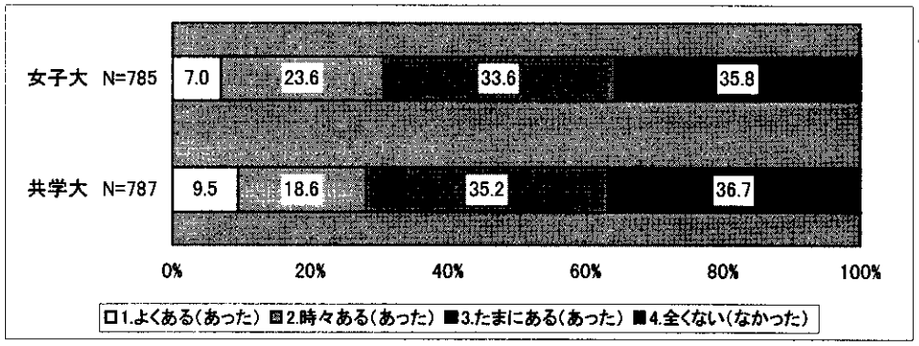


図2－7－(2)　育児期間中に感じる頻度の低い項目
――L.子どもさえいれば幸せだ

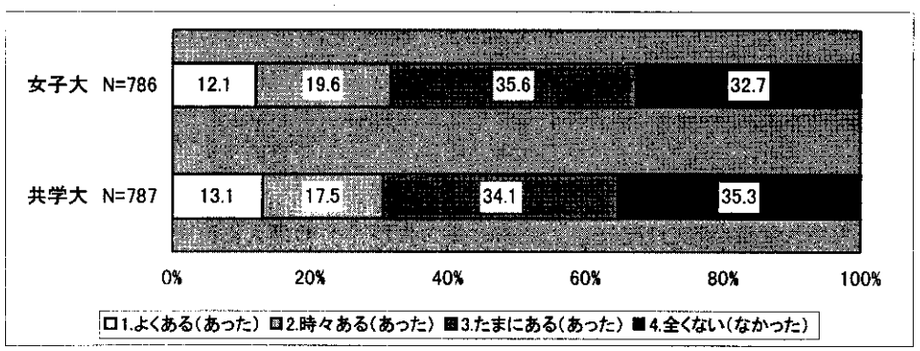


図2－7－(3)　育児期間中に感じる頻度の低い項目
――K.子どもは自分の体の一部のような感じだ

3）自尊心（Q３）

(1) 自尊心の測定項目

自尊心の測定項目（A～L）は，明石弘子らが大学生を対象に代表的自尊心尺度から作成した12項目を用いることにした（渡邊惠子,1996）。

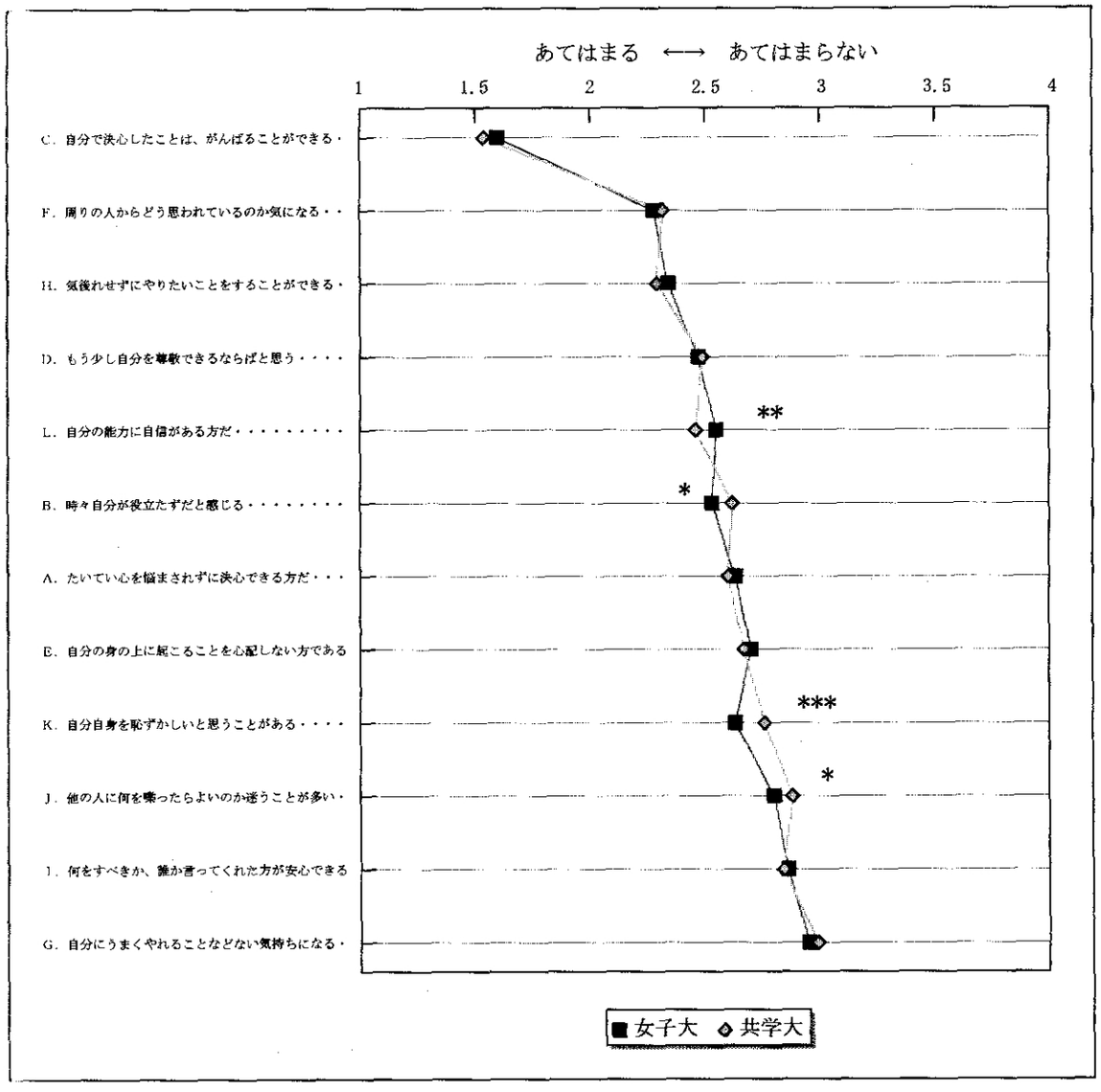
回答は，「１.あてはまる」「２.すこしあてはまる」「３.あまりあてはまらない」「４.あてはまらない」の４段階評定とし，順に１点から４点を与えて得点化した。したがって，得点が小さいほど，その項目内容にあてはまることになる。

(2) 全体的結果

まず，全体的にみて，最も「１.あてはまる」が多いのは，「C.自分で決心したことは，がんばることができる」で54.2%，第２位が「F.周りの人からどう思われているのか気になる方である」の 19.3%，第３位が「H.気後れせずにやりたいことをすることができる」の17.9%である。逆に「４.あてはまらない」が最も多いのが，「G.自分にうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがある」の32.8%，第２位が「Ｉ.私が何をすべきか，誰かがいってくれた方が安心できる」の28.2%，第３位が「Ｊ.他の人に何をしゃべったらよいのか迷うことが多い」の27.1%である。

つぎに，「１.あてはまる」と「２.すこしあてはまる」の合計，つまり今回の調査対象者が自分にあてはまると感じていることが最も多いのは，「C.自分で決心したことは，がんばることができる」の90.0%，第２位は「F.周りの人からどう思われているのか気になる方である」の 60.6%，第３位が「H.気後れせずにやりたいことをすることができる」の58.7%である。逆に「４.あてはまらない」と「３.あまりあてはまらない」の合計が最も多いのが，「G.自分にうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがある」の71.1%，第２位が「Ｊ.他の人に何をしゃべったらよいのか迷うことが多い」の64.3%，第３位が「Ｉ.私が何をすべきか，誰かがいってくれた方が安心できる」の63.7%である。

全体的にみて，平均値が最も小さい項目は，「C.自分で決心したことは，がんばることができる」の1.57，ついで第２位は，「F.周りの人からどう思われているのか気になる方である」の2.30，第３位は，「H.気後れせずにやりたいことをすることができる」の2.32である。逆に全体的にみて平均値が最も大きい項目は，「G.自分にうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがある」の2.97，第２位が，「Ｉ.私が何をすべきか，誰かがいってくれた方が安心できる」の2.85，第３位が「Ｊ.他の人に何をしゃべったらよいのか迷うことが多い」の2.84である。



*** : $p < 0.001$, ** : $p < 0.01$, * : $p < 0.05$

図２－８　自尊心

(3) 女子大学出身者と共学大学出身者の比較

各項目の平均値を女子大学・共学大学出身別にグラフ化したのが図２－８である。さらに，女子大学・共学大学出身別に平均値の差に関するｔ検定を行った。グラフがほぼ重なっており，全体的にみて女子大学・共学大学出身別の差はほとんどなかった。

その中で，女子大学出身者の方が共学大学出身者より「１.あてはまる」傾向にあったのが，以下の３項目だった。まず，「K.自分自身を恥ずかしいと思うことがある」の平均値は，女子大学出身者が 2.63，共学大学出身者が 2.76 であり，この項目では 0.1%水準で有意差があった（ｔ＝−3.191,p<0.001；図２－11－(1)）。また，「B.時々自分が役立たずだと感じる」の平均値は，女子大学出身者 2.53，共学大学出身者 2.62 で，この項目では５％水準で有意差があった（ｔ＝−2.213,p<0.05；図２－11－(2)）。「J.他の人に何をしゃべったらよいのか迷うことが多い」では，平均値が女子大学出身者 2.80，共学大学出身者 2.88 であり，５％水準で有意差があった（ｔ＝−2.137,p<0.05；図２－11－(3)）。

また，共学大学出身者の方が女子大学出身者よりも「１.あてはまる」傾向にあったのは，「L.自分の能力に自信がある方だ」の１項目である。この項目では，平均値が女子大学出身者 2.55，共学大学出身者 2.46 で，この項目では１％水準で有意差があった（ｔ＝2.655,p<0.01；図２－12）。

(4) 項目別検討

①調査対象者にあてはまり，出身大学別に有意差のなかった項目

調査対象者にあてはまり，出身大学別に有意差のなかった項目は３項目あり，まず，「C.自分で決心したことは，がんばることができる」は，平均値の最も小さい項目，および「１.あてはまる」が最も多い項目である。平均値は女子大学出身者が 1.60，共学大学出身者が 1.54 であり，共学大学出身者の方が平均が小さく，より「自分で決心したことはがんばることができる」傾向にある（t=1.896, p<0.10）。「１.あてはまる」と答えた人が，女子大学出身者では 52.4%，共学大学出身者では 55.8%と，いずれも高い値を示している。「２.すこしあてはまる」は，女子大学出身者 36.4%，共学大学出身者 35.2 であり，両方合わせると 90%近い人が「自分で決心したことは，がんばることができる」と感じており，そこからは，自律的に決断し，行動する姿が推測される（図２－９－(1)）。

「F.周りの人からどう思われているのか気になる方である」は，平均値が２番目に大きく，同時に「１.あてはまる」が２番目に多かった項目である。平均値は女子大学出身者が 2.28，共学大学出身者が 2.32 であり，女子大学出身者の方が平均が小さく，若干「周りの人からどう思われているのか気になる」方に偏っている（ｔ＝−0.960,p>0.10）。また，「１.あてはまる」と答えた人は，女子大学出身者の 18.2%，共学大学出身者の 20.3%であり，これは共学大学出身者の方が多い。しかし，「２.すこしあてはまる」では，女子大学出身者が 44.5%，共学大学出身者が 38.3%となり，女子大学出身者の方が多くなる。その結果，両者に差はなく，女子大学・共学大学出身者とも平均が 2.50 よりも小さいことから，

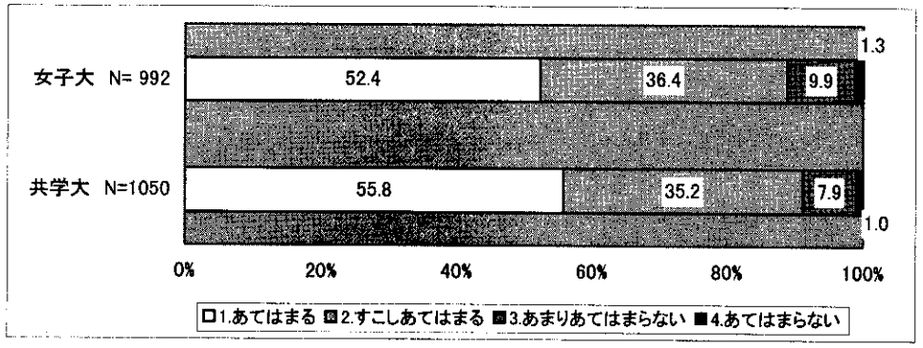


図２－９－(1)　調査対象者にあてはまり，出身大学別に有意差のなかった項目
――C.自分で決心したことは，がんばることができる

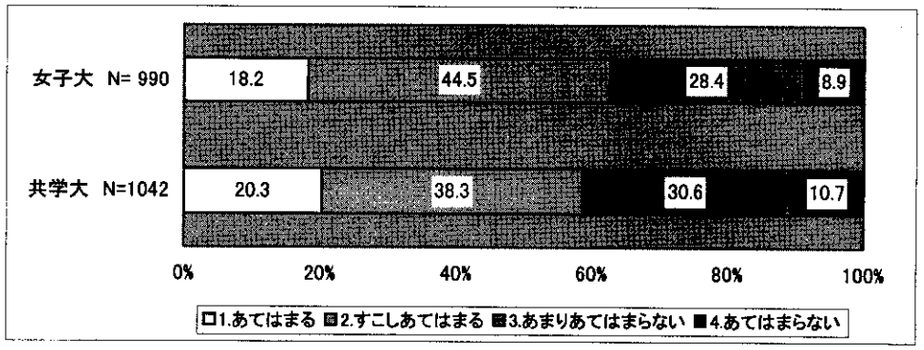


図２－９－(2)　調査対象者にあてはまり，出身大学別に有意差のなかった項目
――F.周りの人からどう思われているのか気になる方である

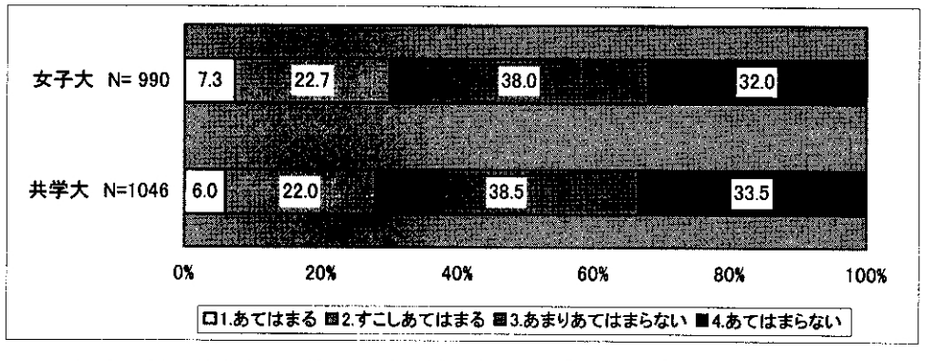


図２－10　調査対象者にあてはまらず，出身大学別に有意差のなかった項目
――G.自分にうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがある

今回の調査対象者はどちらも周りの人の評価を気にする傾向にあるといえる。（図２－９－(2)）。

「G.自分にうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがある」は，全体的にみて平均値が２番目に大きい項目であり，同時に「４.あてはまらない」が２番目に多い項目で，平均値は女子大学出身者が 2.95，共学大学出身者が 2.99 である（ｔ＝－1.168，p>0.10）。また，「４.あてはまらない」と答えているのは，女子大学出身者 32.0%，共学大学出身者 33.5%で，「３.あまりあてはまらない」としている人を合わせると，両者とも 70%を超える人が「自分にうまくやれることなど全然ないといった気持ちになる」ことはほとんどなく，適切な自尊心を持っていることが推測される（図２－10）。

②女子大学出身者の方がよりあてはまる項目

女子大学出身者の方が共学大学出身者に比べて，よりあてはまる項目は以下の３項目である。まず，「K.自分自身を恥ずかしいと思うことがある」では，平均値は，女子大学出身者が 2.63，共学大学出身者が 2.76 であり，ｔ検定により，女子大学出身者と共学大学出身者の間に 0.1%水準で有意差が認められた。平均値は女子大学出身者の方が小さく，共学大学出身者に比べてより「自分自身を恥ずかしいと思う」傾向にある。しかし，両者とも 50%を超える人が「３.あまりあてはまらない」と「４.あてはまらない」と答えており，全体的にみて，「自分自身を恥ずかしいと思う」ことはあまりない中での差異であることに注意しておく必要があろう（図２－11－(1)）。

「B.時々自分が役立たずだと感じる」では，ｔ検定により女子大学・共学大学出身別に５%水準で有意差が認められた。平均値は女子大学出身者が 2.53，共学大学出身者が 2.62 で，女子大学出身者の方が共学大学出身者に比べて平均値が小さく，より「時々自分が役立たずだと感じる」傾向にある。しかしここでも，女子大学出身者・共学大学出身者とも「時々自分が役立たずだと感じる」人と感じない人がほぼ二分されるという同様の傾向を示しており，その中での差異ということがいえよう（図２－11－(2)）。

「Ｊ.他の人に何をしゃべったらよいのか迷うことが多い」では，ｔ検定により女子大学・共学大学の出身別に，５%水準で有意差が認められた。平均値は女子大学出身者 2.80，共学大学出身者 2.88 で，女子大学出身者の値が小さく，より「他の人に何をしゃべったらよいのか迷うことが多い」傾向にある。この項目では，「４.あてはまらない」と答えている人が，女子大学出身者では 25.7%，共学大学出身者は 28.5%，また「３.あまりあてはまらない」が女子大学出身者 36.8%，共学大学出身者 37.5%であり，両者とも 60%を超える人が，「他の人に何をしゃべったらよいのか」あまり迷わないと感じており，差異もその中で生じている（図２－11－(3)）。

***：p＜0.001

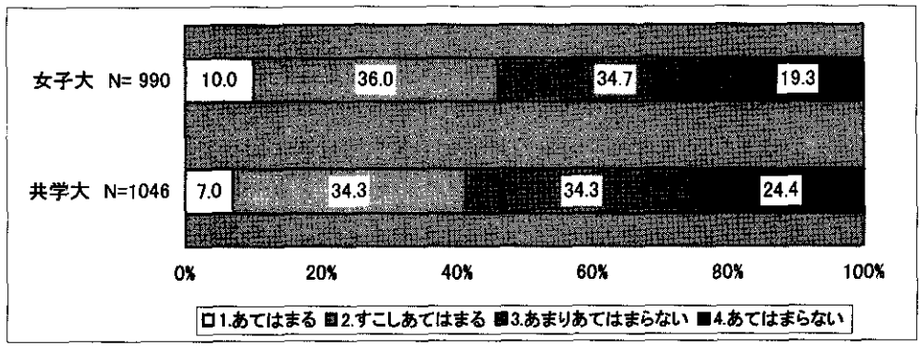


図２－11－(1)　女子大学出身者の方がよりあてはまる項目
――K. 自分自身を恥ずかしいと思うことがある

*：p＜0.05

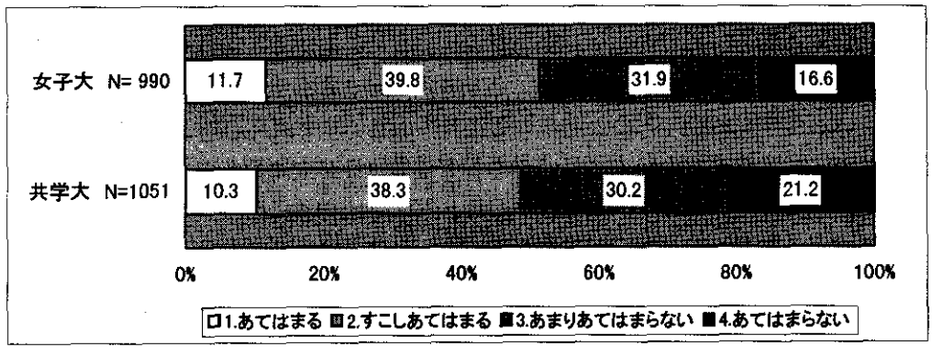


図２－11－(2)　女子大学出身者の方がよりあてはまる項目
――B. 時々自分が役立たずだと感じる

*：p＜0.05

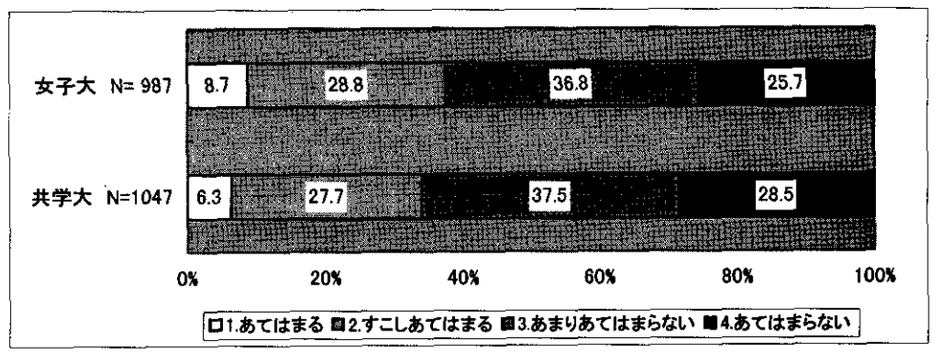


図２－11－(3)　女子大学出身者の方がよりあてはまる項目
――J. 他の人に何をしゃべったらよいのか迷うことが多い

4）リーダーシップ（Q3）

(1) リーダーシップの測定項目

リーダーシップの測定項目（M～X）は，従来のリーダーシップ研究を踏まえ作成した，12項目を用いた。

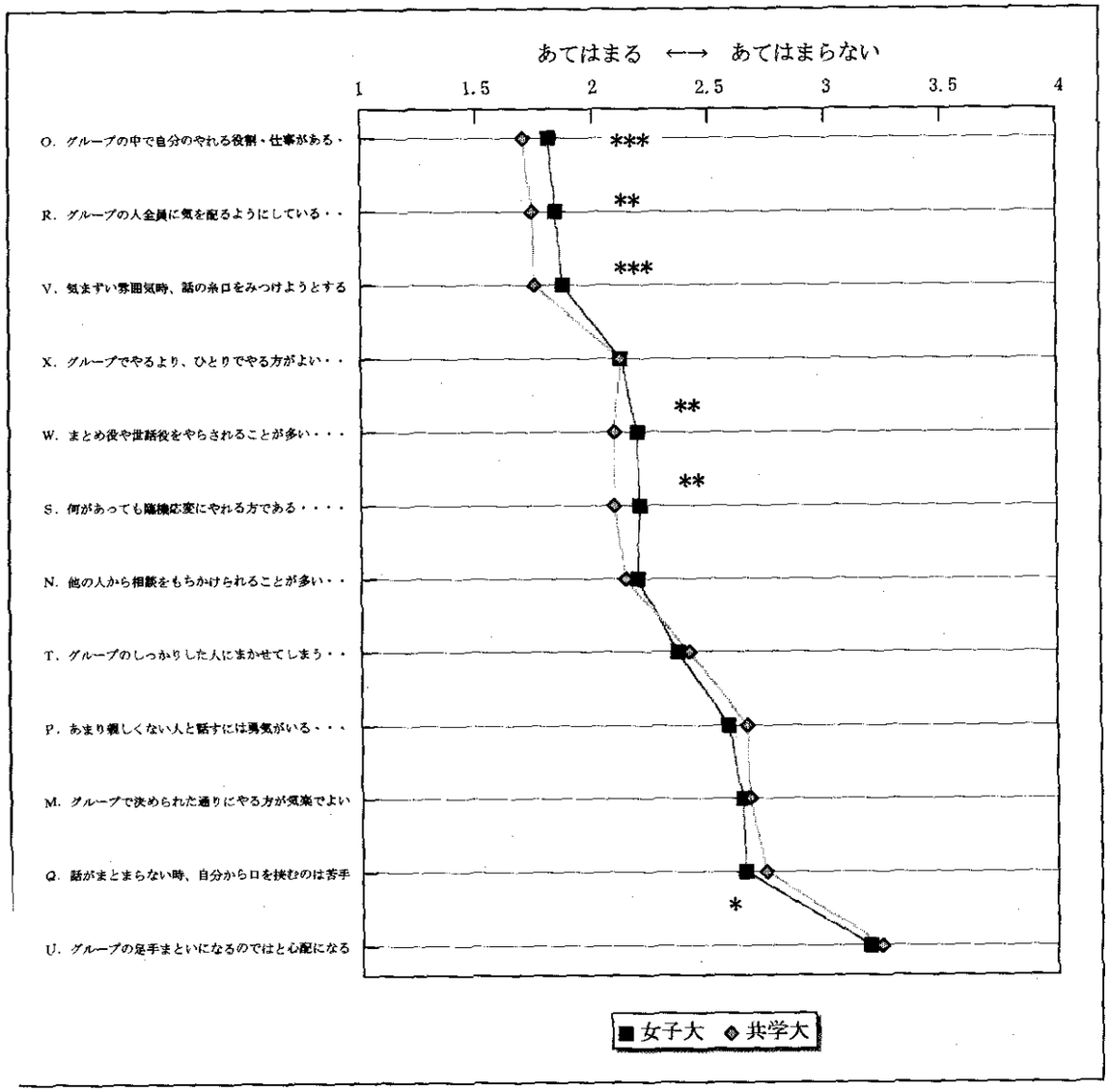
回答は，「1.あてはまる」「2.すこしあてはまる」「3.あまりあてはまらない」「4.あてはまらない」の4段階評定とし，順に1点から4点を与えて得点化した。したがって，得点が小さいほど，その項目内容にあてはまることになる。

(2) 全体的結果

まず，全体的にみて，最も「1.あてはまる」が多いのは，「O.グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」で39.8%，第2位が「R.グループの人全員に気を配るようにしている」の38.4%，第3位が「V.人と気まずい雰囲気になったとき，何とか話しの糸口をみつける方である」の37.2%である。逆に「4.あてはまらない」が最も多いのが，「U.自分がグループの足手まといになるのではないかと心配になる」の42.1%，第2位が「P.あまり親しくない人と話すには勇気がいる方である」の20.9%，第3位が「Q.グループで話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である」の18.9%である。

つぎに，「1.あてはまる」と「2.すこしあてはまる」の合計が最も多いのは，「O.グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」で87.1%，第2位は「R.グループの人全員に気を配るようにしている」の84.8%，第3位が「V.人と気まずい雰囲気になったとき，何とか話しの糸口をみつける方である」の84.6%である。逆に「4.あてはまらない」と「3.あまりあてはまらない」の合計が最も多いのが，「U.自分がグループの足手まといになるのではないかと心配になる」の82.6%，第2位が「Q.グループで話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である」の62.5%，第3位が「M.グループで決められた通りにやる方が気楽でよい」の56.0%である。これらの結果からは，今回の調査対象者がグループの中で，積極的にリーダーシップを発揮している姿が見て取れる。

また，全体的にみて，平均値が最も小さい項目は，「O.グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」の1.75，第2位が「R.グループの人全員に気を配るようにしている」の1.79，第3位が「V.人と気まずい雰囲気になったとき，何とか話しの糸口をみつける方である」の1.81である。逆に全体的にみて平均値が最も大きい項目は，「U.自分がグループの足手まといになるのではないかと心配になる」の3.22，第2位が「Q.グループで話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である」の2.70，第3位が「M.グループで決められた通りにやる方が気楽でよい」の2.66である。



***：$p < 0.001$, **：$p < 0.01$, *：$p < 0.05$

図2－13 リーダーシップ

(3) 女子大学出身者と共学大学出身者の比較

各項目の平均値を女子大学・共学大学出身別にグラフ化したのが図２－13である。さらに，女子大学・共学大学出身別に平均値の差に関するｔ検定を行った。その中で，女子大学出身者の方が共学大学出身者より「１.あてはまる」傾向にあったのが，「Q.グループで話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である」の１項目で，その平均値は，女子大学出身者 2.65，共学大学出身者 2.74 で，５％水準で有意差が認められた（ｔ＝−2.258，p<0.05；図２－15）。

また，共学大学出身者の方が女子大学出身者よりも「１.あてはまる」傾向にあったのが，以下の５項目だった。まず，「O.グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」の平均値は女子大学出身者 1.81，共学大学出身者 1.70 で，この項目では 0.1%水準で有意差が認められた（ｔ＝3.216,p<0.001；図２－16－(1)）。「V.人と気まずい雰囲気になったとき，何とか話しの糸口をみつける方である」では，平均値が女子大学出身者 1.87 に対して共学大学出身者が 1.75 であり，この項目でも 0.1%水準で有意差があった（ｔ＝3.552,p<0.001；図２－16－(3)）。また，「R.グループの人全員に気を配るようにしている」の平均値は，女子大学出身者 1.84，共学大学出身者 1.74 で，この項目でも１％水準で有意差が認められた（ｔ＝3.094,p<0.01；図２－16－(2)）。「S.何があっても臨機応変にやれる方である」では，女子大学出身者の平均値が 2.20，共学大学出身者が 2.09 であり，この項目でも１％水準で有意差がみられた（ｔ＝2.994,p<0.01；図２－16－(5)）。さらに「W.グループのまとめ役や世話役をやらされることが多い」でも，女子大学出身者の平均値が 2.19，共学大学出身者が 2.09 で，１％水準で有意差が認められた（ｔ＝2.701,p<0.01；図２－16－(4)）。

(4)項目別検討

①調査対象者にあてはまらず，出身大学別に有意差のなかった項目

ここで，これらの主な項目について，個別に検討してみると，まず，「U.自分がグループの足手まといになるのではないかと心配になる」は，全体的にみて最も平均値が大い項目であり，同時に「４.あてはまらない」が最も多い項目である。平均値は女子大学出身者が 3.19，共学大学出身者が 3.24 である。「４.あてはまらない」と回答したのは，女子大学出身者が 40.4%，共学大学出身者が 43.6%で，「３.あまりあてはまらない」を含めると，両者とも 80%を超える人が「自分がグループの中で足手まといになるのではないか」という心配はあまりしていないことがわかる（図２－14）。

②女子大学出身者の方がよりあてはまる項目

女子大学出身者の方が，よりあてはまる項目として有意差のあったのは，「Q.グループで話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である」の１項目である。平均値は，女子大学出身者 2.65，共学大学出身者 2.74 で，女子大学出身者の値が小さく，より「グループで話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である」と感じている傾向にある。しかしここでは，「４.あてはまらない」と答えている人が，女子大学出身者の 17.9%，

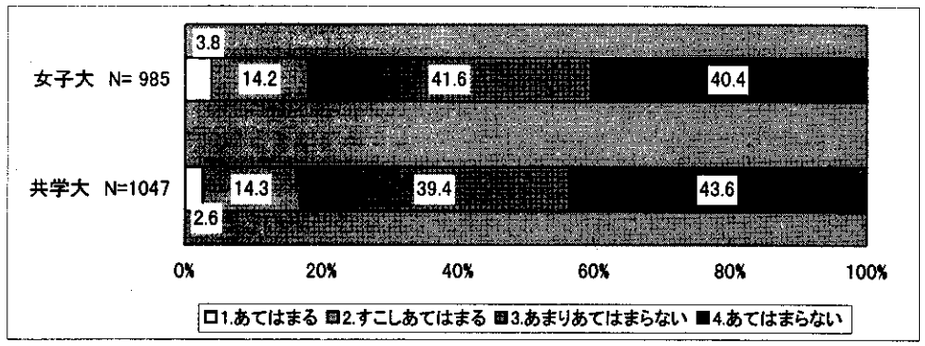


図２－14　調査対象者にあてはまらず，出身大学別に有意差のなかった項目
——U. 自分がグループの足手まといになるのではないかと心配になる

＊：p < 0.05

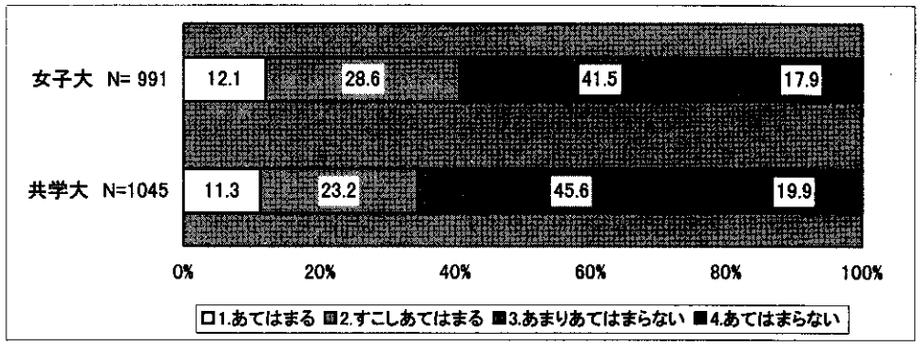


図２－15　女子大学出身者の方がよりあてはまる項目
——Q. グループで話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である

共学大学出身者の19.9%，「3.あまりあてはまらない」が女子大学出身者41.5%，共学大学出身者 45.6%であり，女子大学・共学大学のどちらの出身者も，60%近くの人が自分から口をはさむのを苦手とは感じておらず，違いもその中で生じていると考えられる（図2－15）。

③共学大学出身者の方がよりあてはまる項目

共学大学出身者の方が女子大学出身者に比べて，よりあてはまる傾向にあったのは，以下の5項目である。まず，「O.グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」では，t検定により女子大学・共学大学出身別に0.1%水準で有意差が認められた。平均値は女子大学出身者が1.81，共学大学出身者が1.70であり，共学大学出身者の方が女子大学出身者に比べて平均値が小さく，より「グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」と感じているている。しかし，女子大学出身者の37.7%，共学大学出身者の41.8%が「1.あてはまる」と答えており，「2.すこしあてはまる」を合わせると，共学大学出身者の方が若干多いものの，両者とも85%近い人が「グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」と感じており，その中での差異であるということがいえよう（図2－16－(1)）。

「R.グループの人全員に気を配るようにしている」では，t検定により女子大学・共学大学の出身別に1%水準で有意差が認められた。平均値は女子大学出身者 1.84，共学大学出身者 1.74であり，共学大学出身者の平均値の方が小さく，より「グループの全員に気を配るようにしている」傾向にある。また，「1.あてはまる」と答えた人が女子大学出身者では34.8%，共学大学出身者では41.7%，「2.すこしあてはまる」が女子大学出身者 48.4%，共学大学出身者 44.5%である。どちらも80%を超える人が「グループの人全員に気を配る」よう心がけていることが伺え，差異があるといってもその中でのものであるといえる（図2－16－(2)）。

「V.人と気まずい雰囲気になったとき，何かと話の糸口をみつけようとするほうである」では，t検定により女子大学・共学大学出身別に0.1%水準で有意差が認められた。平均値は女子大学出身者が187，共学大学出身者が1.75であり，共学大学出身者の方の平均値が小さく，より「人と気まずい雰囲気になったとき，何かと話しの糸口をみつけようとする」傾向にある。しかしこれについても，「1.あてはまる」と答えている人が女子大学出身者の32.9%，共学大学出身者の41.3%，「2.すこしあてはまる」が女子大学出身者の50.4%，共学大学出身者の44.7%であり，両方合わせて80%を超える人が，「人と気まずい雰囲気になったとき」に何かしらの努力をしており，両者の差異はその中でのものであることに注意する必要があろう（図2－16－(3)）。

「W.グループのまとめ役や世話役をやらされることが多い」では，t検定により女子大学・共学大学の出身別に1%水準で有意差がみられた。平均値は女子大学出身者が2.19，共学大学出身者が2.09である。したがって共学大学出身者の方が女子大学出身者に比べて平均値が小さく，より「グループのまとめ役や世話役をやらされることが多い」と感じている。ここでも「1.あてはまる」と答えた人は，女子大学出身者の23.2%，共学大学出身

*** : p < 0.001

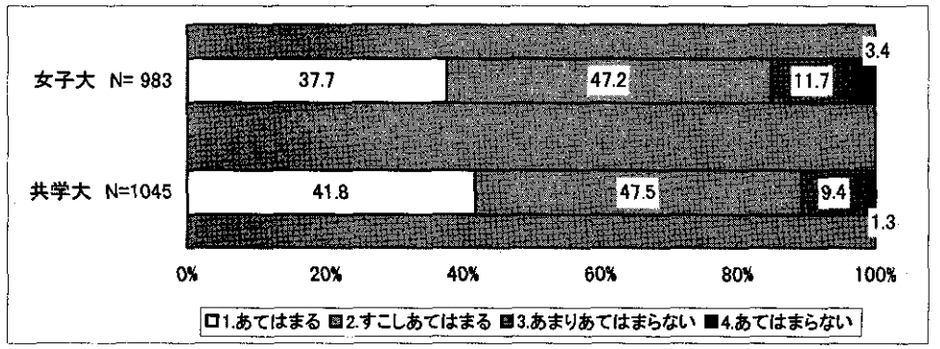


図2－16－(1)　共学大学出身者の方がよりあてはまる項目
——O. グループの中で自分のやれる役割・仕事がある

** : p < 0.01

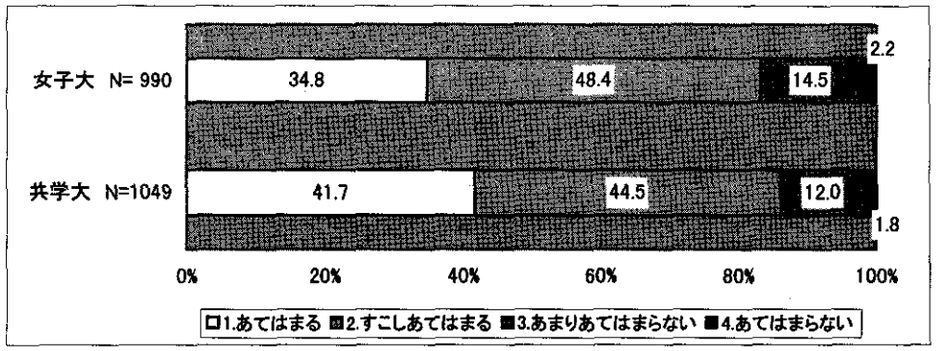


図2－16－(2)　共学大学出身者の方がよりあてはまる項目
——R. グループの人全員に気を配るようにしている

*** : p < 0.001

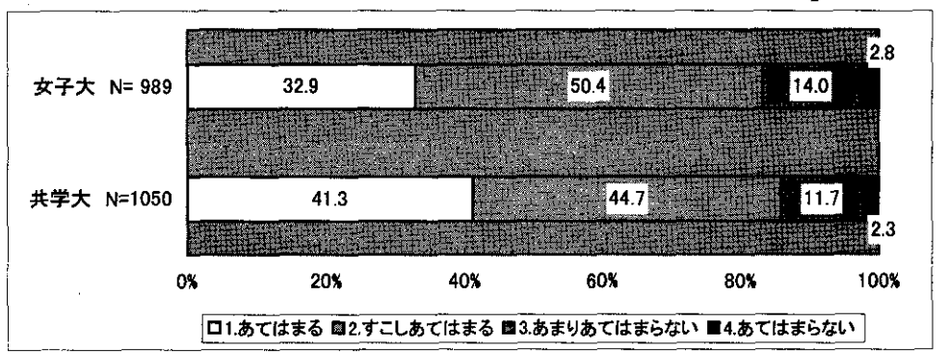


図2－16－(3)　共学大学出身者の方がよりあてはまる項目
——V. 人と気まずい雰囲気になったとき，何かと話の糸口をみつけようとする方である

者の27.0%，「2.すこしあてはまる」では，女子大学出身者の41.8%，共学大学出身者の44.0%であり，どちらも共学大学出身者の方が若干多い。しかし，両方合わせて60%を超える人が「グループのまとめ役や世話役をやらされることが多い」と感じていることになる（図２－**16－(4)**）。

「S.何があっても臨機応変にやれる方である」では，ｔ検定により女子大学・共学大学出身別に１%水準で有意差が認められた。平均値は女子大学出身者が 2.20，共学大学出身者が 2.09 であり，共学大学出身者の平均値の方が小さく，より「何があっても臨機応変にやれる方である」と強く感じていることがわかる。「１.あてはまる」と答えているのは，女子大学出身者の 18.8%，共学大学出身者の 22.5%，「２.すこしあてはまる」が女子大学出身者 48.6%，共学大学出身者 49.9%であり，いずれも共学大学出身者の方が若干多い。しかし，女子大学出身者，共学大学出身者とも，70%近い人が自分は「何があっても臨機応変にやれる」方だと感じており，差異もその中で生じている（図２－**16－(5)**）。

(5)まとめ

以上により，全体的にみて，女子大学出身者，共学大学出身者とも，類似した傾向がみられ，両者ともグループの中で積極的にリーダーシップを発揮している姿が推察された。しかし，このリーダーシップ項目では，12 項目中６項目で女子大学出身者と共学大学出身者の間に有意差が認められた。その中で，女子大学出身者の方がよりあてはまる傾向にあるのが，「話がまとまらないとき，口をはさむのは苦手」の１項目，共学大学出身者の方がよりあてはまる傾向にあるのが，「グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」「グループの人全員に気を配るようにしている」「気まずい雰囲気のとき，話の糸口をみつけようとする」「まとめ役や世話役をやらされることが多い」「何があっても臨機応変にやれる方である」の５項目である。ここからは，女子大学出身者よりも共学大学出身者の方がより積極的にリーダーシップを発揮していることを，自分自身で認知していることが伺える。ここでも自尊心の場合と同様に，対人場面において，女子大学出身者が自分の能力をどう表したらいいのか戸惑っている姿が浮かんでくる。

**：p < 0.01

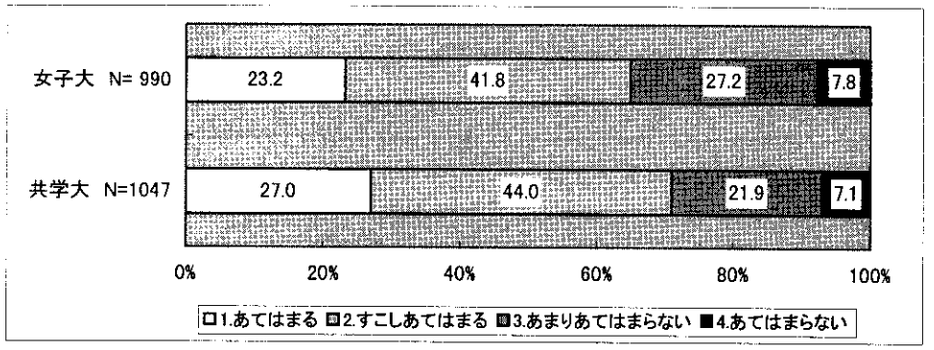


図２－16－(4)　共学大学出身者の方がよりあてはまる項目
――W. グループのまとめ役や世話役をやらされることが多い

**：p < 0.01

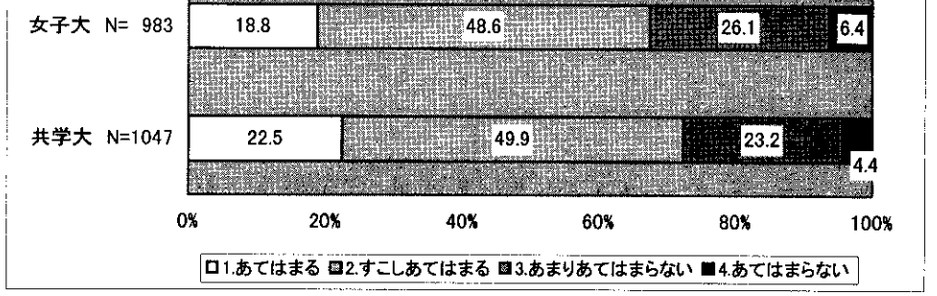


図２－16－(5)　共学大学出身者の方がよりあてはまる項目
――S. 何があっても臨機応変にやれる方である

3．大学評価

1）在学中の大学生活への満足度 (Ⅳ)

Q２．在学中の大学生活への満足度

——女子大学・共学大学出身にかかわらず，

９割が「友人関係」「校風」に満足，５割強が「教員との交流」に不満

共学大学出身者の方が「サークル・クラブ活動」「施設・設備」に

女子大学出身者の方が「授業やゼミなど」「教員の指導」「教員との交流」に満足

（表３－１，図３－１(1) ～(8)）

約 20 年前の大学生活を振り返ってみて，在学中の大学生活のさまざまな側面にどの程度満足していたと評価しているのだろうか。その満足度を，８側面それぞれについて「１．非常に満足」から「４．非常に不満」までの４段階評定で回答を求めた。

その結果，全体で「１．非常に満足」の比率が高かったのは第１位が「A．友人関係」で 36.5%，ついで「F．校風」27.9%，「B．サークル・クラブ活動」23.4%であった。他方，「４．非常に不満」の比率が高かったのは，第１位が「E．教員との交流」で 8.3%，ついで「B．サークル・クラブ活動」の 4.6%であった。「B．サークル・クラブ活動」は非常に満足していた者２割強と，ごく一部の非常に不満だった者とに分かれている。ここで，満足していた者（1,2 の合計）をみると，「E．教員との交流」を除く７側面で，いずれも６割以上が満足であったと回答しており，なかでも「A．友人関係」「F．校風」に９割が満足と回答している。これに対して，「E．教員との交流」に５割強が不満足と回答している（表３－１）。

表３－１　大学生活への満足度

	女子大学 %	共学大学 %	合　計 %	平均(標準偏差) 女子大学	共学大学	t
A.友人関係	90.3	84.1	86.2	1.77(0.66)	1.72(0.64)	1.735
F.校　風	92.9	90.2	89.6	1.85(0.63)	1.82(0.62)	1.032
B.サークル・クラブ活動	68.6	73.1	70.9	2.17(0.81) ＜	2.05(0.81)	3.244 ***
G.施設・設備	67.3	75.8	71.7	2.25(0.67) ＜	2.14(0.65)	4.034 ***
H.職員の対応	75.9	73.6	74.7	2.18(0.62) ＞	2.26(0.57)	-2.912 **
C.授業やゼミなど	78.6	73.2	75.8	2.09(0.64) ＞	2.20(0.62)	-4.017 ***
D.教員の指導	75.8	64.7	60.4	2.14(0.64) ＞	2.32(0.66)	-5.974 ***
E.教員との交流	53.4	40.1	46.6	2.43(0.75) ＞	2.64(0.75)	-6.112 ***

（注１）%は「１．非常に満足」「２．どちらかといえば満足」の合計比率。

（注２）網掛けは 80%以上。

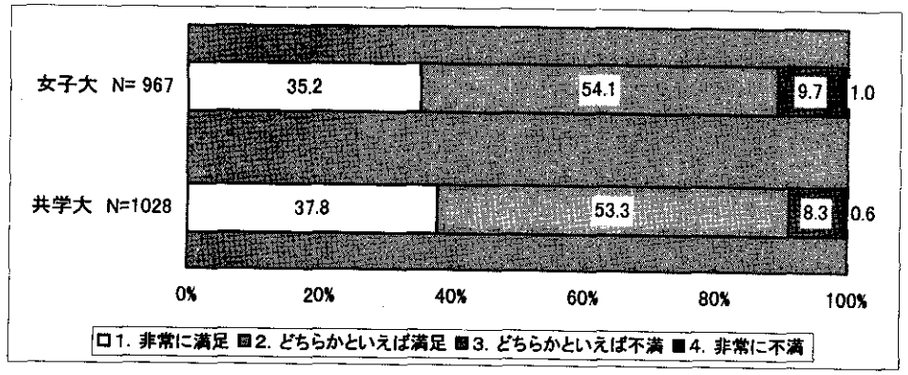


図３－１－（1）　A．友人関係の満足度

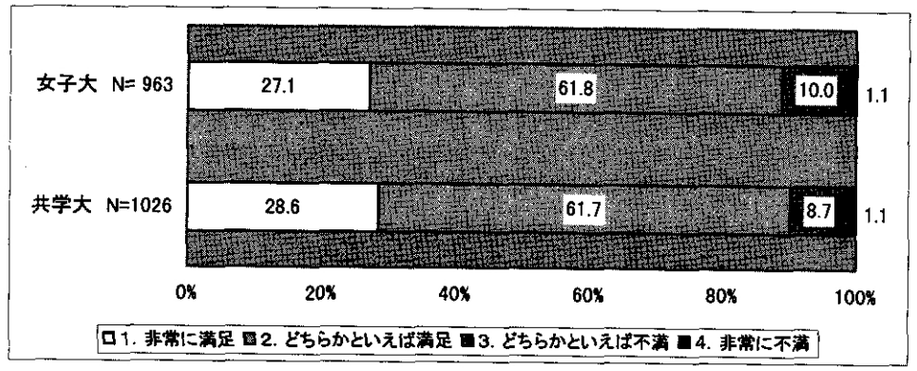


図３－１－（2）　F．校風の満足度

*** : $p < 0.001$

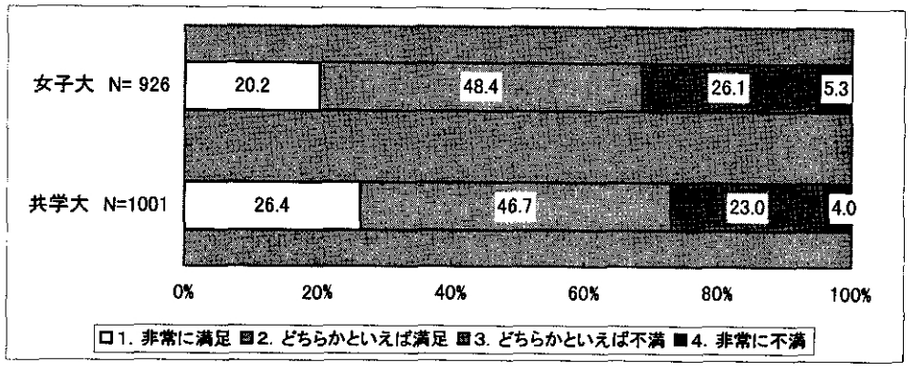


図３－１－（3）　B．サークル・クラブ活動の満足度

*** : p < 0.001

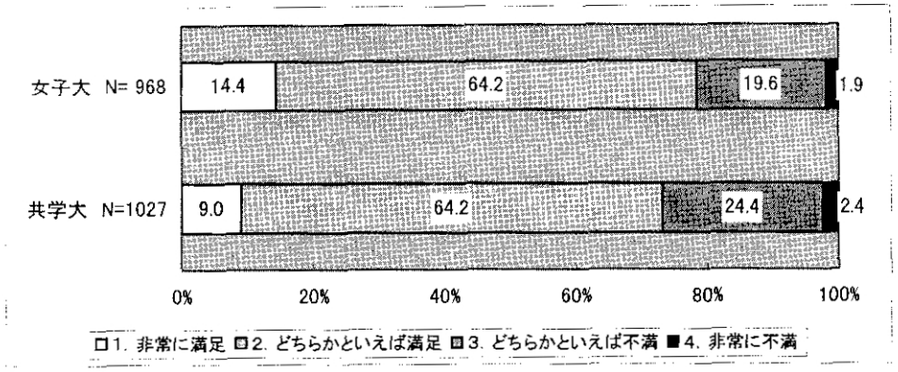


図３－１－（4）　C. 授業やゼミの満足度

*** : p < 0.001

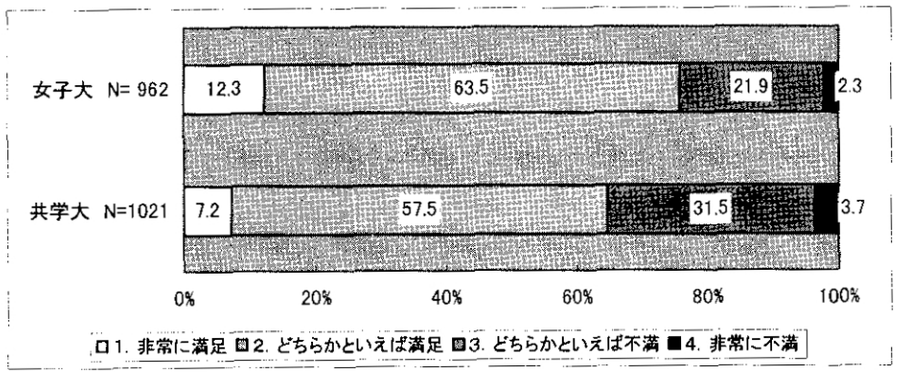


図３－１－（5）　D. 教員の指導の満足度

*** : p < 0.001

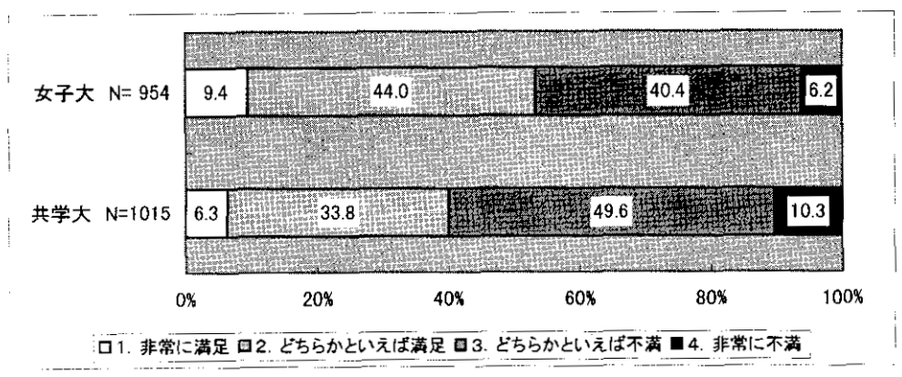


図３－１－（6）　E. 教員との交流の満足度

** : p < 0.01

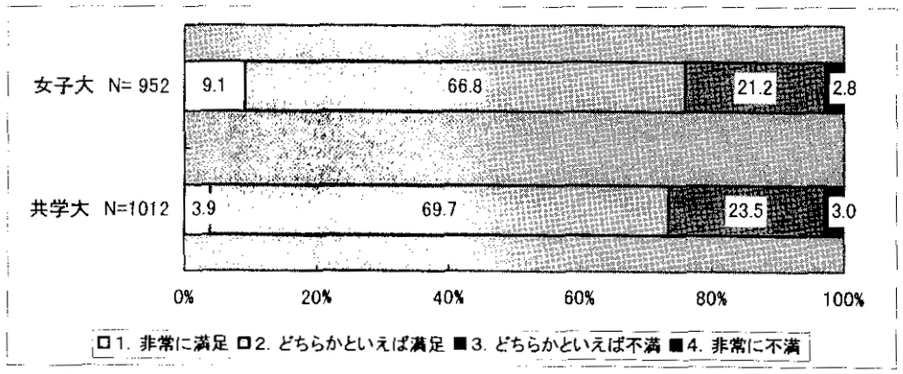


図３－１－（7）　H. 職員の学生に対する対応の満足度

*** : p < 0.001

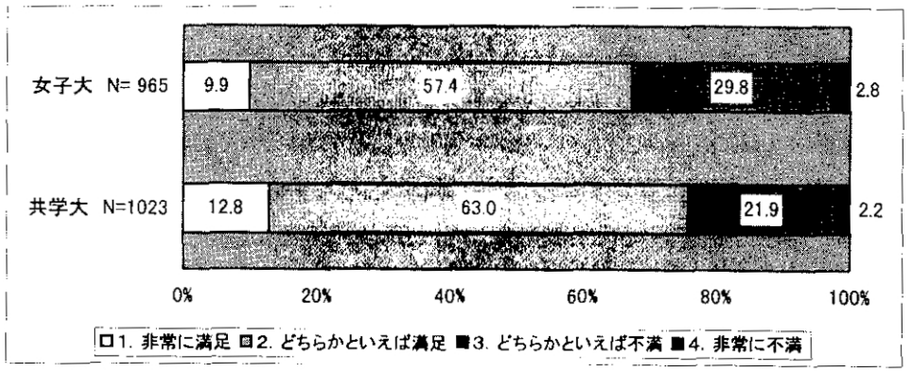


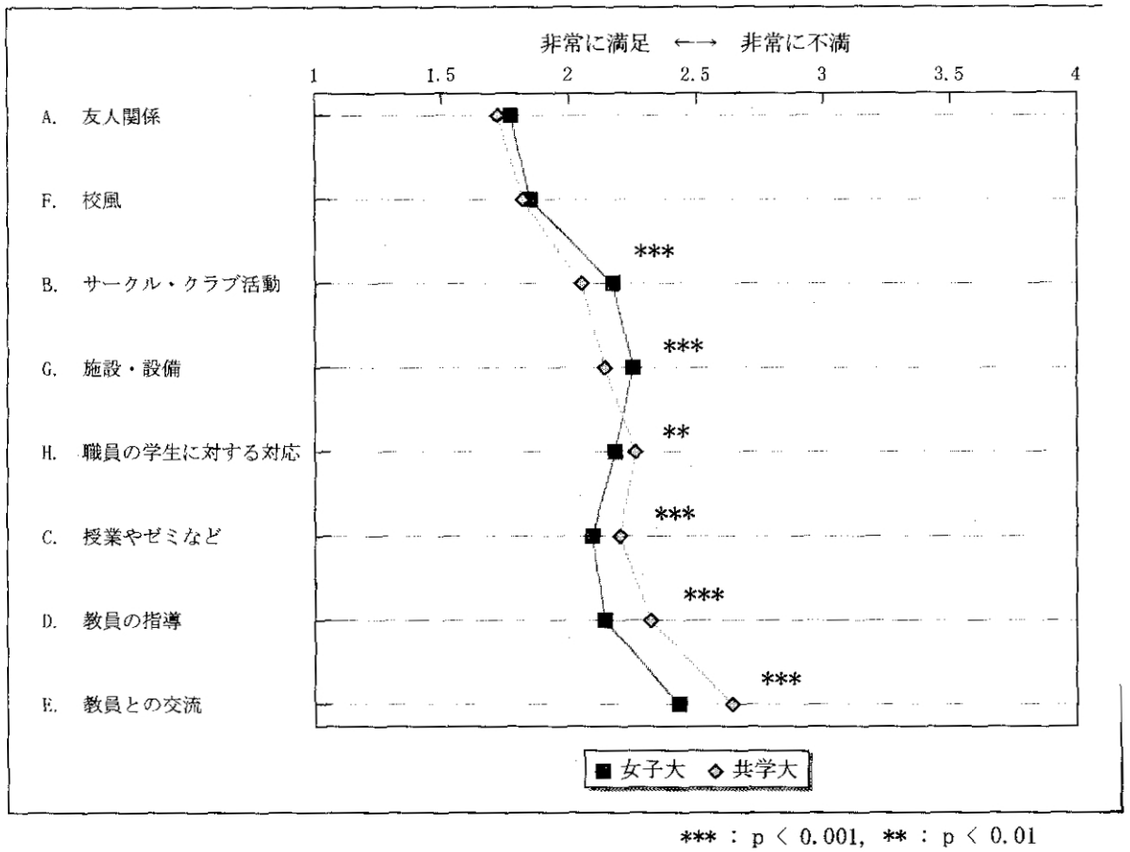
図３－１－（8）　G. 施設・設備の満足度

これを女子大学・共学大学出身別にみると，「1. 非常に満足」とした者は，「A. 友人関係」では女子大学出身者の 35.2%・共学大学出身者の 37.8%，「F. 校風」ではそれぞれ 27.1%・ 28.6%，「B. サークル・クラブ活動」では 20.2%・ 26.4%，「C. 授業やゼミなど」では 14.4%・ 9.0%，「D. 教員の指導」では 12.3%・ 7.2%であり，他は 10%以下であった。満足していた者（1,2 の合計）をみると，第1位の「A. 友人関係」では女子大学出身者の 89.3%，共学大学出身者の 91.1%，第2位の「F. 校風」では，それぞれ 88.9%，90.3%，「B. サークル」では 68.6%，73.1%，「C. 授業・ゼミ」では 78.6%，73.2%，「D. 教員の指導」では 75.8%，64.7%であった。他方，不満足であった者（3,4 の合計）をみると，第1位は「E. 教員との交流」で，女子大学出身者の 46.6%，共学大学出身者の 59.9%と，共学大学出身者の6割が不満足と回答している（図３－１－（1)～(8)；表３－１ ）。

ここで女子大学・共学大学出身別平均の差をみると，平均でも高い満足度を示した「A.

友人関係」では有意傾向を示すものの（t＝1.735, p<0.10），「F.校風」では有意差がない（t＝1.032, p>0.10）。有意差がみられ，女子大学出身者の方が共学大学出身者より満足度が高いのは「C.授業やゼミなど」「D.教員の指導」「E.教員との交流」であった（それぞれ順に，t＝−4.017, p<0.001；t＝−5.974, p<0.001；t＝−6.112，p<0.001）。他方，有意差がみられ，共学大学出身者の方が満足度が高いのは「B.サークル・クラブ活動」「G.施設・設備」であった（それぞれ順に，t＝3.244, p<0.001；t＝4.034, p<0.001；**以上，表3－1・図3－2**）。

このように，大学卒業生は出身大学における「友人関係」や「校風」に高い満足感を示しているものの，「授業やゼミなど」「教員の指導」「教員との交流」「職員の対応」では女子大学出身者の方が，「サークル・クラブ活動」「施設・設備」では共学大学出身者の方が高い満足感を示している。女子大学出身者の方が，授業やゼミなどにおける教員の指導や教員との交流に高い満足感を示しているのは，しばしば指摘される『女子大学の教員のきめ細かい指導・配慮』の結果かもしれない。こうした指導・配慮が女性にとってどのような意味を持つかについては，第Ⅱ部において検討されている。



*** : p < 0.001, ** : p < 0.01

図3－2　大学生活への満足度

2）出身大学卒業資格の有効性

(1) 就職における出身大学卒業資格の有効性　（Ⅰ）

①　大学卒業時の就職の場合

Q1-SQ2. 初職の就職のさいに出身大学卒の条件

――半数は有利と回答，女子大学出身者の方が有利の回答が多い（図3－3）

大学卒業後の就職（初職）に出身大学卒の条件は有利であったかどうかを「1.有利な条件となっていたと思う」「2.そういうことはなかったと思う」「3.むしろ不利な条件だったと思う」「4.どちらともいえない・わからない」の4選択肢で回答を求めた。全体では「1.有利な条件となっていたと思う」と回答している者が49.6%ともっとも多く，「2.そういうことはなかったと思う」が 33.4%，「4.どちらともいえない・わからない」が 14.6%，「3.むしろ不利な条件だったと思う」と回答している者はもっとも少なく 2.4%しかいない。このように，約半数の者が「有利」と回答していることは，1980 年前後に調査対象校の4年制大学卒業資格が，女子の就職にある程度有利に働いていたといえる。

これを女子大学・共学大学別にみると，出身大学別の比率に有意差があり（χ^2＝8.881, p<0.05），「1. 有利」と回答している者は女子大学出身者 51.7%，共学大学出身者 47.5%，「2.そういうことはなかった」が 31.2%，35.6%，「4.どちらともいえない・わからない」が 15.3%，13.9%，「3.むしろ不利」が 1.7%，3.0%であった（**図3－3**）。明らかに，有利であったとする回答は女子大学出身者の方が多く，不利であったとする回答は共学大学出身者の方が多い。このように，女子大学出身者の方が大学卒業後の就職（初職）に出身大学卒の条件は有利であったとするのは，調査対象とした女子大学が第2次大戦以前からの女子教育の歴史があり，卒業後社会的に活躍した・活躍している多くの先輩女性を輩出してきている結果であろうか。

なお，この設問では，「1.有利な条件となっていたと思う」と回答している者が他の大学より多い女子大学や，「2.そういうことはなかったと思う」と回答している者が他の大学より多い共学大学があった。

②現職の場合

Q3-SQ2. 現職の就職のさいに出身大学卒の条件――女子大学・共学大学にかかわらず半数が「そういうことはなかったと思う」と回答（図3－4）

現職の就職のさいに出身大学卒の条件は有利であったかどうかを，初職と同様に4選択肢で回答をもとめたところ，全体では「2. そういうことはなかったと思う」と回答している者が 47.7%ともっとも多く，ついで「1.有利な条件」32.4%，「4.どちらともいえない・わからない」19.3%，「3.むしろ不利な条件」がもっとも少なく 0.6%であった。就職のさいに出身大学卒の条件が有利かどうかは，就職希望の本人に必ずしも明確にされるわけではないから，「どちらともいえない・わからない」という回答が2割いるのも当

然であろうが，出身大学卒の条件が再就職の場合に有利かどうかは，今後のクロス分析によりもう少し明らかになろう。しかし，有利とする者が初職では５割いたのに対して，現職では割強に減少している。

これを女子大学・共学大学別にみると，出身大学別の比率に有意差がなく（$\chi^2=3.024$, $p>0.10$），「２．そういうことはなかったと思う」と回答している者は女子大学出身者 45.6%・共学大学出身者 49.4%，「１．有利な条件となっていたと思う」がそれぞれ 32.0%・ 32.7%，「４．どちらともいえない・わからない」が 21.6%，17.5%，「３．むしろ不利な条件だったと思う」が 0.8%・ 0.4 %であった（図３－４）。

なお，この設問では，ある女子大学では「１．有利な条件となていたと思う」が４割を超え，３校では「２．そういうことはなかったと思う」が５割を超えている。

(2) 結婚における出身大学卒業資格の有効性 （Ⅲ）

Ｑ１－SQ3. 結婚のさいに出身大学卒の条件――４割は有利ということはなかったと回答，女子大学出身者の方が有利の回答が多い（図３－５）

結婚のさいに出身大学卒の条件は有利であったかどうかを，就職と同様に４選択肢で回答をもとめたところ，全体では「２．そういうことはなかったと思う」と回答している者が 41.9%ともっとも多く，ついで「１．有利な条件となっていたと思う」30.6%，「４．どちらともいえない・わからない」が 27.0%，「３．むしろ不利な条件だったと思う」がもっとも少なく 0.5%であった。さきの初職のさいの回答と比較すると，初職では有利とする者が５割いたのに対して，結婚では３割しかいない。

これを女子大学・共学大学別にみると，出身大学別の比率に有意差があり（$\chi^2=42.622$, $p<0.001$），「２．そういうことはなかったと思う」と回答している者は女子大学出身者 35.1%・共学大学出身者 48.6%，「１．有利な条件となっていたと思う」がそれぞれ 37.1%・ 24.3%，「４．どちらともいえない・わからない」が 27.3%・ 26.8%，「３．むしろ不利な条件だったと思う」が 0.6%・ 0.3%であった（図３－５）。ここでは，女子大学出身者の場合，もっとも多いのが「有利な条件となっていたと思う」で４割弱に達し，ついで「そういうことはなかったと思う」が多い。これに対して，共学大学出身者の場合にはこれらの回答が逆転し，もっとも多いのが「そういうことはなかったと思う」で５割近くに達しており，「有利な条件となっていたと思う」は２割強しかいない。

なぜこのような結果になったかは，必ずしも明らかではない。が，調査対象とした共学大学のサークルでは，今なお女子のほとんどが女子大学の学生で占められていたり，女子大学の学生しか入会させなかったり，あるいは伝統的性役割分担が徹底していたりするサークルがかなりあると聞く。こうしたサークルは，共学大学の男子学生と女子大学の学生の将来の配偶者との出会いの場になっている。そこで女子学生に求められるのは，伝統的女らしさであろう。今回の結果は，共学大学より女子大学の女子学生の方が伝統的女らしさがあると男子学生から認められているからなのであろうか。

＊：$p < 0.05$

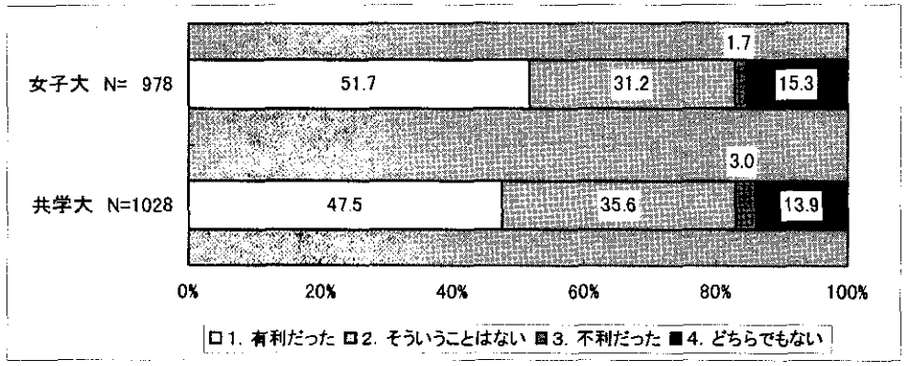


図３－３ 出身大学卒業資格の有効性――大学卒業時の就職の場合

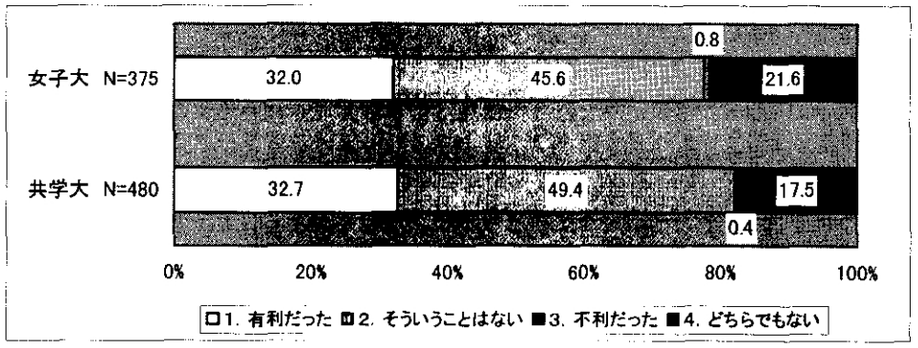


図３－４ 出身大学卒業資格の有効性――現職の場合

＊＊＊：$p < 0.001$

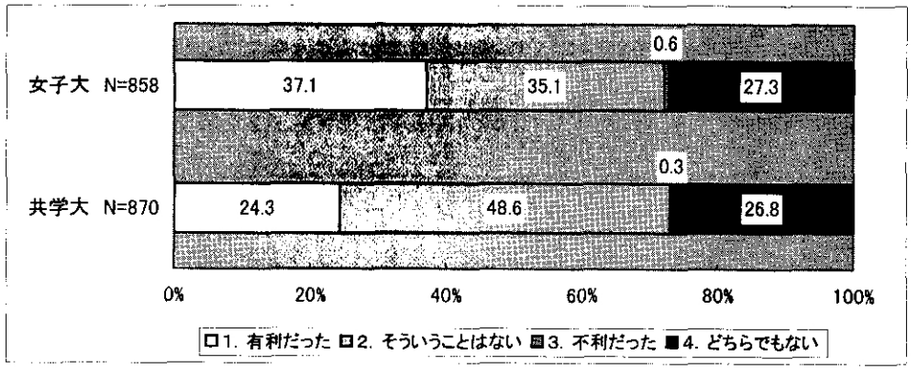


図３－５ 出身大学卒業資格の有効性――結婚の場合

3）大学教育の効用観　（Ⅳ）

Q１．大学教育が，これまでの職業・家庭生活・社会的活動にどの程度役立っているか
――３領域のいずれでも６，７割が役立っていると評価，
とくに家庭生活では女子大学出身者の方が評価

大学で受けた教育が，これまでのに生活にどの程度役立っているかどうかを４段階評定で，職業・家庭生活・社会的活動の３領域別に尋ねた。その結果を示す**表３－２**をみると，まず，職業では順に 32.3%, 36.3%, 20.1%, 11.3%で，役立っているとする者が 68.6%と７割近い。つぎに家庭生活では「１.役立っている」が 20.4%，「２.まあ役立っている」が 41.6%，「３.あまり役立っていない」が 28.2%，「４.役立っていない 」が 9.8%で，役立っているとする者が 62.0%と６割を越える。そして，社会的活動では 18.6%，41.3%，29.5%，10.6%で，役立っているとする者が 59.9%と６割近い。このように，職業・家庭生活・社会的活動のいずれでも６，７割が大学教育は役立っていると回答しているが，とくに職業に関して大学教育が役立っていると評価する者が多い。

これを女子大学・共学大学別に示す**図３－６－（1）～（3）**をみると，まず職業・社会的活動では「１.役立っている」は共学大学出身者の方が，「２.まあ役立っている」は女子大学出身者の方が評価する傾向にある（**図３－６－(1)(2)(3)**）。これに対して，家庭生活では「１.役立っている」「２.まあ役立っている」ともに女子大学出身者の方が共学大学出身者より大学教育が役立っていると評価する傾向にある。これらの平均の差を領域別にみると，家庭生活のみで有意差があり（ｔ＝－2.434，p<0.05），女子大学出身者の方が共学大学出身者より大学教育が役立っていると評価している（**表３－２**）。

表３－２　大学教育は役立っているか

		1.役立っている	2.まあ役立っている	3.あまり役立っていない	4.役立っていない	平均（標準偏差）	t
職　業	女子大学	30.4%	37.9%	20.7%	11.0%	2.12(0.97)	
	共学大学	34.1	34.7	19.5	11.7	2.09(1.00)	
	（計）	(32.3)	(36.3)	(20.1)	(11.3)		0.807
家庭生活	女子大学	22.4%	42.0%	26.5%	9.1%	2.22(0.90)	
	共学大学	18.6	41.3	29.8	10.4	2.32(0.89)	
	（計）	(20.4)	(41.6)	(28.2)	(9.8)		-2.434 *
社会的活動	女子大学	17.4%	43.4%	29.0%	10.2%	2.32(0.88)	
	共学大学	19.7	39.4	29.9	11.0	2.32(0.91)	
	（計）	(18.6)	(41.3)	(29.5)	(10.6)		-0.046

（注）＊：p<0.05

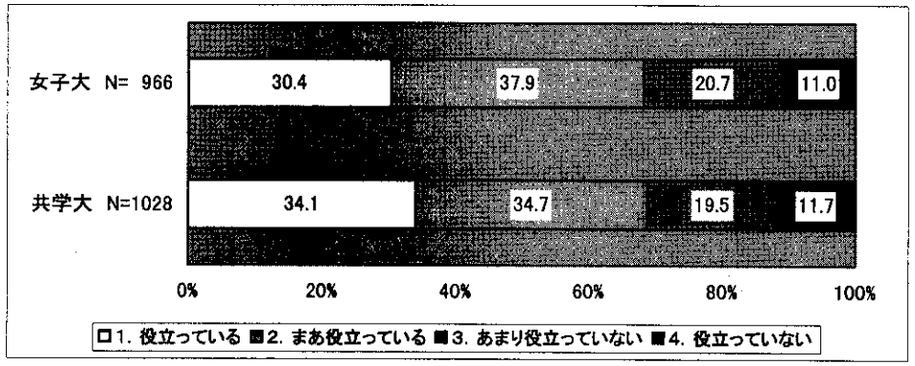


図３－６－（1）　職業への大学教育の効用

＊：ｐ＜0.05

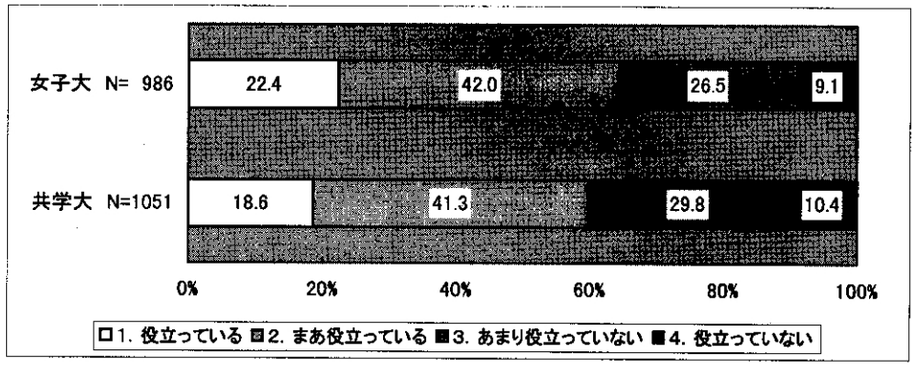


図３－６－（2）　家庭生活への大学教育の効用

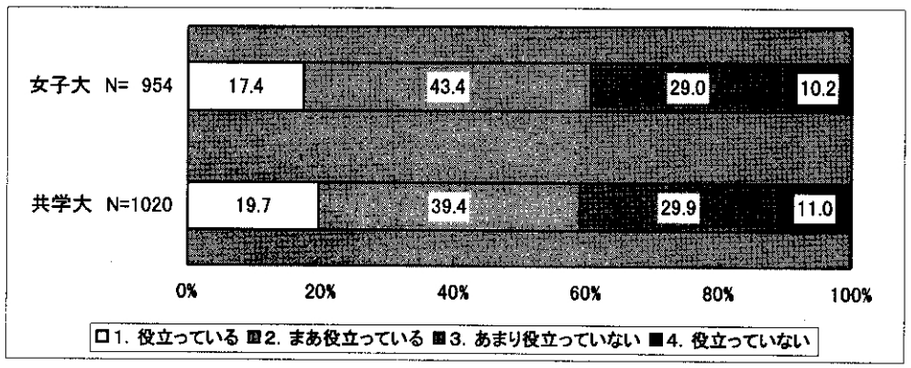


図３－６－（3）　社会的活動への大学教育の効用

SQ. 大学教育で一番役立った内容

――職業では「専門的知識や技能」，家庭生活・社会的活動では「価値観の形成」

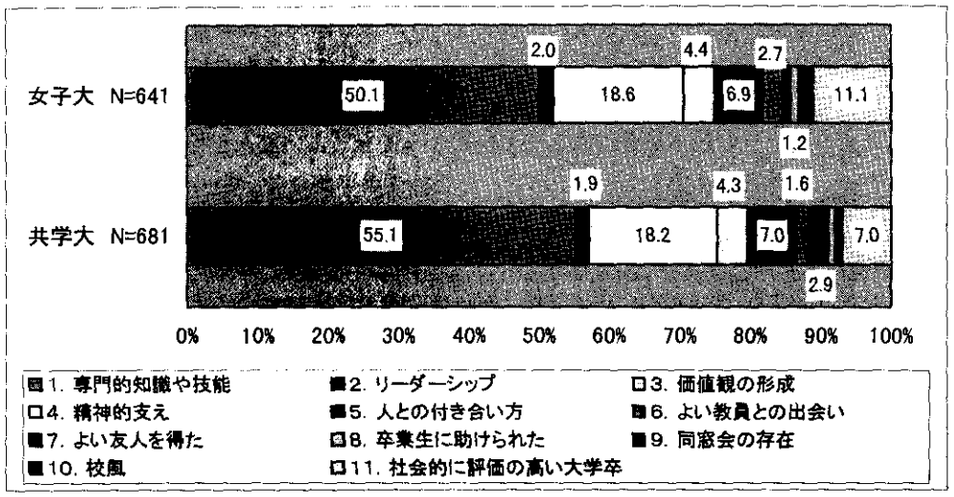
大学教育が役立っていると回答した者に，その内容を 11 選択肢から，３領域別に１番目に役立った内容・２番目に役立った内容をひとつ選択してもらった。

その結果，職業で１番目に役立った内容の第１位は「1.専門的知識や技能が身に付いた」で52.6%，ついで「3.自分の価値観を形成できた」18.4%であり，他は10%以下であった。つぎに，家庭生活で１番目に役立った内容の第１位は「３．自分の価値観を形成できた」で 51.1%，ついで「７．よい友人を得ることができた」17.7%，「4.生きていく上で精神的支えを得た」13.4%と続き，他は 10%以下であった。社会的活動で１番目に役立った内容の第１位は「３．自分の価値観を形成できた」で 36.3%，ついで「5.人との付き合い方が身についた」17.5%，「7.よい友人を得ることができた」11.7%と続き，他は 10%以下であった。先に述べたように，６，７割は大学教育が役立っていると評価しているものの，その役立っている内容は領域別に異なり，家庭生活・社会的活動では「価値観の形成」が，職業では「専門的知識や技能」が評価されている。

これを女子大学・共学大学別に領域別にみると，まず職業で１番目に役立った内容として「1.専門的知識や技能」をあげている者は，女子大学出身者 50.1%・共学大学出身者 55.1%，「3.価値観の形成」は 18.6%・ 18.2%で，「11.大学の社会的評価」は 11.1%・ 7.0%であった（図３－７－(1)）。すなわち，「専門的知識や技能」では明らかに共学大学出身者の方が高く評価しているが，「価値観の形成」では差がなく，「大学の社会的評価」では女子大学出身者の方が若干高く評価している。

また，家庭生活で１番目に役立った内容として「価値観の形成」をあげている者は女子大学出身者の 49.8%・共学大学出身者の 52.5%，「よい友人」はそれぞれ 15.4%・ 20.0%，「精神的支え」は 13.6%・ 13.1%，「専門的知識や技能」は 12.3%・ 7.1%であった（図３－７－(2)）。すなわち，「価値観の形成」「よい友人」では共学大学出身者の方が，「専門的知識や技能」では女子大学出身者の方が役立っていると若干高く評価しているが，「精神的支え」では差がない。

さらに，社会的活動で１番目に役立った内容として「価値観の形成」をあげている者は，女子大学出身者の 38.2%・共学大学出身者の 34.4%，「人との付き合い方」は 16.5%・ 18.5%，「よい友人」は 12.0%・ 11.5%，「専門的知識や技能」は 6.3%・ 10.9%であった（図３－７－(3)）。すなわち，「価値観の形成」「人との付き合い方」「専門的知識や技能」では共学大学出身者の方が，「よい友人」では女子大学出身者の方が若干高く評価しているが，「精神的支え」ではほとんど差がない。



（注）以下，図３－７－(3) まで，凡例同じ

図３－７－（1）　職業で一番役立ったこと

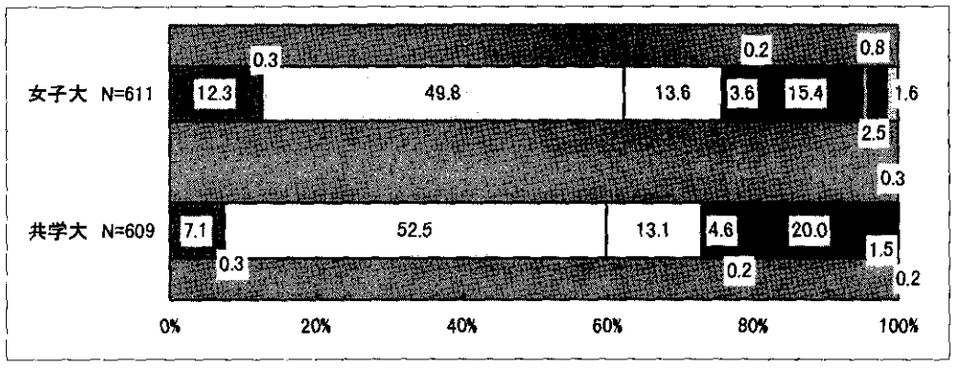


図３－７－（2）　家庭生活で一番役立ったこと

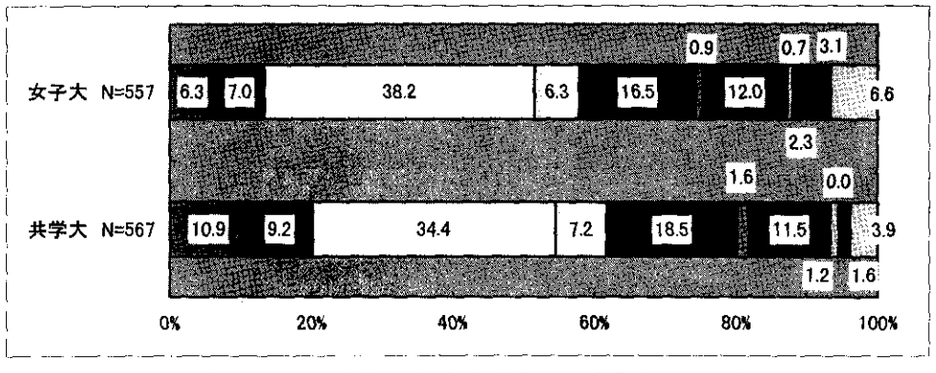


図３－７－（3）　社会的活動で一番役立ったこと

4）大学時代の友人の影響　（Ⅳ）

すでに1）で述べたように，在学中の満足度の第1位は「友人関係」である。また，2）で述べたように，その後1番目に役立った内容としても「よい友人を得ることができた」とする者は，家庭生活の第2位（17.7%），社会的活動の第4位（11.7%）にあげられている。これに2番目にあげた者（家庭 22.8%，社会的活動 16.1%）も加えると，家庭では 40.5%，社会的活動では 27.8%に達する。大学において3，4割が「よい友人を得ることができた」としている。このように，大学時代の友人の影響は大きい。

では，大学時代の友人と現在どの程度付き合っているのだろうか（現在の交流度），大学時代の友人をどのように位置づけているのであろうか（位置づけ）。

Q3．大学時代の友人との現在の交流度

――6割強が現在も交流しているが，共学大学出身者の方が交流

大学時代の友人と現在どの程度付き合っているのか，現在の交流度を，「1．よくつきあっている」から「4．まったくつきあっていない」までの4段階評定で回答を求めた。

その結果，全体では「1．よくつきあっている」21.3%，「2．まあつきあっている」44.5%，「3．あまりつきあっていない」29.9%，「4．まったくつきあっていない」 4.3%であり，よくつきあっている者は約2割，まったくつきあっていない者はごくわずかである。何らかの交流のある者（1,2 の合計）は 65.8%になり，6割強の者が大学時代の友人と現在も交流している。

これを女子大学・共学大学出身別にみると，その比率に若干の有意差があり（$\chi^2=6.290$, $p<0.10$），「1．よくつきあっている」とした者は女子大学出身者の 20.7%・共学大学出身者の 21.8%，「2．まあつきあっている」がそれぞれ 43.2%・ 45.7%，「3．あまりつきあっていない」が 32.3%・ 27.6%，「4．まったくつきあっていない」が 3.7%・ 4.8%であり，何らかの交流のある者(1,2 の合計）はそれぞれ 63.9%・ 67.5%であった（図3－8）。すなわち，大学時代の友人と現在も交流している者は，共学大学出身者の方が女子大学出身者よりやや多い。

Q4．大学時代の友人の位置づけ

――女子大学出身，共学大学出身にかかわらず，9割が今後も交流希望

大学時代の友人をどのように位置づけているかを，「1．とても重要であり，大事にしていきたい」「2．何らかの形で付き合いは続けていきたい」「3．大学時代の友人関係よりも，今の人間関係を大事にしたい」「4．その他」の4選択肢から，ひとつ選択を求めた。

その結果，もっとも多かったのは「2．何らかの形で付き合いは続けていきたい」で 48.3%，ついで「1．とても重要であり，大事にしていきたい」41.1%，「3．大学時代の友人関係よりも，今の人間関係を大事にしたい」 9.2%，「4．その他」 1.4%であった。

約 20 年前の友人を重要な関係と重視している者が4割もおり，今後も交流したいとする者（1,2 の合計）は9割もいる。

これを女子大学・共学大学出身別にみると，有意差はみられず（$\chi^2=0.537$, $p>0.10$），もっとも多かった「2．何らかの形で付き合いは続けていきたい」とした者は女子大学出身者の 48.8%・共学大学出身者の 47.9%，ついで「1．とても重要であり，大事にしていきたい」がそれぞれ 40.4%・ 41.8%，「3．大学時代の友人関係よりも，今の人間関係を大事にしたい」 9.5%・ 8.9%，「4．その他」1.3%・ 1.4%であった（図3－9）。

以上の結果から，女子・女性の生涯にとって，大学時代が友人をつくる上で，きわめて大きな意味を持っていることが示唆されよう。

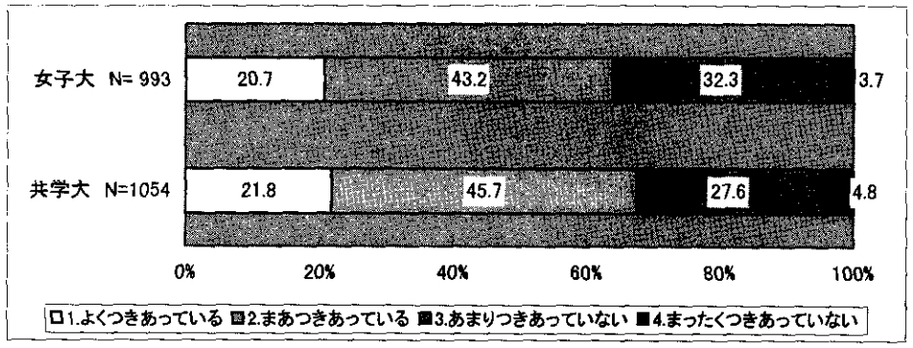


図3－8　大学時代の友人との交流度

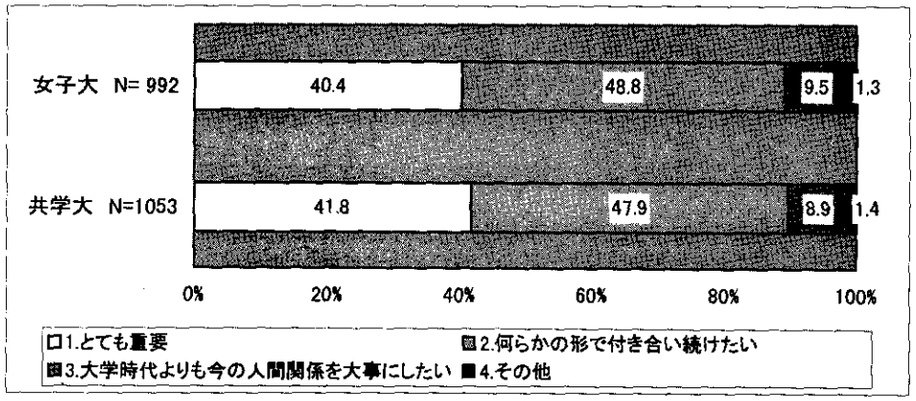


図3－9　大学時代の友人の位置づけ

５）大学時代の教師の影響　（Ⅳ）

「友人関係」が在学中の満足度の第１位だったのに対して，「教員の指導」「教員との交流」に対する満足度は，いずれも低いものであった。また，大学教育の役立っている内容でも，「よい教員と出会うことができた」を第１位にあげている者は，家庭生活で0.2%，職業で2.1%，社会的活動で1.2%，第２位にあげている者は，同じく2.4%，6.5%，2.3%と，きわめて少ない。このように，卒業後の生活にとって，大学時代の教員の影響は小さいといえる。しかし，大学の今後を考える上で，教員の影響を考えることは重要であり，無視することはできない。そこで，大学時代の教員からの影響を，卒業後 20 年を経た女性がどのように評価しているのかを尋ねることにした。

Ｑ５．大学時代の教師の影響度

――影響ありは５割弱だが，女子大学出身者の方が教師に影響を受けたと回答

（図３－10）

大学時代の教師にどの程度影響を受けたかを，「１．非常に影響を受けた」から「４．ほとんど影響は受けなかった」までの４段階評定で回答を求めた。

その結果，「１．非常に影響を受けた」が12.7%，「２．少し影響を受けた」が33.6%，「３．あまり影響は受けなかった」が 36.5%，「４．ほとんど影響は受けなかった」が 17.3%であり，「影響を受けた」とする者(1と2の合計）は46.3%で半数弱であった。

これを女子大学・共学大学出身別にみると，「１．非常に影響を受けた」とした者は女子大学出身者の 15.2%・共学大学出身者の 10.4%，「２．少し影響を受けた」がそれぞれ39.6%・ 27.9%，「３．あまり影響は受けなかった」が 33.2%・ 39.5%，「４．ほとんど影響は受けなかった」が 12.0%・ 22.2%であり，「影響を受けた」とする者(1と2の合計）はそれぞれ 54.8%・ 38.3%であった（図３－10)。

ここで女子大学・共学大学出身別平均の差をみると，女子大学出身者平均 2.42（標準偏差 0.89）・共学大学出身者平均 2.73（標準偏差 0.92）で，有意差があり（ｔ＝－7.895，$p<0.001$），明らかに女子大学出身者の方が共学大学出身者より大学時代の教師に影響を受けたとしており，共学大学出身者はその平均からむしろあまり影響を受けなかったとする傾向にある。

SQ1.　大学時代の教師の影響内容

――女子大学・共学大学出身にかかわらず，「物事の考え方や学び方」に，

女子大学出身者の方が「研究や仕事への姿勢」「女性の生き方やよさ」「自信」に影響を受けている（図３－12－（1)～(8) および表３－３）

大学時代の教師に影響を受けたと回答した者のみに，その内容の８項目について，「１．あてはまる」から「４．あてはまらない」までの４段階評定で回答を求めた。

*** : $p < 0.001$

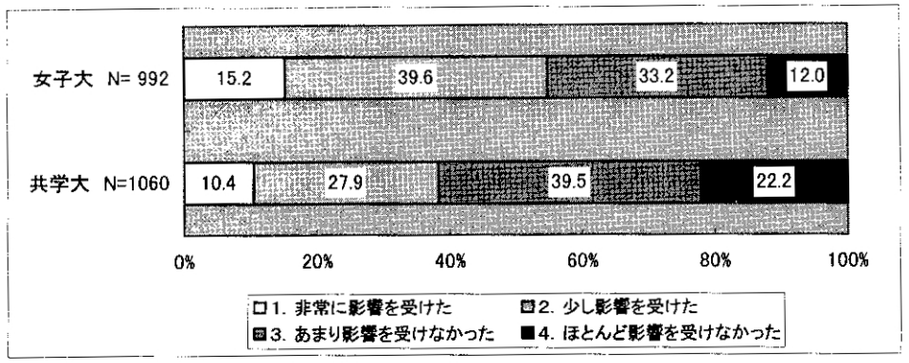


図３－10　大学時代の教師の影響度

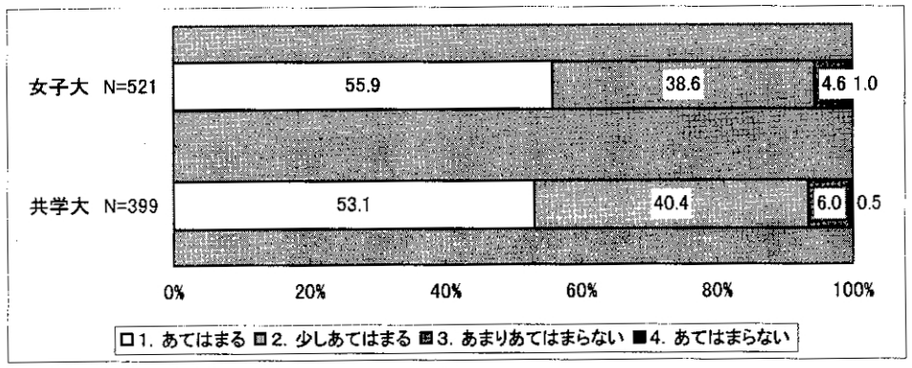


図３－11－（1）　大学時代の教師の影響――ものごとの考え方や学び方を学んだ

** : $p < 0.01$

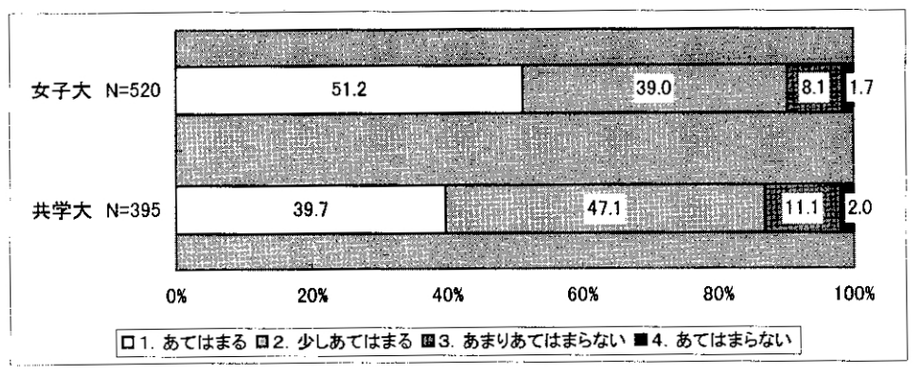


図３－11－（2）　大学時代の教師の影響――研究や仕事に対する姿勢を学んだ

まず，大学時代の教師に影響を受けたと回答した比率（「1.あてはまる」「2.少しあてはまる」の合計）を項目別にみると，90%前後の者が影響を受けたという項目も8項目中2項目あり，40%以上は全部で6項目ある。すなわち，比率の高い順に「1.物事の考え方や学び方」94.0%，「2.研究や仕事への姿勢」88.7%，「7.女性教員から生き方を学んだ」52.2%，「3.人間関係の持ち方や気配り」50.4%，「4.自信をもつよう励まされた」48.5%，「5.女性教員から女性のよさを学んだ」40.2%であった（表3－3）。他方，教師からの影響が少ないのは，「6.男性教員から男性のよさを学んだ」17.9%，「8.男性教員から生き方を学んだ」33.0%の2項目であった。

これを女子大学・共学大学出身別に比率でみたのが図3－11－（1）～(8)であり，平均でみたのが表3－3である。平均で有意差があったのは5項目であった。すなわち，90%前後の者が影響を受けたという「1.物事の考え方や学び方」では差はなく，「2.研究や仕事への姿勢」では女子大学出身者の方が共学大学出身者より強く影響を受けている。また，4割以上が影響を受けたという「7.女性教員から女性の生き方」「4.自信をもつよう励まされた」「5.女性教員から女性のよさを学んだ」では，いずれも明らかに女子大学出身者の方が影響を受けているが，「3.人間関係の持ち方や気配り」では差がない。他方，「6.男性教員から男性のよさを学んだ」では教師からの影響をあまり受けていないものの，共学大学出身者の方が影響を受けていず，「8.男性教員から男性の生き方を学んだ」では差はなく，あまり影響を受けていない。以上の結果をまとめて示したのが，図3－12である。

このように，大学時代の教師から影響を受けた者は，全体では46.3%（950名）と半数弱であったが，影響を受けた者の女子大学・共学大学出身別には大きな差がみられ，全体的にも女子大学出身者の方が共学大学出身者より強い影響を受けている。その影響の内容

表3－3　大学時代に受けた教師の影響内容

	女子大学 %	共学大学 %	合　計 %	平均(標準偏差) 女子大学	共学大学	t
Q5.全体的影響度	54.8	38.3	46.3	2.42(0.89)	> 2.73(0.92)	−7.895***
2.研究や仕事への姿勢	90.2	86.8	88.7	1.60(0.71)	> 1.75(0.73)	−3.139**
4.自信をもつよう励まされた	50.7	45.7	48.5	2.41(0.95)	> 2.55(0.90)	−2.178*
5.女性教員から女性のよさ	55.9	19.4	40.2	2.37(1.02)	> 3.19(0.91)	−12.308***
7.女性教員から女性の生き方	70.9	26.6	52.2	2.10(0.95)	> 3.09(0.93)	−15.269***
6.男性教員から男性のよさ	20.7	14.1	17.9	3.08(0.78)	> 3.30(0.77)	−4.214***
1.物事の考え方や学び方	94.5	93.5	94.0	1.51(0.63)	1.54(0.63)	−0.763
3.人間関係や気配り	49.2	51.9	50.4	2.48(0.94)	2.41(0.90)	0.976
8.男性教員から男性の生き方	31.0	35.7	33.0	2.91(0.91)	2.86(0.97)	0.817

（注1）%は「1.あてはまる」「2.少しあてはまる」の合計比率。

（注2）網掛けは50%以上。

*** : p < 0.001

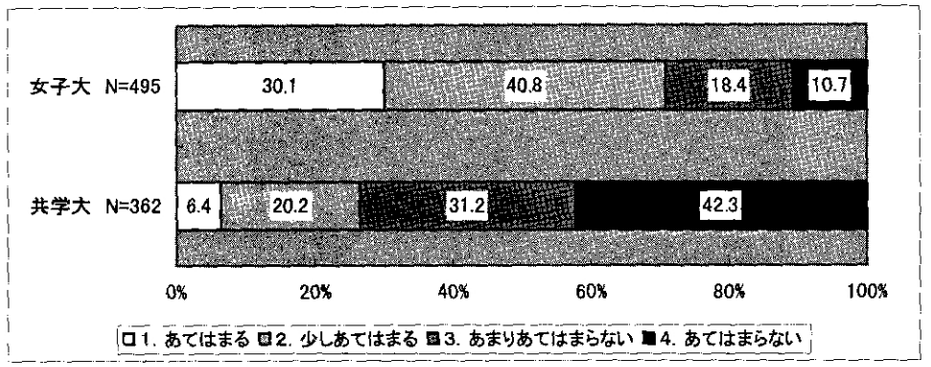


図3－11－（3）　大学時代の教師の影響――女性教員から生き方を学んだ

*** : p < 0.001

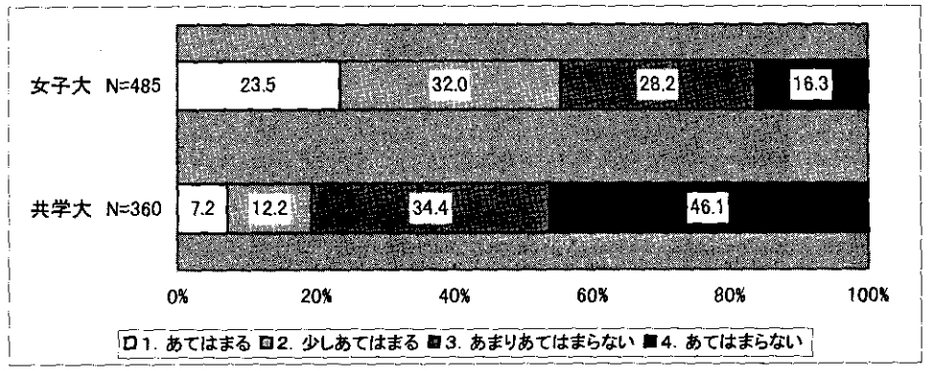


図3－11－（4）　大学時代の教師の影響――女性教員から女性のよさを学んだ

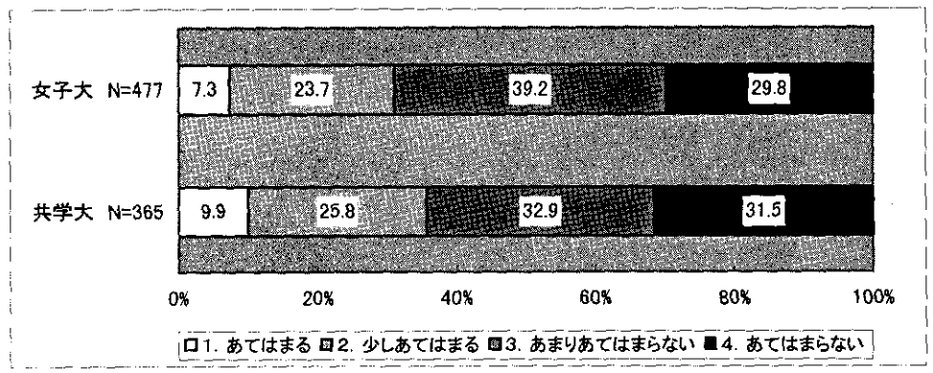


図3－11－（5）　大学時代の教師の影響――男性教員から生き方を学んだ

*** : p < 0.001

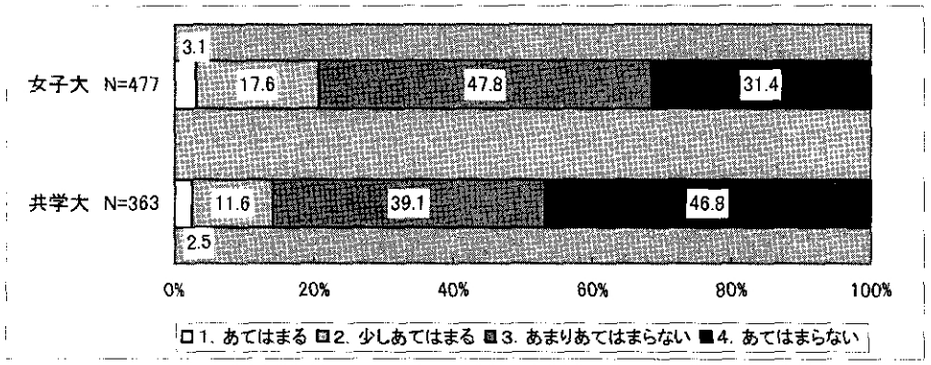


図３－11－（6）　大学時代の教師の影響――男性教員から男性のよさを学んだ

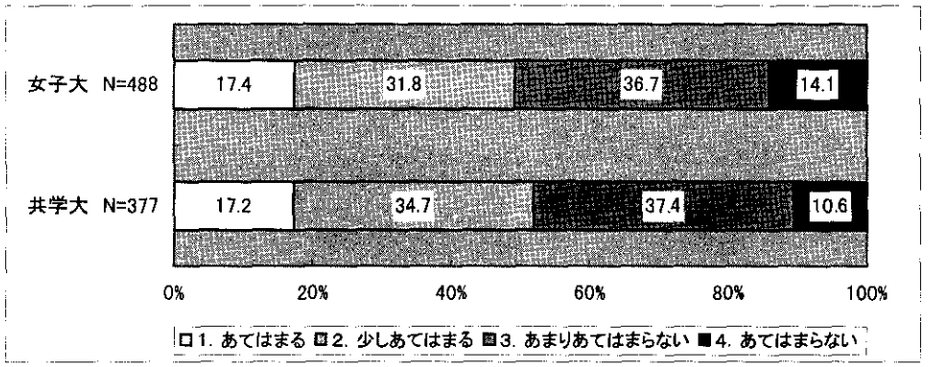


図３－11－（7）　大学時代の教師の影響――人間関係の持ち方，気配りを学んだ

* : p < 0.05

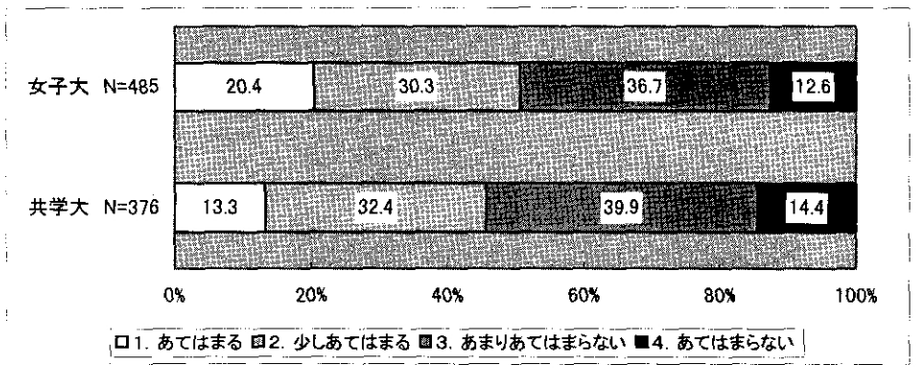
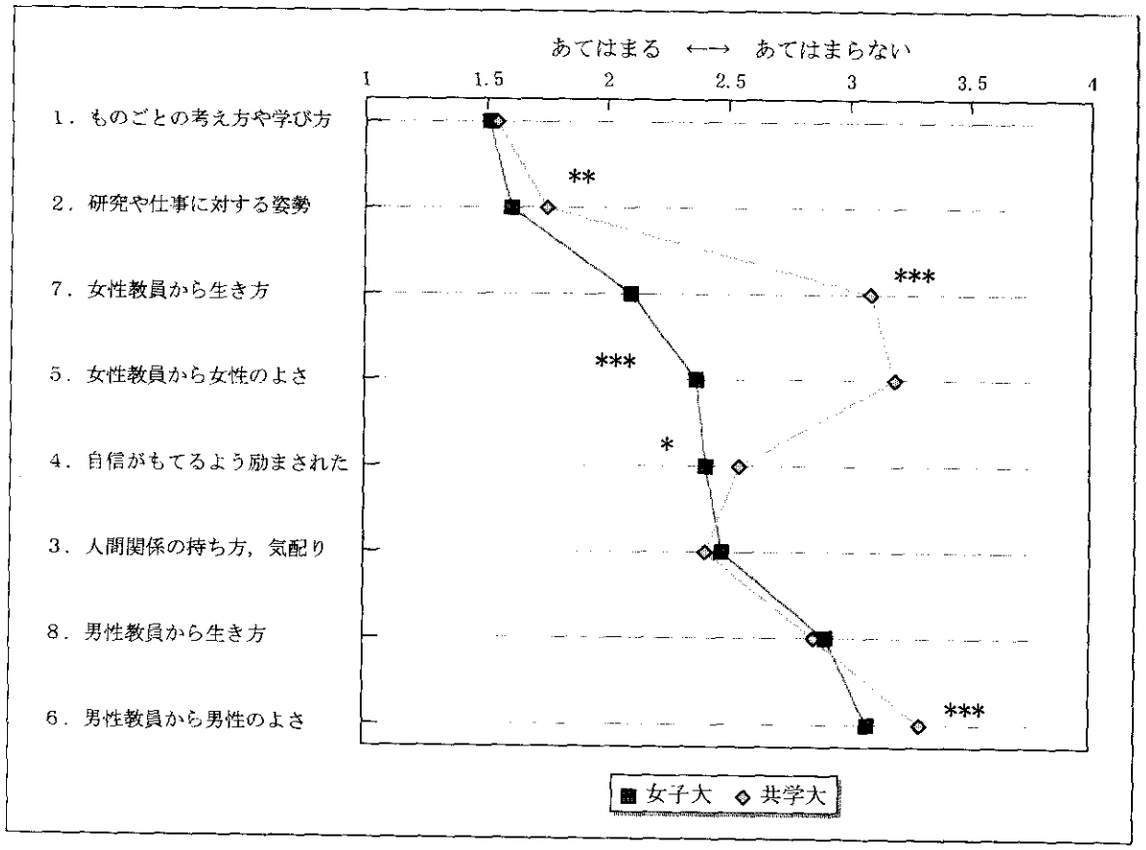


図３－11－（8）　大学時代の教師の影響――自分に自信がもてるように励まされた

にも女子大学・共学大学出身別に大きな差がみられ，「研究や仕事への姿勢」「女性教員から女性の生き方」「自信をもつよう励まされた」「女性教員から女性のよさを学んだ」では女子大学出身者の方が共学大学出身者より強く影響を受けている。他方，教師からの影響が少ないのは，「男性教員から男性のよさを学んだ」「男性教員から男性の生き方を学んだ」であった。この結果は，女子大学出身者の方が共学大学出身者より女性教師から強い影響を受けている可能性を示唆している。

ところで大学教師の女性比率は，現在でも全国の大学平均が 9.6%，私立大学の平均が 12.3 %と極めて低い（牧野，1995）。調査対象者が在学していた約 20 年前の女性教師数は現在よりはるかに少なく，女子大学より共学大学において女性教師から学んだ経験は女子大学より少ない（経験がない）可能性もある。このため，女子大学出身者の方が共学大学出身者より強い影響を女性教師から受けているという結果になったといえよう。いいかえると，女子が大学で学ぶ上で，女性教師の存在はモデルとしても，また直接指導など受ける過程でも非常に大きな影響を持ちうるといえよう。



*** : p < 0.001, ** : p < 0.01, * : p < 0.05

図３－12　大学時代の教師の影響

６）娘への母校進学期待（Ⅳ）

――７割は期待感があるが，３割弱はむしろすすめない（図３－14）

大学に入る年頃の娘がいると仮定し，母校への進学を期待するかどうかを「１．母校に入学してほしい」「２．本人次第だが，母校に入学してくれたらうれしい」「３．本人次第だが，母校はすすめない」「４．母校はすすめない」の４選択肢から，ひとつの選択をもとめた。

その結果，全体でもっとも比率が高かったのは「２．本人次第だが，母校に入学してくれたらうれしい」という消極的期待感を持つ者で 66.2%，これに積極的期待感の「１．母校に入学してほしい」 4.8%を加えると 71.0%，つまり７割の女子卒業生は子どもの母校進学への期待感を持っている。他方，第２位で高かった「３．本人次第だが，母校はすすめない」という消極的否定感を持つ者は 25.9%であり，これに積極的否定感の「４．母校はすすめない」の 3.0%を加えると 28.9%，つまり３割の女子卒業生はむしろ子どもの母校進学に否定的である。

これを女子大学・共学大学出身別にみると，有意差がみられた（$\chi^2=10.695$，$p<0.01$）。「２．本人次第だが，母校に入学してくれたらうれしい」という消極的期待感を持つ者は，女子大学出身者の 64.9%・共学大学出身者の 67.5%で，これに積極的期待感の「１．母校に入学してほしい」3.6%・ 6.0%を加えると，それぞれ 68.5%・ 73.5%であり，共学大学出身者の方が期待感が高い。他方，「３．本人次第だが，母校はすすめない」という消極的否定感を持つ者は 28.3%・ 23.6%であり，これに積極的否定感の「４．母校はすすめない」 3.2%・ 2.8%を加えると，それぞれ 31.5%・ 26.4%となり，かなり女子大学出身者の方が消極的ながら否定傾向が強い（図３－13）。

このような傾向がみられた原因としては，さまざまな要因が推測される。学校教育や社会における男女平等の普及・徹底による女子・女性の意識変化も，そのひとつであろう。こうした動向の中で，今後女子大学はどのような変革が求められているかについては，本プロジェクトにおいても現在分析中であり，全体的な検討課題でもある。

** : p < 0.01

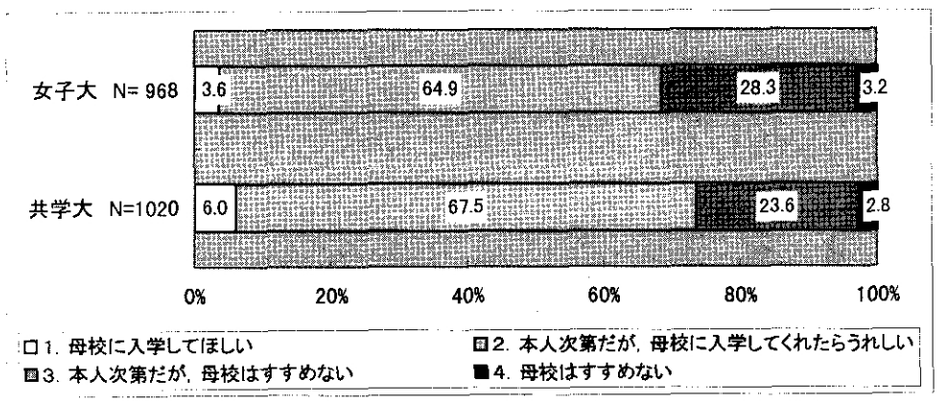


図３－13　子どもへの母校進学期待

４．要　約

これまでの結果の要約は，下記の通りである。なお，＊印は女子大学出身・共学大学出身別に差があることを示している。ただし，今回の調査対象者は日本女子大学を基準に選定した大学を約 20 年前に卒業した女性であり，その結果を一般化することはできないことはいうまでもない。

１）生活

（１）職業領域

大学卒業後，９割はフルタイム経験があり。

＊初職は５割強が事務職，４割弱が専門職だが，
　事務職は共学大学出身者が，専門職は女子大学出身者の方が多い。
初職を８割が退職。

＊現在は５割強が有職，５割弱が無職。
有職＊パート・フルタイムは共学大学出身者の方が多い。
＊５割が専門職，３割弱が事務職だが，
　専門職は女子大学出身者の方が，事務職は共学大学出身者の方が多い。
有職者の有職理由は，経済的理由と自己実現的理由。
８割が現職継続希望。
無職＊女子大学出身者の方が多い。
無職の理由は５割強が家事・育児に専念。
６割が将来仕事希望。

（２）家庭・社会的活動領域

９割は結婚経験あり，９割弱が子どもあり。

社会的活動
過去の経験は，地域活動（４割弱），趣味や資格を生かした活動（３割強），
　学習講座への参加（２割強）。
現在実践中は，地域活動（４割弱），趣味や資格を生かした活動（４割弱）。
将来希望は，学習講座への参加（５割弱），ボランティア活動（４割強），
　趣味や資格を生かした活動（４割）。

（３）ライフコース

大学卒業時のライフコース希望は，４割強が勤続型，３割が専業主婦型，
　２割が再就職型。
＊母親の娘に対するライフコース希望は，５割弱が退職型，３割弱が勤続型。
退職型は女子大学出身の娘を持つ母親の方が，
勤続型は共学大学出身の娘を持つ母親の方が多い。

＊父親の娘に対するライフコース希望は，５割強が退職型，２割強が勤続型。
退職型は女子大学出身の娘を持つ父親の方が，
勤続型は共学大学出身の娘を持つ父親の方が多い。
＊実際のライフコースは，勤続型と専業主婦型が各々３割強，２割が再就職型。
勤続型は共学大学出身者の方が，専業主婦型は女子大学出身者の方が多い。
実際のライフコースに７割弱が満足，３割強が不満。

２）生活意識

（１）性差意識

性差意識が強い項目：第１位「人前では，妻は夫を立てた方がよい」，第２位「子育ては，やはり母親でなくてはと思う」，第３位「女性は男性に比べ，感情的である」。

性差意識が弱い項目：第１位「女性は男性に比べ，臆病だ」，第２位「女は女らしく，男は男らしくするのがよいと思う」，第３位「女性のすぐれた思想家は，あまり出ないと思う」。

＊女子大学出身者の方が性差意識がなかった項目：
「女性のすぐれた思想家は，あまり出ないと思う」

＊共学大学出身者の方が性差意識がなかった項目：
「男性は女性に比べ，攻撃的である」，「女性は男性に比べ，臆病だ」

（２） 育児意識

育児期間中に感じる頻度が高い項目：第１位「子どもをもって自分も成長できた」，第２位「充実感がある」，第３位「自分の中で最も重要なのは子どもだ」。

育児期間中に感じる頻度が低い項目：第１位「子どもがいなければよかったと思う」，第２位「子どもさえいれば幸せだ」，第３位「子どもは自分の体の一部のような感じだ」。

（３）自尊心

調査対象者にあてはまる項目：第１位「自分で決心したことは，がんばることができる」，第２位「周りの人からどう思われているのか気になる」，第３位「気後れせずにやりたいことをすることができる」。

調査対象者にあてはまらない項目：第１位「自分にうまくやれることなどない，といった気持ちになる」，第２位「何をすべきか，誰かが言ってくれた方が安心できる」，第３位「他の人に何を喋ったらよいのか迷うことが多い」。

＊女子大学出身者の方がよりあてはまる項目：「自分自身を恥ずかしいと思うことがある」，「時々自分が役立たずだと感じる」，「他の人に何を喋ったらよいのか迷うことが多い」

＊共学大学出身者の方がよりあてはまる項目：「自分の能力に自信がある方だ」

（４）リーダーシップ

調査対象者にあてはまる項目：第１位「グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」，第２位「グループの人全員に気を配るようにしている」，第３位「気まずい雰囲気のとき，話の糸口をみるけようとする方である」

調査対象者にあてはまらない項目：第１位「グループの足手まといになるのではと心配になる」，第２位「話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である」，
第３位「グループで決められた通りにやる方が気楽でよい」

＊女子大学出身者の方がよりあてはまる項目：
「グループで話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である」

＊共学大学出身者の方がよりあてはまる項目：「グループの中で自分のやれる役割・仕事がある」，「グループの人全員に気を配るようにしている」，「気まずい雰囲気のとき，何かと話の糸口をみつけようとする方である」，「グループのまとめ役や世話役をやらされることが多い」，「何があっても臨機応変にやれる方である」

３）大学評価

（１）在学中の満足度

９割が友人関係・校風に満足。
＊サークル・クラブ活動には共学大学出身者の方が満足。
＊授業やゼミなど・教員の指導・教員との交流には女子大学出身者の方が満足。

（２）出身大学卒業資格の有効性

＊初職では半数が有利，女子大学出身者の方が有利と回答。
現職では半数が無関係，有利の回答は３割強。
＊結婚では４割弱が無関係，有利の回答は３割。女子大学出身者の方が有利と回答。

（３）大学教育の効用観

職業・家庭生活・社会的活動の各領域で６，７割は効用あり。
＊家庭生活では女子大学出身者の方が効用ありと回答。
職業では専門的知識や技能，家庭生活・社会的活動では価値観の形成。

（４）大学時代の友人の影響

＊６割強が現在も交流，共学大学出身者の方が交流。
９割が今後の交流を希望。

（５）大学時代の教師の影響

＊５割弱が影響ありと回答，女子大学出身者の方が影響ありと回答。
影響内容　第１位はものごとの考え方や学び方
＊研究や仕事への姿勢・女性の生き方・自信は，女子大学出身者の方が影響大。
＊女子大学出身者の方が女性教師からの影響が大。

（６）娘への母校進学期待

＊７割は期待感あり，共学大学出身者の方が期待感が強い。

お わ り に

本研究では，女性の生涯発達の視点から大学教育がどのような意味を持っているのか，また女子大学と共学大学とでは学んだ内容・影響は異なるのかを探ることを目的に，４年制の女子大学・共学大学の女子卒業生を対象に質問紙調査を実施した。質問紙の調査内容は，４年制の女子大学・共学大学を約 20 年前に卒業した女性の職業・家庭・社会的活動・ライフコースからみた「生活」，性差意識・育児意識・自尊心・リーダーシップの４側面にわたる「生活意識」，および大学生活の満足度・大学の効用観や影響など「大学評価」の３部分から構成されている。

本報告書は，４年制の女子大学２校・共学大学３校の女子卒業生（平均年齢約 40 歳）有効サンプル 2,058 名についての単純集計および女子大学出身・共学大学出身別分析結果をまとめたものである。

その分析結果と要約をみると，まず「生活」では第１に，４年制の大学を約 20 年前に卒業した女性が，現在は半数強が有職，半数弱が専業主婦であることを指摘しなければならない。もちろん専業主婦であるには夫が高収入（つまり高学歴）でなければならないが，「大学評価」において職業に関して専門的知識や技能が役に立ったとしながらも，専業主婦はそれを生かしきれていない可能性が強い。４年制の大学を卒業した 40 歳前後の女性が無職であることは，社会的還元という視点からみると問題とされよう。個人的にみても，女性自身が自分の過去および現在のライフコースに，７割前後は満足しているものの，３割前後は不満を持っているのである。その不満の原因は，今述べたように大学において自己が習得した専門的知識や技能を生かしきれていないことや，大学卒業時の職業継続希望が諸事情から果たせないでいること，今後の就業希望がかなり強いことなどにあろう。この点については，今後のクロス分析等で明らかにされよう。

第２に，ＰＴＡを初めとした地域活動や趣味や資格を生かした活動や学習講座への参加といった社会的活動を，４年制の大学を卒業した 40 歳前後の女性がかなり中心的に担ってきていることである。しかも，今後は学習講座への参加やボランティア活動への希望が強く，彼女たちが社会的活動のリーダーになり得る可能性を示唆していよう。

つぎに「生活意識」では第１に，性差意識では，全体的に性差意識が弱い傾向がみられたものの，対外的な場面，育児は母親，経済力のない男性は失格などでは依然として強い性差意識のあることが示された。このことは，今回の調査対象者が内面的には性差意識はないとしながらも，今なお性別役割分業の強い社会生活にあっては，矛盾を感じながらも，それに合わせて生活していると読み取ることができよう。

第２に，育児意識では，育児を自分を成長させる場として非常に肯定的に捉えていることが示された。この育児意識では，出身大学による差はなく，大学卒業後のライフスタイルが育児意識の形成に大きく影響している可能性がある。これは今後の分析等によって，明らかにされよう。

第３に，「自尊心」「リーダーシップ」では，女子大学出身者の方が，対外的な場面において自分の能力を過少評価する傾向がみられ，このことについては，さらなる分析が必要であろう。しかし，全体的な傾向としては，今回の調査対象者が地域のリーダーとして積極的に活動していることが示唆された。これは，「性差意識」のところでみたように，内面的には性差意識が弱いにもかかわらず，外面的には現在の社会的性別役割分業に合わせて生活している人たちが，今後，地域のリーダーとして，性差別のない社会に向けて，大きな力になっていく可能性を示している。今後の，活躍に期待したい。

さらに「大学評価」では第１に，大学教育が女性の生涯発達に大きな影響を与えている可能性が示唆されたことを指摘しておきたい。大学で学んだことが職業や家庭や社会的活動で役に立ったとする者が６，７割に達していたからである。とくに職業では専門的知識や技能，家庭や社会的活動では価値観の形成の点で，影響が大きいといえる。前者は大学教師による教育の結果そのものであるが，後者は大学教師だけでなく，友人による影響も大きいことが示唆された。価値観の形成・確立は，青年期後期にある大学時代の発達課題とされているが，まさに今回の調査結果はそれを裏づけているといえる。大学を卒業して約 20 年後になって，大学教育が価値観の形成に影響があったと自ら評価することの意味は大きい。

第２に，女子大学出身者の方が女性教員から大きな影響を受けていることである。女性教員は女子学生にとって同性モデルとして「女性の生き方」に影響を与えやすいことや，一般に女子大学の方が女性教員の数が多いことから，当然の結果とはいえ，女子学生が増加している今日，共学大学において女性教員数を増やす必要があろう。もっとも，女性教員から「女性の生き方」を学んだ者は多いが，「女性のよさ」を学んだ者は必ずしも多くはない。これは，女性教員が女子学生にとって“女性の多様な生き方のモデル提供”にはなり得ても，昨今の社会状況や女子学生にとっての現実的選択からは必ずしも“女性としてのよさを示すモデル”ではないからかも知れない。また，女子大学・共学大学にかかわらず，男性教員は女性教員ほどには女子学生に大きな影響を与えていない。その１因には，男性教員による女性差別的言動（例えば，今なお女性に学問は不要という態度やセクハラ）や，逆差別的言動（例えば，女子学生への甘やかしや一人前に育てる意欲の欠如）があるのではないだろうか。

このように，大学教育が女性の生涯発達に大きな影響を与えている可能性が示唆されるものの，女性の現実の生活や生活意識にまで十分結び付くには至ってはいない可能性も残っている。これらについては，今後クロス分析を初めとした第２次分析により明らかにされよう。

大学卒業後の生活・意識と大学評価に関する調査

日本女子大学総合研究所
調査責任者　日本女子大学教授　渡　邊　恵　子
調査協力者　＊＊＊＊大学教授　＊　＊　＊　＊

この調査は，大学を卒業した女性が，どのような生活をおくり，現在どのようなお考えをもっておられるのかについておたずねするものです。ご回答はすべてコンピュータで集計・分析し，研究のためにのみ使用させていただきます。**みなさまの回答が他の誰かに知られることは決してありません。**どうぞ，ありのままにご回答下さい。ご回答は，特に断わり書きのない限り，あてはまる番号に○をつけて下さい。

F．　ご卒業の大学・学部・学科・現在の年齢についてうかがいます。
大学院に進学なさった方，他の学部・学科に再入学された方も，１回目の卒業についてお答え下さい。

＊＊＊＊大学 [　　] 学部 [　　] 学科，１９ [　][　] 年卒業　　現在 [　][　] 歳

6　7　8-9　10-11　12-13

Ⅰ　職業についてうかがいます

Q１．あなたは最終学校修了後，これまでに職業に就いたことがありますか。
あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

14
1．就いたことがある（フルタイム）
2．就いたことがある（パート・アルバイト・内職）
3．就いたことがある（自営（家業を含む））
4．就いたことがない　→ Ｐ３のＱ６へ

（Ｑ１で１，２，３（「就いたことがある」）と答えた方にうかがいます。）
SQ1. あなたが初めて就いた職業の仕事内容はどれですか。
あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

15
1．専門　2．事務　3．販売　4．その他（　　）

SQ2. 最初の就職に際しては，あなたの大学の卒業生ということが１つの有利な条件となっていたと思いますか。
あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

16
1．有利な条件となっていたと思う
2．そういうことはなかったと思う
3．むしろ不利な条件だったと思う
4．どちらともいえない・わからない

Q２．あなたは最初の勤務先（会社等）を退職したご経験がありますか。
あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

17
1．ある　2．ない　→ 次頁のＱ４へ
↓ 次頁のＱ３へ

Q３．あなたは現在職業に就いていますか。
あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

18

1．就いている（フルタイム）
2．就いている（パート・アルバイト・内職）
3．就いている（自営（家業を含む））
4．就いていない → Q６へ

（Q３で１，２，３（「就いている」）と答えた方にうかがいます。）
SQ1. 現在の職業の仕事内容はどれですか。

19

1．専門　2．事務　3．販売　4．その他（　　）

SQ2. その就職に際しては，あなたの大学の卒業生ということが１つの有利な条件となっていたと思いますか。
あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

20

1．有利な条件となっていたと思う
2．そういうことはなかったと思う
3．むしろ不利な条件だったと思う
4．どちらともいえない・わからない
5．非該当

（Q４へ進んで下さい）

Q４．（現在職業をお持ちの方にうかがいます。）あなたが現在職業をもっている理由は何ですか。
第１位の理由に◎を，第２位の理由に○をつけて下さい。

21
22

1．生計の維持や補助，貯蓄のため
2．自分自身の収入がほしいから
3．自分の能力を生かしたいから
4．生活に変化があって，充実感がもてるから
5．仕事を通じて友人や知人が得られるから
6．働くことが好きだから
7．社会に貢献したいから
8．家業だから
9．その他（　　）

Q５．（現在職業をお持ちの方にうかがいます。）現在の職業について，今後どのようにしていきたいですか。
あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

23

1．他の仕事に移りたい
2．今の仕事をやめるわけにはいかない
3．今の仕事をそのまま続けたい
4．その他（　　）
→ 次頁ⅡのQ１へ

Q６．（現在職業をお持ちでない方にうかがいます。）あなたが現在職業をもっていない理由は何ですか。
第１位の理由に◎を，第２位の理由に○をつけて下さい。

24-25
26-27

1．適当な仕事がないから
2．夫や家族が反対するから
3．家事や夫・子どもの世話に専念したいから
4．老人や病人の世話があるから
5．自分の趣味を充実させたいから
6．ボランティアなどの社会的活動をしたいから
7．時間や組織に縛られたくないから
8．経済的に働く必要がないから
9．疲れるから・健康上の理由から
10．その他（　　）

Q７．（現在職業をお持ちでない方にうかがいます。）あなたは今後，何か職業をもちたいと思いますか。

28

1．もちたいと思う
2．もちたいとは思わない
3．わからない

Ⅱ あなたのお考えについてうかがいます

Q１．世間では，女性と男性の違いについて，さまざまなことがいわれています。以下の記述について，あなたはどう思われますか。A～Sそれぞれについて，あてはまる番号に○をつけて下さい。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
A. 男性は女性に比べて，人を使うのが上手である	1	2	3	4	29
B. 女性は男性に比べ，臆病だ	1	2	3	4	30
C. 家庭のこまごまとした管理は女性でなくてはと思う	1	2	3	4	31
D. 女性のすぐれた思想家は，あまり出ないと思う	1	2	3	4	32
E. 女性は，体力や精神力の点で，パイロットなど人命を預かる仕事には向いていないと思う	1	2	3	4	33
F. 女性は視野が狭い	1	2	3	4	34
G. 一家の生計を支えられないような経済力のない男性は男として失格である	1	2	3	4	35
H. 女性は月経があるので，精神的に不安定である	1	2	3	4	36
I. 男はむやみに弱音を吐くものではないと思う	1	2	3	4	37
J. 女性は何かにつけて責任を回避しがちである	1	2	3	4	38
K. 人前では，妻は夫を立てた方がよい	1	2	3	4	39
L. 論理的思考は，男性の方がすぐれている	1	2	3	4	40
M. 最終的に頼りになるのは，やはり男性である	1	2	3	4	41
N. 女性は男性に比べ，感情的である	1	2	3	4	42
O. 子育ては，やはり母親でなくては，と思う	1	2	3	4	43
P. 女性は出産する可能性があるため，男性と仕事の上で互角に並ぶのは無理である	1	2	3	4	44
Q. 子どものことより自分のことを優先して考えるような女性は，母親になるべきではない	1	2	3	4	45
R. 男性は女性に比べ，攻撃的である	1	2	3	4	46
S. 女は女らしく，男は男らしくするのがよいと思う	1	2	3	4	47

Q２．（お子さんをおもちの方にうかがいます。）
（お子さんがすでに成長，成人された方も，お子さんが小さかった頃のことを思い浮かべてお答え下さい。）
お子さんを育てながら，次のようにお感じになる（なった）ことがありますか。A～Lそれぞれについて，あてはまる番号に○をつけて下さい。

	よくある（あった）	時々ある（あった）	たまにある（あった）	全くない（なかった）	
A. 育児の自信がなくなる	1	2	3	4	48
B. 充実感がある	1	2	3	4	49
C. 自分の関心，時間を子どもにとられ視野が狭くなる	1	2	3	4	50
D. 子どもこそ生き甲斐だ	1	2	3	4	51
E. 子どもがいなければよかったと思う	1	2	3	4	52
F. 自分のやりたいことができなくてあせる	1	2	3	4	53
G. 子どもをもって自分も成長できた	1	2	3	4	54
H. 育児ノイローゼになる心境に共感できる	1	2	3	4	55
I. 自分の中で最も重要なのは子どもだ	1	2	3	4	56
J. 何となくイライラする	1	2	3	4	57
K. 子どもは自分の体の一部のような感じだ	1	2	3	4	58
L. 子どもさえいれば幸せだ	1	2	3	4	59

Q３．以下の記述についてあなたはどう思われますか。A～Xそれぞれについてあなたのお考えや感じ方にあてはまる番号に○をつけて下さい。 ②

	あてはまる	すこしあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
A. たいてい心を悩まされずに決心できる方だ	1	2	3	4	2
B. 時々自分が役立たずだと感じる	1	2	3	4	3
C. 自分で決心したことは，がんばることができる	1	2	3	4	4
D. もう少し自分を尊敬できるならばと思う	1	2	3	4	5
E. 自分の身の上に起こることを心配しない方である	1	2	3	4	6
F. 周りの人からどう思われているのか気になる方である	1	2	3	4	7
G. 自分にうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがある	1	2	3	4	8
H. 気後れせずにやりたいことをすることができる	1	2	3	4	9
I. 私が何をすべきか、誰かがいってくれた方が安心できる	1	2	3	4	10
J. 他の人に何をしゃべったらよいのか迷うことが多い	1	2	3	4	11
K. 自分自身を恥ずかしいと思うことがある	1	2	3	4	12
L. 自分の能力に自信がある方だ	1	2	3	4	13
M. グループで決められた通りにやる方が気楽でよい	1	2	3	4	14
N. 他の人から相談をもちかけられることが多い	1	2	3	4	15
O. グループの中で自分のやれる役割・仕事がある	1	2	3	4	16
P. あまり親しくない人と話すには勇気がいる方である	1	2	3	4	17
Q. グループで話がまとまらないとき、自分から口をはさむのは苦手である	1	2	3	4	18
R. グループの人全員に気を配るようにしている	1	2	3	4	19
S. 何があっても臨機応変にやれる方である	1	2	3	4	20
T. グループのしっかりした人にまかせてしまう方である	1	2	3	4	21
U. 自分がグループの足手まといになるのではないかと心配になる	1	2	3	4	22
V. 人と気まずい雰囲気になったとき、何とか話の糸口をみつけようとする方である	1	2	3	4	23
W. グループのまとめ役や世話役をやらされることが多い	1	2	3	4	24
X. グループでやるより、ひとりでやる方がよい	1	2	3	4	25

Ⅲ　現在の生活についてうかがいます

Q１．あなたは結婚しておられますか。 26

1．既婚(再婚も含む)
2．夫と死別または離別
3．未婚 → 次頁のQ２へ

(Q１で１(「既婚」)，２(「夫と死別または離婚」)と答えた方にうかがいます。)

SQ1. 結婚された時(初婚)，おいくつでしたか。 □□ 歳 27-28

SQ2. あなたはお子さんをおもちですか。 29

1．いる　(　　)人　　0．いない

SQ3. 結婚に際しては，あなたの大学の卒業生ということが１つの有利な条件となっていたと思いますか。 30

1．有利な条件となっていたと思う
2．そういうことはなかったと思う
3．むしろ不利な条件だったと思う
4．どちらともいえない・わからない
5．非該当

Q２．下に職業以外の７種類の社会的活動をあげてあります。あなたが，A．過去にしたことがあるもの，B．現在しているもの，C．今後したいものについて，それぞれあてはまる欄に○をつけて下さい。

	A 過去にした	B 現在している	C 今後したい	
1．趣味や資格を生かした活動				31-33
2．社会的に承認された活動（調停委員，民生委員）				34-36
3．各種地域社会活動（PTA活動，自治会・町内会活動				37-39
4．ボランティア活動（社会福祉，環境保護など）				40-42
5．宗教活動				43-45
6．大学開放講座・市民講座への参加				46-48
7．市民運動・住民運動				49-51
8．その他　（　　）				52-54

Ⅳ 大学での教育についてうかがいます

Q１．あなたが大学で受けた教育は，これまでの生活に役立っていますか。
家庭生活，職業，社会的活動それぞれについて，あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

	役立っている	まあ役立っている	あまり役立っていない	役立っていない	
領域 A．家庭生活	1	2	3	4	55
領域 B．職業	1	2	3	4	56
領域 C．社会的活動	1	2	3	4	57

ABCとも３または４と答えた方は → Q２へ

(Q１でひとつでも１(「役立っている」)，２(「まあ役立っている」)と答えた方にうかがいます。)

SQ. 特にどのようなことが役立っていますか。役立っていると答えた領域について，１番目に役立ったこと，２番目に役だったことを１～11の中から選び，左の表に番号を記入して下さい。

領域	１番目に役立った	２番目に役立った	
A．家庭生活			58-59
B．職業			60-61
C．社会的活動			62-63

1．専門的知識や技能が身に付いた
2．リーダーシップが身に付いた
3．自分の価値観を形成できた
4．生きていく上で精神的な支えを得た
5．人との付き合い方が身に付いた
6．よい教員と出会うことができた
7．よい友人を得ることができた
8．個人的に卒業生に助けられた
9．同窓会の存在に助けられた
10．校風が身に付いた
11．社会的に評価の高い大学を出た

Q２．あなたは大学での生活にどの程度満足していましたか。
A～Hについてそれぞれあてはまる番号に○をつけて下さい。

	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	
A．友人関係	1	2	3	4	70
B．サークル・クラブ活動	1	2	3	4	71
C．授業やゼミなど	1	2	3	4	72
D．教員の指導	1	2	3	4	73
E．教員との交流	1	2	3	4	74
F．校風	1	2	3	4	75
G．施設・設備	1	2	3	4	76
H．職員の学生に対する対応	1	2	3	4	77

Q３．あなたは現在，大学時代の友人とどのくらいつきあっていますか。あてはまる番号１つに○をつけて下さい。 ③

１．よくつきあっている	３．あまりつきあっていない
２．まあつきあっている	４．まったくつきあっていない

2

Q４．あなたは大学時代の友人との関係を，どのようにお考えですか。
あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

3

１．とても重要であり，大事にしていきたい
２．何らかの形で付き合いは続けていきたい
３．大学時代の友人関係よりも，今の人間関係を大事にしたい
４．その他（具体的に：　　）

Q５．あなたは大学時代の先生に，どの程度影響を受けましたか。あてはまる番号１つに○をつけて下さい。

4

１．非常に影響を受けた
２．少し影響を受けた
３．あまり影響は受けなかった → Q６へ
４．ほとんど影響は受けなかった

（Q５で１（「非常に影響を受けた」），２（「少し影響を受けた」）と答えた方にうかがいます。）
SQ1. どのような影響を受けましたか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

	あてはまる	すこしあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
１．ものごとの考え方や学び方を学んだ	1	2	3	4	5
２．研究や仕事に対する姿勢を学んだ	1	2	3	4	6
３．人間関係の持ち方，気配りを学んだ	1	2	3	4	7
４．自分に自信がもてるように励まされた	1	2	3	4	8
５．女性教員から女性のよさを学んだ	1	2	3	4	9
６．男性教員から男性のよさを学んだ	1	2	3	4	10
７．女性教員から生き方を学んだ	1	2	3	4	11
８．男性教員から生き方を学んだ	1	2	3	4	12

SQ2. 大学の先生から受けた影響について，どんなことでも結構ですから，具体的にお書き下さい。

13

Q６．今仮に，あなたに大学に入る年頃の女のお子さんがいると仮定した場合，あなたはそのお子さんを母校に入学させたいと思いますか。あなた自身のご意見に最も近いもの１つに○をつけて下さい。

14

１．母校に入学してほしい	３．本人次第だが，母校はすすめない
２．本人次第だが，母校に入学してくれたらうれしい	４．母校はすすめない

Q７．図は，大学卒業後の女性のライフコース（生き方）について仕事と家庭（結婚・出産）の関係を中心に図式化したものです。下のSQ1～SQ6にお答え下さい。

勤続型	Aタイプ	結婚しない。職業をもち続ける。	仕事 1
	Bタイプ	結婚し，出産しない。職業をもち続ける。	仕事 2 3 / 結婚
	Cタイプ	結婚し，出産する。職業をもち続ける。	仕事 4 5 6 / 結婚 出産
再参入型	Dタイプ	結婚し，出産する。結婚で職業を離れ，育児後再び職業に就く。	仕事 7 / 結婚 8 / 出産 9 / 仕事 10
	Eタイプ	結婚し，出産する。出産で職業を離れ，育児後再び職業に就く。	仕事 11 / 結婚 12 / 出産 13 / 仕事 14
退職型	Fタイプ	結婚し，出産しない。結婚で職業を辞める。	仕事 15 / 結婚 16
	Gタイプ	結婚し，出産する。結婚で職業を辞める。	仕事 17 / 結婚 18 / 出産 19
	Hタイプ	結婚し，出産する。出産で職業を辞める。	仕事 20 / 結婚 21 / 出産 22
後半就職型	Iタイプ	職業に就かず，結婚，出産する。結婚後初めて職業に就く。	結婚 23 / 出産 24 / 仕事 25
	Jタイプ	職業に就かず，結婚，出産する。育児後初めて職業に就く。	結婚 26 / 出産 27 / 仕事 28 29
無職型	Kタイプ	職業に就かない。結婚する。出産しない。	結婚 30 31
	Lタイプ	職業に就かない。結婚し出産する。	結婚 32 / 出産 33 34

SQ1. あなたのお母様はどのタイプにあたりますか。A～Lのｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄを記入して下さい。（　　）タイプ　非該当 14
SQ2. 大学卒業の頃，あなたのお父様はあなたにどのタイプを望んでおられましたか。
A～Lのｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄを記入して下さい。（　　）タイプ　非該当 15
SQ3. 大学卒業の頃，あなたのお母様はあなたにどのタイプを望んでおられましたか。
A～Lのｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄを記入して下さい。（　　）タイプ　非該当 16
SQ4. あなたは大学卒業の頃，どのタイプを望んでいましたか。A～Lのｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄを記入して下さい。（　　）タイプ 17
SQ5. 現在のあなたのタイプはどれに最も近いですか。A～Lのｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄを記入して下さい。　（　　）タイプ 18
SQ6. SQ5で選んだタイプの中で，あなたは現在どの段階にいますか。1～34の番号を記入して下さい。（　　）番 19-20
＊SQ4, 5で該当する図がない場合は最も近いタイプの図を訂正して下さい。

Q８．大学時代からこれまでをふりかえって，次のような点についてどの程度満足しておられますか。
それぞれあてはまる番号に○をつけて下さい。

	満足	やや満足	やや不満	不満	
A．これまでの自分のライフコース	1	2	3	4	21
B．現在の自分	1	2	3	4	22

これでおわりです。長時間にわたりご協力いただき，どうもありがとうございました。

資料２．　女子大学出身・共学大学出身別クロス集計結果

現在の年齢

	女子大	共学大	合　計
37-38才	381	371	752
	38.3%	*35.1%*	*36.7%*
39-40	140	177	317
	14.0%	*16.8%*	*15.5%*
41-42	458	465	923
	46.1%	*44.0%*	*45.0%*
43-44	14	24	38
	1.4%	*2.3%*	*1.8%*
45才以上	1	18	19
	0.1%	*1.8%*	*0.7%*
合　計	994	1055	2049
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

F. フェイスシート

卒業年度

	女子大	共学大	合　計
1977年	24		24
	2.4%		*1.2%*
1978年	504	521	1025
	50.6%	*49.2%*	*49.9%*
1980年	11		11
	1.1%		*0.5%*
1981年	456	538	994
	45.8%	*50.8%*	*48.4%*
1982年	1		1
	0.1%		*0.0%*
合　計	996	1059	2055
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Ⅰ. 職　業

Q1. あなたは最終学校修了後，これまでに職業に就いたことがありますか。

	女子大	共学大	合　計
1. 就いたことがある(フルタイム)	883	936	1819
	88.5%	*88.3%*	*88.4%*
2. 就いたことがある(パート・アルバイト・内職)	76	69	145
	7.6%	*6.5%*	*7.0%*
3. 就いたことがある(自営(家業を含む))	20	30	50
	2.0%	*2.8%*	*2.4%*
4. 就いたことがない	19	25	44
	1.9%	*2.4%*	*2.1%*
合　計	998	1060	2058
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

(Q1で1，2，3「就いたことがある」と答えた方)
SQ1. あなたが初めて就いた職業の仕事内容はどれですか。

	女子大	共学大	合　計
1. 専門	398	317	715
	40.7%	*30.8%*	*35.6%*
2. 事務	479	583	1062
	49.0%	*56.6%*	*52.9%*
3. 販売	25	38	63
	2.6%	*3.7%*	*3.1%*
4. その他	76	92	168
	7.8%	*8.9%*	*8.4%*
合　計	978	1030	2008
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

SQ2. 最初の就職に際しては，あなたの大学の卒業生ということが1つの有利な条件となっていたと思いますか。

	女子大	共学大	合　計
1. 有利な条件となっていたと思う	506	488	994
	51.7%	*47.5%*	*49.6%*
2. そういうことはなかったと思う	305	366	671
	31.2%	*35.6%*	*33.4%*
3. むしろ不利な条件だったと思う	17	31	48
	1.7%	*3.0%*	*2.4%*
4. どちらともいえない・わからない	150	143	293
	15.3%	*13.9%*	*14.6%*
合　計	978	1028	2006
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Q2. あなたは最初の勤務先(会社等)を退職したご経験がありますか。

	女子大	共学大	合　計
1. ある	837	857	1694
	85.5%	*83.0%*	*84.2%*
2. ない	142	176	318
	14.5%	*17.0%*	*15.8%*
合　計	979	1033	2012
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Q3. あなたは現在職業に就いていますか。

	女子大	共学大	合　計
1. 就いている(フルタイム)	127	167	294
	15.2%	*19.5%*	*17.4%*
2. 就いている(パート・アルバイト・内職)	199	233	432
	23.8%	*27.2%*	*25.5%*
3. 就いている(自営(家業を含む))	89	109	198
	10.6%	*12.7%*	*11.7%*
4. 就いていない	422	348	770
	50.4%	*40.6%*	*45.5%*
合　計	837	857	1694
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

(Q3で1，2，3「就いている」と答えた方)
SQ1. 現在の職業の仕事内容はどれですか。

	女子大	共学大	合　計
1. 専門	225	230	455
	54.2%	*45.5%*	*49.4%*
2. 事務	96	155	251
	23.1%	*30.6%*	*27.3%*
3. 販売	21	36	57
	5.1%	*7.1%*	*6.2%*
4. その他	73	85	158
	17.6%	*16.8%*	*17.2%*
合　計	415	506	921
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

SQ2. その就職に際しては，あなたの大学の卒業生ということが1つの有利な条件となっていたと思いますか。

	女子大	共学大	合　計
1. 有利な条件となっていたと思う	120	157	277
	32.0%	*32.7%*	*32.4%*
2. そういうことはなかったと思う	171	237	408
	45.6%	*49.4%*	*47.7%*
3. むしろ不利な条件だったと思う	3	2	5
	0.8%	*0.4%*	*0.6%*
4. どちらともいえない・わからない	81	84	165
	21.6%	*17.5%*	*19.3%*
合　計	375	480	855
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Q4.（現在職業をお持ちの方）　あなたが現在職業をもっている理由は何ですか。

	第1位の理由			第2位の理由		
	女子大	共学大	合　計	女子大	共学大	合　計
1. 生計の維持や補助，貯蓄のため	173	208	381	71	88	159
	31.2%	*30.5%*	*30.8%*	*13.9%*	*14.2%*	*14.1%*
2. 自分自身の収入がほしいから	77	96	173	108	140	248
	13.9%	*14.1%*	*14.0%*	*21.2%*	*22.5%*	*21.9%*
3. 自分の能力を生かしたいから	139	160	299	104	119	223
	25.0%	*23.4%*	*24.2%*	*20.4%*	*19.2%*	*19.7%*
4. 生活に変化があって，充実感がもてるから	67	90	157	123	148	271
	12.1%	*13.2%*	*12.7%*	*24.1%*	*23.8%*	*24.0%*
5. 仕事を通じて友人や知人が得られるから	5	6	11	31	31	62
	0.9%	*0.9%*	*0.9%*	*6.1%*	*5.0%*	*5.5%*
6. 働くことが好きだから	14	24	38	21	32	53
	2.5%	*3.5%*	*3.1%*	*4.1%*	*5.2%*	*4.7%*
7. 社会に貢献したいから	13	16	29	32	33	65
	2.3%	*2.3%*	*2.3%*	*6.3%*	*5.3%*	*5.7%*
8. 家業だから	51	60	111	8	16	24
	9.2%	*8.8%*	*9.0%*	*1.6%*	*2.6%*	*2.1%*
9. その他	16	23	39	12	14	26
	2.9%	*3.4%*	*3.2%*	*2.4%*	*2.3%*	*2.3%*
合　計	555	683	1238	510	621	1131
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*

Q5.（現在職業をお持ちの方）現在の職業について，今後どのようにしていきたいですか。

	女子大	共学大	合　計
1. 他の仕事に移りたい	65	73	138
	11.8%	*10.8%*	*11.2%*
2. 今の仕事をやめるわけにはいかない	109	140	249
	19.9%	*20.6%*	*20.3%*
3. 今の仕事をそのまま続けたい	317	410	727
	57.7%	*60.5%*	*59.3%*
4. その他	58	55	113
	10.6%	*8.1%*	*9.2%*
合　計	549	678	1227
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Q6.（現在職業をお持ちでない方）あなたが現在職業をもっていない理由は何ですか。

	第1位の理由			第2位の理由		
	女子大	共学大	合　計	女子大	共学大	合　計
1. 適当な仕事がないから	63	45	108	105	100	205
	14.5%	*12.3%*	*13.5%*	*27.9%*	*29.4%*	*28.6%*
2. 夫や家族が反対するから	12	6	18	6	8	14
	2.8%	*1.6%*	*2.2%*	*1.6%*	*2.4%*	*2.0%*
3. 家事や夫・子どもの世話に専念したいから	231	201	432	42	45	87
	53.1%	*54.9%*	*53.9%*	*11.1%*	*13.2%*	*12.1%*
4. 老人や病人の世話があるから	5	13	18	9	7	16
	1.1%	*3.6%*	*2.2%*	*2.4%*	*2.1%*	*2.2%*
5. 自分の趣味を充実させたいから	20	14	34	41	30	71
	4.6%	*3.8%*	*4.2%*	*10.9%*	*8.8%*	*9.9%*
6. ボランティアなどの社会的活動をしたいから	3	3	6	14	16	30
	0.7%	*0.8%*	*0.7%*	*3.7%*	*4.7%*	*4.2%*
7. 時間や組織に縛られたくないから	27	23	50	60	35	95
	6.2%	*6.3%*	*6.2%*	*15.9%*	*10.3%*	*13.2%*
8. 経済的に働く必要がないから	30	30	60	64	67	131
	6.9%	*8.2%*	*7.5%*	*17.0%*	*19.7%*	*18.3%*
9. 疲れるから・健康上の理由から	17	11	28	20	19	39
	3.9%	*3.0%*	*3.5%*	*5.3%*	*5.6%*	*5.4%*
10. その他	27	20	47	16	13	29
	6.2%	*5.5%*	*5.9%*	*4.2%*	*3.8%*	*4.0%*
合　計	435	366	801	377	340	717
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*

Q7.（現在職業をお持ちでない方）あなたは今後，何か職業をもちたいと思いますか。

	女子大	共学大	合　計
1. もちたいと思う	260	234	494
	59.8%	*64.3%*	*61.8%*
2. もちたいとは思わない	62	43	105
	14.3%	*11.8%*	*13.1%*
3. わからない	113	87	200
	26.0%	*23.9%*	*25.0%*
合　計	435	364	799
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Ⅱ. 意識

Q1. 世間では，女性と男性の違いについて，さまざまなことがいわれています。
以下の記述について，あなたはどう思われますか。

***：p < 0.001, **：p < 0.01, *：p < 0.05

	A.男性は女性に比べて，人を使うのが上手である			B.女性は男性に比べ，臆病だ			C.家庭のこまごまとした管理は女性でなくてはと思う			D.女性のすぐれた思想家は，あまり出ないと思う		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. そう思う	43	34	77	24	26	50	115	111	226	44	57	101
	4.3%	*3.2%*	*3.8%*	*2.4%*	*2.5%*	*2.4%*	*11.6%*	*10.5%*	*11.0%*	*4.4%*	*5.5%*	*5.0%*
2. どちらかといえば そう思う	315	337	652	230	191	421	353	417	770	273	301	574
	31.8%	*31.9%*	*31.8%*	*23.1%*	*18.1%*	*20.5%*	*35.5%*	*39.4%*	*37.5%*	*27.5%*	*28.8%*	*28.2%*
3. どちらかといえば そう思わない	284	308	592	297	317	614	229	214	443	262	312	574
	28.6%	*29.2%*	*28.9%*	*29.9%*	*30.0%*	*29.9%*	*23.0%*	*20.2%*	*21.6%*	*26.4%*	*29.9%*	*28.2%*
4. そう思わない	350	377	727	443	523	966	298	316	614	413	374	787
	35.3%	*35.7%*	*35.5%*	*44.6%*	*49.5%*	*47.1%*	*29.9%*	*29.9%*	*29.9%*	*41.6%*	*35.8%*	*38.7%*
合 計	992	1056	2048	994	1057	2051	995	1058	2053	992	1044	2036
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.95	2.97	2.96	3.17	3.26	3.22	2.71	2.69	2.70	3.05	2.96	3.01
標準偏差	0.92	0.90	0.91	0.86	0.84	0.85	1.02	1.01	1.01	0.93	0.93	0.93
t検定(t値)	−0.621			−2.629 **			0.421			2.223 *		

	E.女性は，体力や精神力の点で，人命を預かる仕事には向いていないと思う			F.女性は視野が狭い			G.一家の生計を支えられないような経済力のない男性は男として失格である			H.女性は月経があるので，精神的に不安定である		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. そう思う	61	67	128	60	54	114	131	161	292	58	62	120
	6.1%	*6.3%*	*6.2%*	*6.2%*	*5.2%*	*5.7%*	*13.2%*	*15.3%*	*14.3%*	*5.8%*	*5.9%*	*5.8%*
2. どちらかといえば そう思う	301	348	649	343	358	701	356	326	682	310	333	643
	30.3%	*33.0%*	*31.7%*	*35.3%*	*34.6%*	*34.9%*	*35.9%*	*31.0%*	*33.3%*	*31.2%*	*31.5%*	*31.3%*
3. どちらかといえば そう思わない	289	301	590	219	243	462	252	295	547	292	298	590
	29.1%	*28.5%*	*28.8%*	*22.5%*	*23.5%*	*23.0%*	*25.4%*	*28.0%*	*26.7%*	*29.3%*	*28.2%*	*28.7%*
4. そう思わない	342	340	682	351	379	730	253	271	524	335	365	700
	34.4%	*32.2%*	*33.3%*	*36.1%*	*36.7%*	*36.4%*	*25.5%*	*25.7%*	*25.6%*	*33.7%*	*34.5%*	*34.1%*
合 計	993	1056	2049	973	1034	2007	992	1053	2045	995	1058	2053
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.92	2.87	2.89	2.88	2.92	2.90	2.63	2.64	2.64	2.91	2.91	2.91
標準偏差	0.94	0.94	0.94	0.97	0.96	0.96	1.00	1.03	1.01	0.93	0.94	0.94
t検定(t値)	1.270			−0.719			−0.221			−0.109		

	I.男はむやみに弱音を吐くものではないと思う			J.女性は何かにつけて責任を回避しがちである			K.人前では，妻は夫を立てた方がよい			L.論理的思考は，男性の方がすぐれている		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. そう思う	97	126	223	62	48	110	147	188	335	88	111	199
	9.8%	*11.9%*	*10.9%*	*6.3%*	*4.5%*	*5.4%*	*14.8%*	*17.8%*	*16.3%*	*8.9%*	*10.5%*	*9.7%*
2. どちらかといえば そう思う	319	330	649	341	361	702	530	530	1060	369	377	746
	32.2%	*31.3%*	*31.7%*	*34.4%*	*34.2%*	*34.3%*	*53.4%*	*50.1%*	*51.7%*	*37.3%*	*35.8%*	*36.5%*
3. どちらかといえば そう思わない	289	309	598	290	306	596	184	210	394	251	280	531
	29.2%	*29.3%*	*29.2%*	*29.3%*	*29.0%*	*29.1%*	*18.5%*	*19.9%*	*19.2%*	*25.4%*	*26.6%*	*26.0%*
4. そう思わない	285	290	575	298	341	639	131	129	260	281	285	566
	28.8%	*27.5%*	*28.1%*	*30.1%*	*32.3%*	*31.2%*	*13.2%*	*12.2%*	*12.7%*	*28.4%*	*27.1%*	*27.7%*
合 計	990	1055	2045	991	1056	2047	992	1057	2049	989	1053	2042
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.77	2.72	2.75	2.83	2.89	2.86	2.30	2.26	2.28	2.73	2.70	2.72
標準偏差	0.97	0.99	0.99	0.93	0.91	0.92	0.88	0.89	0.89	0.97	0.98	0.98
t検定(t値)	1.066			−1.438			0.933			0.723		

	M.最終的に頼りになるのは，やはり男性である			N.女性は男性に比べ，感情的である			O.子育ては，やはり母親でなくては，と思う			P.女性は出産する可能性があるため，男性と仕事で互角に並ぶのは無理である		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. そう思う	56	66	122	108	151	259	214	206	420	103	95	198
	5.7%	*6.3%*	*6.0%*	*10.9%*	*14.3%*	*12.7%*	*21.6%*	*19.7%*	*20.6%*	*10.4%*	*9.0%*	*9.7%*
2. どちらかといえばそう思う	278	300	578	540	536	1076	421	460	881	358	383	741
	28.3%	*28.6%*	*28.4%*	*54.5%*	*50.8%*	*52.6%*	*42.6%*	*43.9%*	*43.3%*	*36.2%*	*36.4%*	*36.3%*
3. どちらかといえばそう思わない	306	321	627	166	199	365	199	215	414	286	299	585
	31.1%	*30.6%*	*30.8%*	*16.8%*	*18.9%*	*17.8%*	*20.1%*	*20.5%*	*20.3%*	*28.9%*	*28.4%*	*28.7%*
4. そう思わない	344	363	707	177	169	346	155	166	321	241	274	515
	35.0%	*34.6%*	*34.8%*	*17.9%*	*16.0%*	*16.9%*	*15.7%*	*15.9%*	*15.8%*	*24.4%*	*26.1%*	*25.3%*
合 計	984	1050	2034	991	1055	2046	989	1047	2036	988	1051	2039
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.95	2.93	2.94	2.42	2.37	2.39	2.30	2.33	2.31	2.67	2.72	2.69
標準偏差	0.93	0.94	0.93	0.90	0.92	0.91	0.98	0.96	0.97	0.96	0.95	0.95
t検定(t値)	0.458			1.238			−0.636			−1.003		

	Q.子どものことより自分を優先して考えるような女性は，母親になるべきではない			R.男性は女性に比べ，攻撃的である			S.女は女らしく，男は男らしくするのがよいと思う		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. そう思う	88	109	197	72	54	126	47	60	107
	8.9%	*10.3%*	*9.6%*	*7.3%*	*5.1%*	*6.1%*	*4.7%*	*5.7%*	*5.2%*
2. どちらかといえばそう思う	317	339	656	262	279	541	213	226	439
	32.1%	*32.0%*	*32.1%*	*26.4%*	*26.4%*	*26.4%*	*21.5%*	*21.4%*	*21.5%*
3. どちらかといえばそう思わない	350	330	680	372	379	751	307	306	613
	35.4%	*31.2%*	*33.2%*	*37.5%*	*35.9%*	*36.6%*	*31.0%*	*29.0%*	*30.0%*
4. そう思わない	233	280	513	287	345	632	423	462	885
	23.6%	*26.5%*	*25.1%*	*28.9%*	*32.6%*	*30.8%*	*42.7%*	*43.8%*	*43.3%*
合 計	988	1058	2046	993	1057	2050	990	1054	2044
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.74	2.74	2.74	2.88	2.96	2.92	3.12	3.11	3.11
標準偏差	0.92	0.96	0.94	0.91	0.89	0.90	0.91	0.93	0.92
t検定(t値)	−0.032			−2.013 *			0.175		

Q2.（お子さんをおもちの方）　（お子さんがすでに成長，成人された方も，お子さんが小さかった頃のことを思い浮かべてお答え下さい。）
お子さんを育てながら，次のようにお感じになる(なった)ことがありますか。

	A.育児の自信がなくなる			B.充実感がある			C.自分の関心，時間を子どもにとられ視野が狭くなる			D.子どもこそ生き甲斐だ		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. よくある(あった)	119	112	231	375	378	753	104	122	226	123	114	237
	15.1%	*14.2%*	*14.7%*	*47.8%*	*48.2%*	*48.0%*	*13.2%*	*15.6%*	*14.4%*	*15.6%*	*14.5%*	*15.1%*
2. 時々ある(あった)	258	242	500	265	276	541	231	217	448	253	250	503
	32.8%	*30.7%*	*31.8%*	*33.8%*	*35.2%*	*34.5%*	*29.4%*	*27.7%*	*28.5%*	*32.1%*	*31.8%*	*32.0%*
3. たまにある(あった)	338	360	698	129	119	248	310	293	603	280	276	556
	43.0%	*45.7%*	*44.4%*	*16.4%*	*15.2%*	*15.8%*	*39.4%*	*37.4%*	*38.4%*	*35.6%*	*35.2%*	*35.4%*
4. 全くない(なかった)	71	73	144	16	12	28	141	152	293	131	145	276
	9.0%	*9.3%*	*9.2%*	*2.0%*	*1.5%*	*1.8%*	*17.9%*	*19.4%*	*18.7%*	*16.6%*	*18.5%*	*17.6%*
合 計	786	787	1573	785	785	1570	786	784	1570	787	785	1572
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.46	2.50	2.48	1.73	1.70	1.71	2.62	2.61	2.61	2.53	2.58	2.55
標準偏差	0.86	0.85	0.85	0.81	0.78	0.79	0.93	0.97	0.95	0.95	0.95	0.95
t検定(t値)	−0.962			0.669			0.313			−0.907		

	E.子どもがいなければよかったと思う			F.自分のやりたいことができなくてあせる			G.子どもをもって自分も成長できた			H.育児ノイローゼになる心境に共感できる		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. よくある(あった)	5	8	13	120	116	236	547	552	1099	178	165	343
	0.6%	*1.0%*	*0.8%*	*15.3%*	*14.8%*	*15.0%*	*69.6%*	*70.1%*	*69.9%*	*22.7%*	*21.0%*	*21.8%*
2. 時々ある(あった)	43	46	89	170	165	335	159	182	341	212	228	440
	5.5%	*5.9%*	*5.7%*	*21.6%*	*21.0%*	*21.3%*	*20.2%*	*23.1%*	*21.7%*	*27.0%*	*29.0%*	*28.0%*
3. たまにある(あった)	187	186	373	382	382	764	72	49	121	294	302	596
	23.9%	*23.7%*	*23.8%*	*48.6%*	*48.6%*	*48.6%*	*9.2%*	*6.2%*	*7.7%*	*37.5%*	*38.4%*	*37.9%*
4. 全くない(なかった)	549	545	1094	114	123	237	8	4	12	101	91	192
	70.0%	*69.4%*	*69.7%*	*14.5%*	*15.6%*	*15.1%*	*1.0%*	*0.5%*	*0.8%*	*12.9%*	*11.6%*	*12.2%*
合 計	784	785	1569	786	786	1572	786	787	1573	785	786	1571
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	3.63	3.62	3.62	2.62	2.65	2.64	1.42	1.37	1.39	2.41	2.41	2.41
標準偏差	0.62	0.64	0.63	0.91	0.91	0.91	0.70	0.62	0.66	0.98	0.95	0.96
t検定(t値)	0.545			−0.608			1.348			−0.016		

	I.自分の中で最も重要なのは子どもだ			J.何となくイライラする			K.子どもは自分の体の一部のような感じだ			L.子どもさえいれば幸せだ		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. よくある(あった)	162	185	347	130	137	267	95	103	198	55	75	130
	20.7%	*23.5%*	*22.1%*	*16.5%*	*17.5%*	*17.0%*	*12.1%*	*13.1%*	*12.6%*	*7.0%*	*9.5%*	*8.3%*
2. 時々ある(あった)	263	250	513	263	243	506	154	138	292	185	146	331
	33.6%	*31.8%*	*32.7%*	*33.5%*	*31.0%*	*32.2%*	*19.6%*	*17.5%*	*18.6%*	*23.6%*	*18.6%*	*21.1%*
3. たまにある(あった)	261	231	492	348	361	709	280	268	548	264	277	541
	33.3%	*29.4%*	*31.4%*	*44.3%*	*46.0%*	*45.1%*	*35.6%*	*34.1%*	*34.8%*	*33.6%*	*35.2%*	*34.4%*
4. 全くない(なかった)	97	120	217	45	44	89	257	278	535	281	289	570
	12.4%	*15.3%*	*13.8%*	*5.7%*	*5.6%*	*5.7%*	*32.7%*	*35.3%*	*34.0%*	*35.8%*	*36.7%*	*36.3%*
合 計	783	786	1569	786	785	1571	786	787	1573	785	787	1572
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.37	2.36	2.37	2.39	2.40	2.39	2.89	2.92	2.90	2.98	2.99	2.99
標準偏差	0.95	1.00	0.98	0.83	0.84	0.83	1.00	1.02	1.01	0.94	0.97	0.95
t検定(t値)	0.210			−0.133			−0.526			−0.186		

Q3. 以下の記述についてあなたはどう思われますか。A～Xそれぞれについてあなたのお考えや感じ方にあてはまる番号に○をつけて下さい。

***：p < 0.001, **：p < 0.01, *：p < 0.05

	A.たいてい心を悩まされずに決心できる方だ			B.時々自分が役立たずだと感じる			C.自分で決心したことは，がんばることができる			D.もう少し自分を尊敬できるならばと思う		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. あてはまる	96	133	229	116	108	224	520	586	1106	141	151	292
	9.7%	*12.7%*	*11.2%*	*11.7%*	*10.3%*	*11.0%*	*52.4%*	*55.8%*	*54.2%*	*14.3%*	*14.4%*	*14.3%*
2. すこしあてはまる	344	339	683	394	403	797	361	370	731	379	396	775
	34.7%	*32.3%*	*33.5%*	*39.8%*	*38.3%*	*39.0%*	*36.4%*	*35.2%*	*35.8%*	*38.4%*	*37.8%*	*38.1%*
3. あまりあてはまらない	383	396	779	316	317	633	98	83	181	333	341	674
	38.7%	*37.7%*	*38.2%*	*31.9%*	*30.2%*	*31.0%*	*9.9%*	*7.9%*	*8.9%*	*33.7%*	*32.5%*	*33.1%*
4. あてはまらない	167	183	350	164	223	387	13	11	24	134	160	294
	16.9%	*17.4%*	*17.1%*	*16.6%*	*21.2%*	*19.0%*	*1.3%*	*1.0%*	*1.2%*	*13.6%*	*15.3%*	*14.4%*
合 計	990	1051	2041	990	1051	2041	992	1050	2042	987	1048	2035
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.63	2.60	2.61	2.53	2.62	2.58	1.60	1.54	1.57	2.47	2.49	2.48
標準偏差	0.88	0.92	0.90	0.90	0.93	0.92	0.72	0.69	0.70	0.90	0.92	0.91
t検定(t値)	0.726			−2.213 *			1.896			−0.511		

	E.自分の身の上に起こることを心配しない方である			F.周りの人からどう思われているのか気になる方である			G.自分にうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがある			H.気後れせずにやりたいことをすることができる		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. あてはまる	129	144	273	180	212	392	72	63	135	167	196	363
	13.0%	*13.7%*	*13.4%*	*18.2%*	*20.3%*	*19.3%*	*7.3%*	*6.0%*	*6.6%*	*16.9%*	*18.8%*	*17.9%*
2. すこしあてはまる	281	296	577	441	399	840	225	230	455	397	430	827
	28.4%	*28.2%*	*28.3%*	*44.5%*	*38.3%*	*41.3%*	*22.7%*	*22.0%*	*22.3%*	*40.3%*	*41.3%*	*40.8%*
3. あまりあてはまらない	334	375	709	281	319	600	376	403	779	345	327	672
	33.8%	*35.7%*	*34.8%*	*28.4%*	*30.6%*	*29.5%*	*38.0%*	*38.5%*	*38.3%*	*35.0%*	*31.4%*	*33.2%*
4. あてはまらない	245	236	481	88	112	200	317	350	667	77	88	165
	24.8%	*22.5%*	*23.6%*	*8.9%*	*10.7%*	*9.8%*	*32.0%*	*33.5%*	*32.8%*	*7.8%*	*8.5%*	*8.1%*
合 計	989	1051	2040	990	1042	2032	990	1046	2036	986	1041	2027
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.70	2.67	2.69	2.28	2.32	2.30	2.95	2.99	2.97	2.34	2.29	2.32
標準偏差	0.98	0.97	0.98	0.86	0.92	0.89	0.91	0.89	0.90	0.85	0.87	0.86
t検定(t値)	0.782			−0.960			−1.168			1.096		

	I.私が何をすべきか，誰かがいってくれた方が安心できる			J.他の人に何をしゃべったらよいのか迷うことが多い			K.自分自身を恥ずかしいと思うことがある			L.自分の能力に自信がある方だ		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. あてはまる	68	71	139	86	66	152	99	73	172	80	90	170
	6.9%	*6.8%*	*6.8%*	*8.7%*	*6.3%*	*7.5%*	*10.0%*	*7.0%*	*8.4%*	*8.1%*	*8.6%*	*8.3%*
2. すこしあてはまる	281	317	598	284	290	574	356	359	715	395	473	868
	28.4%	*30.3%*	*29.4%*	*28.8%*	*27.7%*	*28.2%*	*36.0%*	*34.3%*	*35.1%*	*39.9%*	*45.2%*	*42.6%*
3. あまりあてはまらない	358	365	723	363	393	756	344	359	703	402	395	797
	36.2%	*34.9%*	*35.5%*	*36.8%*	*37.5%*	*37.2%*	*34.7%*	*34.3%*	*34.5%*	*40.6%*	*37.7%*	*39.1%*
4. あてはまらない	281	293	574	254	298	552	191	255	446	113	89	202
	28.4%	*28.0%*	*28.2%*	*25.7%*	*28.5%*	*27.1%*	*19.3%*	*24.4%*	*21.9%*	*11.4%*	*8.5%*	*9.9%*
合 計	988	1046	2034	987	1047	2034	990	1046	2036	990	1047	2037
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.86	2.84	2.85	2.80	2.88	2.84	2.63	2.76	2.70	2.55	2.46	2.51
標準偏差	0.91	0.91	0.91	0.92	0.89	0.91	0.90	0.90	0.90	0.80	0.77	0.78
t検定(t値)	0.521			−2.137 *			−3.191 ***			2.655 **		

	M.グループで決められた通りにやる方が気楽でよい			N.他の人から相談をもちかけられることが多い			O.グループの中で自分のやれる役割・仕事がある			P.あまり親しくない人と話すには勇気がいる方である		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. あてはまる	82	71	153	182	222	404	371	437	808	133	127	260
	8.3%	*6.8%*	*7.5%*	*18.3%*	*21.1%*	*19.8%*	*37.7%*	*41.8%*	*39.8%*	*13.5%*	*12.1%*	*12.8%*
2. すこしあてはまる	350	395	745	473	512	985	464	496	960	338	333	671
	35.3%	*37.6%*	*36.5%*	*47.7%*	*48.8%*	*48.2%*	*47.2%*	*47.5%*	*47.3%*	*34.3%*	*31.8%*	*33.0%*
3. あまりあてはまらない	397	395	792	299	259	558	115	98	213	322	354	676
	40.1%	*37.6%*	*38.8%*	*30.1%*	*24.7%*	*27.3%*	*11.7%*	*9.4%*	*10.5%*	*32.7%*	*33.8%*	*33.3%*
4. あてはまらない	162	189	351	38	57	95	33	14	47	193	232	425
	16.3%	*18.0%*	*17.2%*	*3.8%*	*5.4%*	*4.7%*	*3.4%*	*1.3%*	*2.3%*	*19.6%*	*22.2%*	*20.9%*
合 計	991	1050	2041	992	1050	2042	983	1045	2028	986	1046	2032
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.64	2.67	2.66	2.19	2.14	2.17	1.81	1.70	1.75	2.58	2.66	2.62
標準偏差	0.85	0.85	0.85	0.78	0.81	0.79	0.77	0.69	0.73	0.95	0.95	0.95
t検定(t値)	−0.633			1.445			3.216 ***			−1.831		

	Q.グループで話がまとまらないとき，自分から口をはさむのは苦手である			R.グループの人全員に気を配るようにしている			S.何があっても臨機応変にやれる方である			T.グループのしっかりした人にまかせてしまう方である		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. あてはまる	120	118	238	345	437	782	185	236	421	131	148	279
	12.1%	*11.3%*	*11.7%*	*34.8%*	*41.7%*	*38.4%*	*18.8%*	*22.5%*	*20.7%*	*13.4%*	*14.2%*	*13.8%*
2. すこしあてはまる	283	242	525	479	467	946	478	522	1000	456	431	887
	28.6%	*23.2%*	*25.8%*	*48.4%*	*44.5%*	*46.4%*	*48.6%*	*49.9%*	*49.3%*	*46.6%*	*41.4%*	*43.9%*
3. あまりあてはまらない	411	477	888	144	126	270	257	243	500	300	349	649
	41.5%	*45.6%*	*43.6%*	*14.5%*	*12.0%*	*13.2%*	*26.1%*	*23.2%*	*24.6%*	*30.7%*	*33.5%*	*32.1%*
4. あてはまらない	177	208	385	22	19	41	63	46	109	91	113	204
	17.9%	*19.9%*	*18.9%*	*2.2%*	*1.8%*	*2.0%*	*6.4%*	*4.4%*	*5.4%*	*9.3%*	*10.9%*	*10.1%*
合 計	991	1045	2036	990	1049	2039	983	1047	2030	978	1041	2019
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.65	2.74	2.70	1.84	1.74	1.79	2.20	2.09	2.15	2.36	2.41	2.39
標準偏差	0.91	0.90	0.91	0.75	0.74	0.74	0.82	0.79	0.80	0.83	0.86	0.85
t検定(t値)	−2.258 *			3.094 **			2.994 **			−1.363		

	U.自分がグループの足手まといになるのではないかと心配になる			V.人と気まずい雰囲気になったとき，何とか話の糸口をみつけようとする方である			W.グループのまとめ役や世話役をやらされることが多い			X.グループでやるより，ひとりでやる方がよい		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. あてはまる	37	27	64	325	434	759	230	283	513	231	265	496
	3.8%	*2.6%*	*3.1%*	*32.9%*	*41.3%*	*37.2%*	*23.2%*	*27.0%*	*25.2%*	*23.4%*	*25.2%*	*24.3%*
2. すこしあてはまる	140	150	290	498	469	967	414	461	875	455	439	894
	14.2%	*14.3%*	*14.3%*	*50.4%*	*44.7%*	*47.4%*	*41.8%*	*44.0%*	*43.0%*	*46.0%*	*41.8%*	*43.8%*
3. あまりあてはまらない	410	413	823	138	123	261	269	229	498	258	298	556
	41.6%	*39.4%*	*40.5%*	*14.0%*	*11.7%*	*12.8%*	*27.2%*	*21.9%*	*24.4%*	*26.1%*	*28.4%*	*27.3%*
4. あてはまらない	398	457	855	28	24	52	77	74	151	45	49	94
	40.4%	*43.6%*	*42.1%*	*2.8%*	*2.3%*	*2.6%*	*7.8%*	*7.1%*	*7.4%*	*4.6%*	*4.7%*	*4.6%*
合 計	985	1047	2032	989	1050	2039	990	1047	2037	989	1051	2040
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	3.19	3.24	3.22	1.87	1.75	1.81	2.19	2.09	2.14	2.12	2.12	2.12
標準偏差	0.81	0.79	0.80	0.75	0.75	0.75	0.88	0.87	0.88	0.81	0.84	0.83
t検定(t値)	−1.541			3.552 ***			2.701 **			−0.173		

Ⅲ. 生活

Q1. あなたは結婚しておられますか。

	女子大	共学大	合 計
1. 既婚(再婚も含む)	849	879	1728
	85.6%	*82.9%*	*84.2%*
2. 夫と死別または離婚	32	39	71
	3.2%	*3.7%*	*3.5%*
3. 未婚	111	142	253
	11.2%	*13.4%*	*12.3%*
合 計	992	1060	2052
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

(Q1で1「既婚」または2「夫と死別または離婚」と答えた方)
SQ1. 結婚された時(初婚), おいくつでしたか。

	女子大	共学大	合 計
20-23才	87	84	171
	9.9%	*9.2%*	*9.7%*
24-27才	583	574	1157
	66.6%	*63.3%*	*65.0%*
28-31才	148	181	329
	17.0%	*19.9%*	*18.5%*
32才以上	58	68	126
	6.5%	*7.5%*	*7.3%*
合 計	876	907	1783
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

SQ2. あなたはお子さんをおもちですか。

		女子大	共学大	合 計
0. いない		94	130	224
		10.7%	*14.1%*	*12.5%*
1. いる	1人	170	175	345
		19.3%	*19.0%*	*19.2%*
	2人	424	464	888
		48.2%	*50.5%*	*49.4%*
	3人	179	136	315
		20.3%	*14.8%*	*17.5%*
	4人	11	13	24
		1.3%	*1.4%*	*1.3%*
	5人	2	1	3
		0.2%	*0.1%*	*0.2%*
	合 計	786	789	1575
		89.3%	*85.8%*	*87.6%*
合 計		880	919	1799
		100.0%	*100.0%*	*100.0%*

SQ3. 結婚に際しては, あなたの大学の卒業生ということが1つの有利な条件となっていたと思いますか。

	女子大	共学大	合 計
1. 有利な条件となっていたと思う	318	211	529
	37.1%	*24.3%*	*30.6%*
2. そういうことはなかったと思う	301	423	724
	35.1%	*48.6%*	*41.9%*
3. むしろ不利な条件だったと思う	5	3	8
	0.6%	*0.3%*	*0.5%*
4. どちらともいえない・わからない	234	233	467
	27.3%	*26.8%*	*27.0%*
合 計	858	870	1728
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Q2. 下に職業以外の7種類の社会的活動をあげてあります。あなたが, A. 過去にしたことがあるもの, B. 現在しているもの, C. 今後したいものについて, それぞれあてはまる欄に○をつけて下さい。

	A. 過去にした			B. 現在している			C. 今後したい		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. 趣味や資格を生かした活動	300	367	667	355	373	728	420	427	847
	30.1%	*34.6%*	*32.4%*	*35.6%*	*35.2%*	*35.4%*	*42.1%*	*40.3%*	*41.2%*
2. 社会的に承認された活動 (調停委員, 民生委員)	7	9	16	9	13	22	138	142	280
	0.7%	*0.8%*	*0.8%*	*0.9%*	*1.2%*	*1.1%*	*13.8%*	*13.4%*	*13.6%*
3. 各種地域社会活動 (PTA活動, 自治会・町内会活動)	418	367	785	385	394	779	68	78	146
	41.9%	*34.6%*	*38.1%*	*38.6%*	*37.2%*	*37.9%*	*6.8%*	*7.4%*	*7.1%*
4. ボランティア活動 (社会福祉, 環境保護など)	124	144	268	97	99	196	424	468	892
	12.4%	*13.6%*	*13.0%*	*9.7%*	*9.3%*	*9.5%*	*42.5%*	*44.2%*	*43.3%*
5. 宗教活動	21	44	65	39	48	87	26	21	47
	2.1%	*4.2%*	*3.2%*	*3.9%*	*4.5%*	*4.2%*	*2.6%*	*2.0%*	*2.3%*
6. 大学開放講座・市民講座への参加	257	197	454	78	71	149	460	512	972
	25.8%	*18.6%*	*22.1%*	*7.8%*	*6.7%*	*7.2%*	*46.1%*	*48.3%*	*47.2%*
7. 市民運動・住民運動	35	42	77	20	28	48	49	81	130
	3.5%	*4.0%*	*3.7%*	*2.0%*	*2.6%*	*2.3%*	*4.9%*	*7.6%*	*6.3%*
8. その他	5	6	11	10	16	26	4	12	16
	0.5%	*0.6%*	*0.5%*	*1.0%*	*1.5%*	*1.3%*	*0.4%*	*1.1%*	*0.8%*

(注)複数回答のため, %はサンプル数を母数として計算している。
女子大:998, 共学大:1060, 合計:2058

Ⅳ. 大学教育

Q1. あなたが大学で受けた教育は，これまでの生活に役立っていますか。

	領域A. 家庭生活			領域B. 職業			領域C. 社会的活動		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. 役立っている	221	195	416	294	351	645	166	201	367
	22.4%	*18.6%*	*20.4%*	*30.4%*	*34.1%*	*32.3%*	*17.4%*	*19.7%*	*18.6%*
2. まあ役立っている	414	434	848	366	357	723	414	402	816
	42.0%	*41.3%*	*41.6%*	*37.9%*	*34.7%*	*36.3%*	*43.4%*	*39.4%*	*41.3%*
3. あまり役立っていない	261	313	574	200	200	400	277	305	582
	26.5%	*29.8%*	*28.2%*	*20.7%*	*19.5%*	*20.1%*	*29.0%*	*29.9%*	*29.5%*
4. 役立っていない	90	109	199	106	120	226	97	112	209
	9.1%	*10.4%*	*9.8%*	*11.0%*	*11.7%*	*11.3%*	*10.2%*	*11.0%*	*10.6%*
合 計	986	1051	2037	966	1028	1994	954	1020	1974
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.22	2.32	2.27	2.12	2.09	2.10	2.32	2.32	2.32
標準偏差	0.90	0.89	0.90	0.97	1.00	0.98	0.88	0.91	0.90
t検定(t値)	−2.434 *			0.807			−0.046		

*：$p < 0.05$

（Q1でひとつでも1「役立っている」，2「まあ役立っている」と答えた方）
SQ. 特にどのようなことが役立っていますか。役立っていると答えた領域について，1番目に役立ったこと，2番目に役立ったことを
1〜11の中から選び，左の表に番号を記入して下さい。

1番目に役立ったこと	領域A. 家庭生活			領域B. 職業			領域C. 社会的活動		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. 専門的知識や技能が身に付いた	75	43	118	321	375	696	35	62	97
	12.3%	*7.1%*	*9.7%*	*50.1%*	*55.1%*	*52.6%*	*6.3%*	*10.9%*	*8.6%*
2. リーダーシップが身に付いた	2	2	4	13	13	26	39	52	91
	0.3%	*0.3%*	*0.3%*	*2.0%*	*1.9%*	*2.0%*	*7.0%*	*9.2%*	*8.1%*
3. 自分の価値観を形成できた	304	320	624	119	124	243	213	195	408
	49.8%	*52.5%*	*51.1%*	*18.6%*	*18.2%*	*18.4%*	*38.2%*	*34.4%*	*36.3%*
4. 生きていく上で精神的な支えを得た	83	80	163	28	29	57	35	41	76
	13.6%	*13.1%*	*13.4%*	*4.4%*	*4.3%*	*4.3%*	*6.3%*	*7.2%*	*6.8%*
5. 人との付き合い方が身に付いた	22	28	50	44	48	92	92	105	197
	3.6%	*4.6%*	*4.1%*	*6.9%*	*7.0%*	*7.0%*	*16.5%*	*18.5%*	*17.5%*
6. よい教員と出会うことができた	1	1	2	17	11	28	5	9	14
	0.2%	*0.2%*	*0.2%*	*2.7%*	*1.6%*	*2.1%*	*0.9%*	*1.6%*	*1.2%*
7. よい友人を得ることができた	94	122	216	8	20	28	67	65	132
	15.4%	*20.0%*	*17.7%*	*1.2%*	*2.9%*	*2.1%*	*12.0%*	*11.5%*	*11.7%*
8. 個人的に卒業生に助けられた	5	2	7	7	6	13	4	7	11
	0.8%	*0.3%*	*0.6%*	*1.1%*	*0.9%*	*1.0%*	*0.7%*	*1.2%*	*1.0%*
9. 同窓会の存在に助けられた		1	1	10	2	12	13		13
		0.2%	*0.1%*	*1.6%*	*0.3%*	*0.9%*	*2.3%*		*1.2%*
10. 校風が身に付いた	15	9	24	3	5	8	17	9	26
	2.5%	*1.5%*	*2.0%*	*0.5%*	*0.7%*	*0.6%*	*3.1%*	*1.6%*	*2.3%*
11. 社会的に評価の高い大学を出た	10	1	11	71	48	119	37	22	59
	1.6%	*0.2%*	*0.9%*	*11.1%*	*7.0%*	*9.0%*	*6.6%*	*3.9%*	*5.2%*
合 計	611	609	1220	641	681	1322	557	567	1124
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*

2番目に役立ったこと	領域A. 家庭生活			領域B. 職業			領域C. 社会的活動		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. 専門的知識や技能が身に付いた	42	41	83	77	70	147	30	41	71
	7.6%	*7.5%*	*7.5%*	*14.2%*	*11.7%*	*12.9%*	*6.2%*	*8.2%*	*7.2%*
2. リーダーシップが身に付いた	7	5	12	29	30	59	34	38	72
	1.3%	*0.9%*	*1.1%*	*5.4%*	*5.0%*	*5.2%*	*7.0%*	*7.6%*	*7.3%*
3. 自分の価値観を形成できた	107	110	217	108	135	243	79	83	162
	19.4%	*20.0%*	*19.7%*	*20.0%*	*22.5%*	*21.3%*	*16.3%*	*16.6%*	*16.4%*
4. 生きていく上で精神的な支えを得た	127	137	264	39	56	95	66	64	130
	23.0%	*25.0%*	*24.0%*	*7.2%*	*9.3%*	*8.3%*	*13.6%*	*12.8%*	*13.2%*
5. 人との付き合い方が身に付いた	74	84	158	60	106	166	104	128	232
	13.4%	*15.3%*	*14.4%*	*11.1%*	*17.7%*	*14.6%*	*21.4%*	*25.6%*	*23.5%*
6. よい教員と出会うことができた	14	12	26	36	38	74	13	10	23
	2.5%	*2.2%*	*2.4%*	*6.7%*	*6.3%*	*6.5%*	*2.7%*	*2.0%*	*2.3%*
7. よい友人を得ることができた	124	127	251	48	54	102	76	83	159
	22.5%	*23.1%*	*22.8%*	*8.9%*	*9.0%*	*8.9%*	*15.6%*	*16.6%*	*16.1%*
8. 個人的に卒業生に助けられた	6	1	7	15	8	23	10	3	13
	1.1%	*0.2%*	*0.6%*	*2.8%*	*1.3%*	*2.0%*	*2.1%*	*0.6%*	*1.3%*
9. 同窓会の存在に助けられた	3	1	4	13	7	20	9	3	12
	0.5%	*0.2%*	*0.4%*	*2.4%*	*1.2%*	*1.8%*	*1.9%*	*0.6%*	*1.2%*
10. 校風が身に付いた	31	18	49	8	7	15	20	16	36
	5.6%	*3.3%*	*4.5%*	*1.5%*	*1.2%*	*1.3%*	*4.1%*	*3.2%*	*3.7%*
11. 社会的に評価の高い大学を出た	17	13	30	108	88	196	45	31	76
	3.1%	*2.4%*	*2.7%*	*20.0%*	*14.7%*	*17.2%*	*9.3%*	*6.2%*	*7.7%*
合 計	552	549	1101	541	599	1140	486	500	986
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*

Q2. あなたは大学での生活にどの程度満足していましたか。

*** : p < 0.001, ** : p < 0.01, * : p < 0.05

	A. 友人関係			B. サークル・クラブ活動			C. 授業やゼミなど			D. 教員の指導		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. 非常に満足	340	389	729	187	264	451	139	92	231	118	74	192
	35.2%	*37.8%*	*36.5%*	*20.2%*	*26.4%*	*23.4%*	*14.4%*	*9.0%*	*11.6%*	*12.3%*	*7.2%*	*9.7%*
2. どちらかといえば満足	523	548	1071	448	467	915	621	659	1280	611	587	1198
	54.1%	*53.3%*	*53.7%*	*48.4%*	*46.7%*	*47.5%*	*64.2%*	*64.2%*	*64.2%*	*63.5%*	*57.5%*	*60.4%*
3. どちらかといえば不満	94	85	179	242	230	472	190	251	441	211	322	533
	9.7%	*8.3%*	*9.0%*	*26.1%*	*23.0%*	*24.5%*	*19.6%*	*24.4%*	*22.1%*	*21.9%*	*31.5%*	*26.9%*
4. 非常に不満	10	6	16	49	40	89	18	25	43	22	38	60
	1.0%	*0.6%*	*0.8%*	*5.3%*	*4.0%*	*4.6%*	*1.9%*	*2.4%*	*2.2%*	*2.3%*	*3.7%*	*3.0%*
合 計	967	1028	1995	926	1001	1927	968	1027	1995	962	1021	1983
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	1.77	1.72	1.74	2.17	2.05	2.10	2.09	2.20	2.15	2.14	2.32	2.23
標準偏差	0.66	0.64	0.65	0.81	0.81	0.81	0.64	0.62	0.63	0.64	0.66	0.66
t検定(t値)	1.735			3.244 ***			-4.017 ***			-5.974 ***		

	E. 教員との交流			F. 校 風			G. 施設・設備			H. 職員の学生に対する対応		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. 非常に満足	90	64	154	261	293	554	96	131	227	87	39	126
	9.4%	*6.3%*	*7.8%*	*27.1%*	*28.6%*	*27.9%*	*9.9%*	*12.8%*	*11.4%*	*9.1%*	*3.9%*	*6.4%*
2. どちらかといえば満足	420	343	763	595	633	1228	554	645	1199	636	705	1341
	44.0%	*33.8%*	*38.8%*	*61.8%*	*61.7%*	*61.7%*	*57.4%*	*63.0%*	*60.3%*	*66.8%*	*69.7%*	*68.3%*
3. どちらかといえば不満	385	503	888	96	89	185	288	224	512	202	238	440
	40.4%	*49.6%*	*45.1%*	*10.0%*	*8.7%*	*9.3%*	*29.8%*	*21.9%*	*25.8%*	*21.2%*	*23.5%*	*22.4%*
4. 非常に不満	59	105	164	11	11	22	27	23	50	27	30	57
	6.2%	*10.3%*	*8.3%*	*1.1%*	*1.1%*	*1.1%*	*2.8%*	*2.2%*	*2.5%*	*2.8%*	*3.0%*	*2.9%*
合 計	954	1015	1969	963	1026	1989	965	1023	1988	952	1012	1964
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.43	2.64	2.54	1.85	1.82	1.84	2.25	2.14	2.19	2.18	2.26	2.22
標準偏差	0.75	0.75	0.76	0.63	0.62	0.62	0.67	0.65	0.66	0.62	0.57	0.60
t検定(t値)	-6.112 ***			1.032			4.034 ***			-2.912 **		

Q3. あなたは現在，大学時代の友人とどのくらいつきあっていますか。

	女子大	共学大	合 計
1. よくつきあっている	206	230	436
	20.7%	*21.8%*	*21.3%*
2. まあつきあっている	429	482	911
	43.2%	*45.7%*	*44.5%*
3. あまりつきあっていない	321	291	612
	32.3%	*27.6%*	*29.9%*
4. まったくつきあっていない	37	51	88
	3.7%	*4.8%*	*4.3%*
合 計	993	1054	2047
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Q4. あなたは大学時代の友人との関係を，どのようにお考えです

	女子大	共学大	合 計
1. とても重要であり，大事にしていきたい	401	440	841
	40.4%	*41.8%*	*41.1%*
2. 何らかの形で付き合いは続けていきたい	484	504	988
	48.8%	*47.9%*	*48.3%*
3. 大学時代の友人関係よりも，今の人間関係を大事にしたい	94	94	188
	9.5%	*8.9%*	*9.2%*
4. その他	13	15	28
	1.3%	*1.4%*	*1.4%*
合 計	992	1053	2045
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Q5. あなたは大学時代の先生に，どの程度影響を受けましたか。

***：$p < 0.001$

	女子大	共学大	合 計
1. 非常に影響を受けた	151	110	261
	15.2%	*10.4%*	*12.7%*
2. 少し影響を受けた	393	296	689
	39.6%	*27.9%*	*33.6%*
3. あまり影響は受けなかった	329	419	748
	33.2%	*39.5%*	*36.5%*
4. ほとんど影響は受けなかった	119	235	354
	12.0%	*22.2%*	*17.3%*
合 計	992	1060	2052
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.42	2.73	2.58
標準偏差	0.89	0.92	0.92
t検定(t値)	-7.895 ***		

（Q5で1「非常に影響を受けた」，2「少し影響を受けた」と答えた方）
SQ1. どのような影響を受けましたか。

***：$p < 0.001$, **：$p < 0.01$, *：$p < 0.05$

	1. ものごとの考え方や学び方を学んだ			2. 研究や仕事に対する姿勢を学んだ			3. 人間関係の持ち方，気配りを学んだ			4. 自分に自信がもてるように励まされた		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. あてはまる	291	212	503	266	157	423	85	65	150	99	50	149
	55.9%	*53.1%*	*54.7%*	*51.2%*	*39.7%*	*46.2%*	*17.4%*	*17.2%*	*17.3%*	*20.4%*	*13.3%*	*17.3%*
2. すこしあてはまる	201	161	362	203	186	389	155	131	286	147	122	269
	38.6%	*40.4%*	*39.3%*	*39.0%*	*47.1%*	*42.5%*	*31.8%*	*34.7%*	*33.1%*	*30.3%*	*32.4%*	*31.2%*
3. あまりあてはまらない	24	24	48	42	44	86	179	141	320	178	150	328
	4.6%	*6.0%*	*5.2%*	*8.1%*	*11.1%*	*9.4%*	*36.7%*	*37.4%*	*37.0%*	*36.7%*	*39.9%*	*38.1%*
4. あてはまらない	5	2	7	9	8	17	69	40	109	61	54	115
	1.0%	*0.5%*	*0.8%*	*1.7%*	*2.0%*	*1.9%*	*14.1%*	*10.6%*	*12.6%*	*12.6%*	*14.4%*	*13.4%*
合 計	521	399	920	520	395	915	488	377	865	485	376	861
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	1.51	1.54	1.52	1.60	1.75	1.67	2.48	2.41	2.45	2.41	2.55	2.48
標準偏差	0.63	0.63	0.63	0.71	0.73	0.72	0.94	0.90	0.92	0.95	0.90	0.93
t検定(t値)	-0.763			-3.139 **			0.976			-2.178 *		

	5. 女性教員から女性のよさを学んだ			6. 男性教員から男性のよさを学んだ			7. 女性教員から生き方を学んだ			8. 男性教員から生き方を学んだ		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. あてはまる	114	26	140	15	9	24	149	23	172	35	36	71
	23.5%	*7.2%*	*16.6%*	*3.1%*	*2.5%*	*2.9%*	*30.1%*	*6.4%*	*20.1%*	*7.3%*	*9.9%*	*8.4%*
2. すこしあてはまる	155	44	199	84	42	126	202	73	275	113	94	207
	32.0%	*12.2%*	*23.6%*	*17.6%*	*11.6%*	*15.0%*	*40.8%*	*20.2%*	*32.1%*	*23.7%*	*25.8%*	*24.6%*
3. あまりあてはまらない	137	124	261	228	142	370	91	113	204	187	120	307
	28.2%	*34.4%*	*30.9%*	*47.8%*	*39.1%*	*44.0%*	*18.4%*	*31.2%*	*23.8%*	*39.2%*	*32.9%*	*36.5%*
4. あてはまらない	79	166	245	150	170	320	53	153	206	142	115	257
	16.3%	*46.1%*	*29.0%*	*31.4%*	*46.8%*	*38.1%*	*10.7%*	*42.3%*	*24.0%*	*29.8%*	*31.5%*	*30.5%*
合 計	485	360	845	477	363	840	495	362	857	477	365	842
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*
平 均	2.37	3.19	2.72	3.08	3.30	3.17	2.10	3.09	2.52	2.91	2.86	2.89
標準偏差	1.02	0.91	1.05	0.78	0.77	0.78	0.95	0.93	1.06	0.91	0.97	0.94
t検定(t値)	-12.308 ***			-4.214 ***			-15.269 ***			0.817		

SQ2. 大学の先生から受けた影響について，どんなことでも結構ですから，具体的にお書き下さい。

	女子大	共学大	合 計
記述なし	91		91
	19.0%		*11.6%*
記述あり	388	307	695
	81.0%	*100.0%*	*88.4%*
合 計	479	307	786
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Q6. 今仮に，あなたに大学に入る年頃の女のお子さんがいると仮定した場合，あなたはそのお子さんを母校に入学させたいと思いますか。

	女子大	共学大	合 計
1. 母校に入学してほしい	35	61	96
	3.6%	*6.0%*	*4.8%*
2. 本人次第だが，母校に入学してくれたらうれしい	628	689	1317
	64.9%	*67.5%*	*66.2%*
3. 本人次第だが，母校はすすめない	274	241	515
	28.3%	*23.6%*	*25.9%*
4. 母校はすすめない	31	29	60
	3.2%	*2.8%*	*3.0%*
合 計	968	1020	1988
	100.0%	*100.0%*	*100.0%*

Q7. 図は，大学卒業後の女性のライフコース（生き方）について仕事と家庭（結婚・出産）の関係を中心に図式化したものです。
下のSQ1～SQ6にお答え下さい。

		SQ1.あなたのお母様はどのタイプにあたりますか			SQ2.大学卒業の頃，あなたのお父様はあなたにどのタイプを望んでいましたか			SQ3.大学卒業の頃，あなたのお母様はあなたにどのタイプを望んでいましたか			SQ4.あなたは大学卒業の頃，どのタイプを望んでいましたか		
		女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
勤続型	Aタイプ	1		1	5	13	18	7	10	17	50	64	114
		0.1%		*0.0%*	*0.5%*	*1.3%*	*0.9%*	*0.7%*	*1.0%*	*0.8%*	*5.1%*	*6.2%*	*5.6%*
	Bタイプ	1	3	4	2	2	4	2	7	9	37	57	94
		0.1%	*0.3%*	*0.2%*	*0.2%*	*0.2%*	*0.2%*	*0.2%*	*0.7%*	*0.4%*	*3.7%*	*5.5%*	*4.6%*
	Cタイプ	160	211	371	187	184	371	219	246	465	318	327	645
		16.1%	*20.1%*	*18.2%*	*19.2%*	*18.5%*	*18.8%*	*22.2%*	*24.1%*	*23.2%*	*32.2%*	*31.4%*	*31.6%*
再参入型	Dタイプ	89	98	187	46	49	95	61	62	123	75	71	145
		9.0%	*9.3%*	*9.1%*	*4.7%*	*4.9%*	*4.8%*	*6.2%*	*6.1%*	*6.1%*	*7.6%*	*6.8%*	*7.2%*
	Eタイプ	40	55	95	47	76	123	91	113	204	139	152	291
		4.0%	*5.2%*	*4.6%*	*4.8%*	*7.6%*	*6.2%*	*9.2%*	*11.1%*	*10.2%*	*14.1%*	*14.6%*	*14.3%*
退職型	Fタイプ	4	2	6	11	3	14	8	4	12	7	8	15
		0.4%	*0.2%*	*0.3%*	*1.1%*	*0.3%*	*0.7%*	*0.8%*	*0.4%*	*0.6%*	*0.7%*	*0.8%*	*0.7%*
	Gタイプ	243	256	499	343	350	693	309	319	628	202	205	407
		24.4%	*24.4%*	*24.4%*	*35.1%*	*35.2%*	*35.2%*	*31.3%*	*31.3%*	*31.3%*	*20.4%*	*19.7%*	*20.1%*
	Hタイプ	42	32	74	106	86	192	110	106	216	95	99	194
		4.2%	*3.0%*	*3.6%*	*10.9%*	*8.7%*	*9.7%*	*11.1%*	*10.4%*	*10.8%*	*9.6%*	*9.5%*	*9.6%*
後半就職型	Iタイプ	25	18	43	2		2	4		4	2	3	5
		2.5%	*1.7%*	*2.1%*	*0.2%*		*0.1%*	*0.4%*		*0.2%*	*0.2%*	*0.3%*	*0.2%*
	Jタイプ	73	57	130	4	1	5	4	1	5	4	5	9
		7.3%	*5.4%*	*6.4%*	*0.4%*	*0.1%*	*0.3%*	*0.4%*	*0.1%*	*0.2%*	*0.4%*	*0.5%*	*0.4%*
無職型	Kタイプ	5	3	8	1		1	1		1	3	3	6
		0.5%	*0.3%*	*0.4%*	*0.1%*		*0.1%*	*0.1%*		*0.0%*	*0.3%*	*0.3%*	*0.3%*
	Lタイプ	266	274	540	89	101	190	76	80	156	44	46	90
		26.8%	*26.1%*	*26.4%*	*9.1%*	*10.2%*	*9.6%*	*7.7%*	*7.9%*	*7.8%*	*4.4%*	*4.4%*	*4.4%*
その他		45	41	86	133	129	262	95	71	166	13		13
		4.5%	*3.9%*	*4.2%*	*13.6%*	*13.0%*	*13.3%*	*9.5%*	*7.0%*	*8.2%*	*1.3%*		*0.6%*
合 計		994	1050	2044	976	994	1970	987	1019	2006	989	1040	2029
		100.0%	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*	*100.0%*

		SQ5.現在のあなたのタイプはどれに最も近いですか		
		女子大	共学大	合　計
勤続型	Aタイプ	88 *8.9%*	112 *10.7%*	200 *9.8%*
	Bタイプ	62 *6.2%*	101 *9.6%*	163 *8.0%*
	Cタイプ	136 *13.7%*	182 *17.4%*	318 *15.6%*
再参入型	Dタイプ	129 *13.0%*	116 *11.1%*	245 *12.0%*
	Eタイプ	154 *15.5%*	174 *16.6%*	328 *16.1%*
退職型	Fタイプ	22 *2.2%*	20 *1.9%*	42 *2.1%*
	Gタイプ	217 *21.8%*	171 *16.3%*	388 *19.0%*
	Hタイプ	110 *11.1%*	112 *10.7%*	222 *10.9%*
後半就職型	Iタイプ	5 *0.5%*	7 *0.7%*	12 *0.6%*
	Jタイプ	22 *2.2%*	15 *1.4%*	37 *1.8%*
無職型	Kタイプ	1 *0.1%*	2 *0.2%*	3 *0.1%*
	Lタイプ	40 *4.0%*	36 *3.4%*	76 *3.7%*
その他		8 *0.8%*		8 *0.3%*
合　計		994 *100.0%*	1048 *100.0%*	2042 *100.0%*

	SQ1.あなたのお母様はどのタイプにあたりますか			SQ2.大学卒業の頃、あなたのお父様はあなたにどのタイプを望んでいましたか			SQ3.大学卒業の頃、あなたのお母様はあなたにどのタイプを望んでいましたか			SQ4.あなたは大学卒業の頃、どのタイプを望んでいましたか		
	女子大	共学大	合　計	女子大	共学大	合　計	女子大	共学大	合　計	女子大	共学大	合　計
勤続型	162 *17.1%*	215 *21.3%*	377 *19.3%*	194 *23.0%*	199 *23.0%*	393 *23.0%*	228 *25.6%*	263 *27.7%*	491 *26.7%*	405 *41.5%*	448 *43.1%*	853 *42.3%*
再参入型	129 *13.6%*	152 *15.1%*	281 *14.4%*	93 *11.0%*	125 *14.5%*	218 *12.8%*	152 *17.0%*	175 *18.5%*	327 *17.8%*	214 *21.9%*	223 *21.4%*	437 *21.7%*
退職型	289 *30.5%*	290 *28.7%*	579 *29.6%*	460 *54.6%*	439 *50.8%*	899 *52.6%*	427 *47.9%*	429 *45.3%*	856 *46.5%*	304 *31.1%*	312 *30.0%*	616 *30.6%*
後半就職型	98 *10.3%*	75 *7.4%*	173 *8.8%*	6 *0.7%*	1 *0.1%*	7 *0.4%*	8 *0.9%*	1 *0.1%*	9 *0.5%*	6 *0.6%*	8 *0.8%*	14 *0.7%*
無職型	271 *28.6%*	277 *27.5%*	548 *28.0%*	90 *10.7%*	101 *11.7%*	191 *11.2%*	77 *8.6%*	80 *8.4%*	157 *8.5%*	47 *4.8%*	49 *4.7%*	96 *4.8%*
合　計	949 *100.0%*	1009 *100.0%*	1958 *100.0%*	843 *100.0%*	865 *100.0%*	1708 *100.0%*	892 *100.0%*	948 *100.0%*	1840 *100.0%*	976 *100.0%*	1040 *100.0%*	2016 *100.0%*

	SQ5.現在のあなたのタイプはどれに最も近いですか		
	女子大	共学大	合　計
勤続型	286 *29.0%*	395 *37.7%*	681 *33.5%*
再参入型	283 *28.7%*	290 *27.7%*	573 *28.2%*
退職型	349 *35.4%*	303 *28.9%*	652 *32.1%*
後半就職型	27 *2.7%*	22 *2.1%*	49 *2.4%*
無職型	41 *4.2%*	38 *3.6%*	79 *3.9%*
合　計	986 *100.0%*	1048 *100.0%*	2034 *100.0%*

SQ6. SQ5で選んだタイプの中で，あなたは現在どの段階にいますか。

			女子大	共学大	合 計
勤続型	Aタイプ	1番	89 *9.0%*	113 *10.8%*	202 *9.9%*
	Bタイプ	2番	7 *0.7%*	16 *1.5%*	23 *1.1%*
		3番	54 *5.5%*	85 *8.1%*	139 *6.8%*
	Cタイプ	4番	10 *1.0%*	7 *0.7%*	17 *0.8%*
		5番	6 *0.6%*	7 *0.7%*	13 *0.6%*
		6番	120 *12.1%*	167 *15.9%*	287 *14.1%*
再参入型	Dタイプ	7番	1 *0.1%*	1 *0.1%*	2 *0.1%*
		8番	1 *0.1%*		1 *0.0%*
		9番	30 *3.0%*	18 *1.7%*	48 *2.4%*
		10番	97 *9.8%*	98 *9.4%*	195 *9.6%*
	Eタイプ	11番	2 *0.2%*	3 *0.3%*	5 *0.2%*
		12番		3 *0.3%*	3 *0.1%*
		13番	42 *4.3%*	38 *3.6%*	80 *3.9%*
		14番	113 *11.4%*	133 *12.7%*	246 *12.1%*
退職型	Fタイプ	15番	3 *0.3%*	1 *0.1%*	4 *0.2%*
		16番	19 *1.9%*	18 *1.7%*	37 *1.8%*
	Gタイプ	17番	2 *0.2%*	1 *0.1%*	3 *0.1%*
		18番	4 *0.4%*	3 *0.3%*	7 *0.3%*
		19番	207 *21.0%*	164 *15.6%*	371 *18.2%*
	Hタイプ	20番	1 *0.1%*	2 *0.2%*	3 *0.1%*
		21番		2 *0.2%*	2 *0.1%*
		22番	112 *11.3%*	108 *10.3%*	220 *10.8%*
後半就職型	Iタイプ	23番			
		24番		2 *0.2%*	2 *0.1%*
		25番	6 *0.6%*	5 *0.5%*	11 *0.5%*
	Jタイプ	26番			
		27番	1 *0.1%*		1 *0.0%*
		28番	1 *0.1%*	4 *0.4%*	5 *0.2%*
		29番	20 *2.0%*	11 *1.0%*	31 *1.5%*
無職型	Kタイプ	30番		1 *0.1%*	1 *0.0%*
		31番	1 *0.1%*	1 *0.1%*	2 *0.1%*
	Lタイプ	32番	1 *0.1%*	1 *0.1%*	2 *0.1%*
		33番	2 *0.2%*		2 *0.1%*
		34番	36 *3.6%*	35 *3.3%*	71 *3.5%*
合 計			988 *100.0%*	1048 *100.0%*	2036 *100.0%*

Q8. 大学時代からこれまでをふりかえって，次のような点についてどの程度満足しておられますか。

	A. これまでの自分のライフコース			B. 現在の自分		
	女子大	共学大	合 計	女子大	共学大	合 計
1. 満 足	224 *22.6%*	250 *23.9%*	474 *23.2%*	208 *21.1%*	237 *22.7%*	445 *21.9%*
2. やや満足	473 *47.7%*	503 *48.0%*	976 *47.9%*	453 *45.9%*	502 *48.1%*	955 *47.0%*
3. やや不満	246 *24.8%*	257 *24.5%*	503 *24.7%*	280 *28.3%*	258 *24.7%*	538 *26.5%*
4. 不 満	49 *4.9%*	37 *3.5%*	86 *4.2%*	47 *4.8%*	46 *4.4%*	93 *4.6%*
合 計	992 *100.0%*	1047 *100.0%*	2039 *100.0%*	988 *100.0%*	1043 *100.0%*	2031 *100.0%*
平 均	2.12	2.08	2.10	2.17	2.11	2.14
標準偏差	0.81	0.79	0.80	0.81	0.80	0.81
t検定(t値)	1.232			1.670		

第Ⅰ部　引用・参考文献

（注）関係発表論文・学会発表などを除く。

青井和夫編著　1988　「高学歴女性のライフコース　――津田塾大学出身者の世代間比較――」　勁草書房

遠藤辰雄・井上祥治・蘭千尋（編）　1992　「セルフエスティームの心理学：自己価値の探求」　ナカニシヤ出版

伊藤裕子・江原由美子・川浦康至　1996　「性差意識の形成環境に関する研究　――性差に関連する文化の形成および教育効果に関わって――」　東京女性財団

柏木惠子　1980　「東京女子大学卒業生の生活と意見　――1978年「大学卒業後の諸活動と意識に関する調査」報告――」　東京女子大学比較文化研究所

牧野カツコ　1995　「教育における性差別」　柏木惠子・高橋惠子（編）　発達心理学とフェミニズム　ミネルヴァ書房　247～271頁

牧野暢男・村松幹子　1994　「卒業生の大学評価　――日本女子大学教育学科の事例――」　日本女子大学紀要　人間社会学部　第4号　249～260頁

村松幹子　1997　キャリア形成途上段階女性の雇用市場退出と一時退出の判別――ライフコース（展望）の視点から　教育社会学研究　第61号　103～122頁

日本女子大学女子教育研究所　1968　「女子の生涯教育」　国土社

東京女子大学・比較文化研究所　1988　「大学卒業後の諸活動と意識に関する調査」

渡邊惠子　1996　「青年期後期における性役割の認知と自尊心」　日本女子大学紀要　人間社会学部　第6号　145～159頁

第Ⅱ部　引用・参考文献

柏木惠子（編）　1997　結婚・家族の心理学　ミネルヴァ書房

柏木惠子・高橋惠子（編）　1995　発達心理学とフェミニズム　ミネルヴァ書房

牧野カツコ　1995　教育における性差別　柏木惠子・高橋惠子（編）　発達心理学とフェミニズム　ミネルヴァ書房　247～271頁

岡本・平田・岩重（編著）　1998　人間生活学　北大路書房

関係発表論文・学会発表など

小林多寿子・村松幹子　1998　「大学卒業後の生活・意識と大学評価に関する調査報告書(1)　日本女子大学卒業生の調査から――」　日本女子大学総合研究所

牧野暢男　1997　女子大学の将来展望に関する総合的調査研究　第2回総合研究所　研究発表会

1998　女子大学の将来展望に関する総合的調査研究　日本女子大学総合研究所紀要　第4号　3～11頁

1998　日本発達心理学会第9回大会　ミニ・シンポジウム「女性の生涯発達にとって大学教育はどのような意味を持つか」　シンポジスト

村松幹子　1997　日本女子大学卒業生による大学教育の評価　日本女子大学総合研究所ニュース　第3号　26～35頁

渡邊惠子　1998　日本発達心理学会第9回大会　ミニ・シンポジウム「女性の生涯発達にとって大学教育はどのような意味を持つか」　企画・司会

1998　女性は大学で何を学ぶか　発達　76　33～40頁　ミネルヴァ書房（本報告書第Ⅱ部再録）

第Ⅰ部　執筆分担

はじめに	渡邊惠子
Ⅰ．調査目的	渡邊惠子
Ⅱ．調査方法	渡邊惠子
Ⅲ．調査結果	
1．生　活	村松幹子・中村三緒子
2．生活意識	増田節子・渡邊惠子
3．大学評価	牧野暢男
4．要　約	渡邊惠子
おわりに	渡邊惠子

［付記１］　第Ⅰ部・Ⅲ．調査結果・３．大学評価は，1997 年 12 月 6 日に開催された，第２回総合研究所研究発表会における牧野暢男による発表（総合研究所ニュース　第４号に掲載），および日本発達心理学会第９回大会ミニ・シンポジウム（1998 年３月）における牧野暢男による発表に加筆したものである。

［付記２］　本調査の実施（質問紙の具体的設計・印刷・サンプル抽出・郵送の手配など）およびデータのインプットに関しては，村松幹子が全面的に責任をもって行った。やっかいな大量のデータ・インプットについては，早稲田大学大学院教育学研究科修士課程修了・遠藤丈広さんに全面的にご協力いただいた。また，本調査報告書の作成にあたり，教育心理学実験助手の増田節子さん・星名由美さんにデータ・チェック，増田節子さんに検定・分析再チェック・図表作成など全面的にコンピュータ処理をしていただいた。ここに厚くお礼申し上げる。また，各執筆分担者の原稿に，一部全面的に，一部部分的に渡邊が手を入れさせていただいた。ご協力いただいた大学等との約束を守るためであるとともに，一部コンピュータ処理上，問題があったためでもある。これらの点についての責任は，一重に調査部門責任者の渡邊にあり，ここにお詫び申し上げるとともに，本報告書の作成の責任は渡邊にあることをお断りさせていただく。

第Ⅱ部　執筆

大学における女子教育の生涯発達的意義－女性は大学で何を学ぶのか－　　渡邊惠子

［付記］　第Ⅱ部論文は，1998 年 10 月発行の「発達」vol. 76（ミネルヴァ書房）に掲載されたものを，ミネルヴァ書房の了承を得て再録した。

「女子大学の将来展望に関する総合的調査研究」
研究メンバーと役割分担－

氏名	所属	専門	主な役割分担
牧野暢男	教育学科・教授	教育社会学	代表・総括
渡邊惠子	教育学科・教授	教育心理学	1)
村松幹子	教育学科・助手	教育社会学	1)
小林多寿子	現代社会学科・助教授	都市社会論	1)
井上信子	教育学科・助教授	発達心理学	1)
島澤一郎	教育学科・助教授	音楽科教育	1)
真橋美智子	教育学科・助教授	女子教育論	2)
清水賢	教育学科・教授	教育社会学	2)
吉崎静夫	教育学科・教授	教育工学	2)
久保淑子	数物科学科・教授	微分幾何学	2)
杉森長子	文化学科・教授	アメリカ史	3)
岩木秀夫	教育学科・教授	教育社会学	4)
（客員研究員）			
吉田文	放送大学開発センター助教授	教育社会学	3)

（注）主な役割分担の数字は下記を示している。

1) 大学における女子教育の生涯発達的意義と大学評価
2) 女子大学の理念
3) 女子高等教育機関の国際比較
4) 女子の大学への進学動向

大学卒業20年後の女性の生活・生活意識・大学評価に関する調査報告書

——女子大学出身・共学大学出身別分析結果——

発行日：1999（平成11）年7月31日

著　者：代表　牧野暢男

発　行：日本女子大学総合研究所プロジェクト

「女子大学の将来展望に関する総合的調査研究」

〒214－8565　神奈川県川崎市多摩区西生田１－１－１

日本女子大学人間社会学部教育学科研究室

TEL　044-952-6870,　FAX　044-952-6889

印　刷：株式会社　オークカラー

資 料 1. 調 査 票